

厚生労働省「平成27年度生活困窮者就労準備支援事業費等補助金
社会福祉推進事業」

ひきこもりの実態に関する アンケート調査報告書

特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会
2016年3月

目 次

はじめに	1
第一部 追跡調査	3
1. 目的	
2. 調査方法	
3. 結果	
第二部 本人調査	22
1. 目的	
2. 調査方法	
3. 結果	
第三部 家族調査	40
1. 目的	
2. 調査方法	
3. 結果	
第四部 自由記述	66
第五部 全体のまとめ	101
おわりに	106
参考・引用文献	107

資料

図表一覧

第一部 追跡調査

表 1－1	家族回答者が住んでいる場所
図 1－1, 2	家族回答者の続柄
図 1－3, 4	家族回答者の年齢
図 1－5	ひきこもり本人の性別
図 1－6, 7	ひきこもり本人の年齢
図 1－8, 9	ひきこもり本人と家族回答者の同・別居
図 1－10	ひきこもり初発年齢
図 1－11	ひきこもり期間
図 1－12, 13	ひきこもりの程度
図 1－14, 15	外出日数
図 1－16, 17	会話
図 1－18, 19	支援・医療機関の利用状況
図 1－20, 21	利用機関数（本人）
図 1－22, 23	利用機関数（家族）
図 1－24	兄弟姉妹の有無
図 1－25, 26	経済状況の困難
図 1－27, 28	本人との関係
図 1－29, 30	本人以外の家族との関係
図 1－31, 32	本人への対応の自信
図 1－33, 34	望むピアサポーター
図 1－35, 36	ひきこもり経験者から支援を受けた経験
図 1－37, 38	ひきこもり経験者から受けたことのある支援
図 1－39, 40	ひきこもり経験者の家族から支援を受けた経験
図 1－41, 42	ひきこもり経験者の家族から受けたことのある支援
図 1－43, 44	ひきこもり経験者に望む支援
図 1－45, 46	ひきこもり経験者の親に望む支援
図 1－47, 48	ひきこもりサポーターになりたいと思うか

第二部 本人調査

表 2－1	本人回答者が住んでいる場所
図 2－1	本人回答者の年齢

図 2－2	本人回答者の性別
図 2－3	ひきこもりの程度
図 2－4	本人回答者と親の同・別居
図 2－5	ひきこもり初発年齢
図 2－6	ひきこもり期間
図 2－7	支援・医療機関の医療状況
図 2－8	家族について
図 2－9	自分自身について
図 2－10	家庭環境について
図 2－11	家庭外の主な活動の場について
図 2－12	家庭外での主な活動の場で接する人について（１）
図 2－13	家庭外での主な活動の場で接する人について（２）
図 2－14	家庭外での主な活動の場で接する人について（３）
図 2－15	あなた自身について（１）
図 2－16	あなた自身について（２）
図 2－17	あなた自身について（３）

第三部 家族調査

表 3－1	家族回答者が住んでいる場所
図 3－1	家族回答者の続柄
図 3－2	家族回答者の年齢
図 3－3	ひきこもり本人の性別
図 3－4	ひきこもり本人の年齢
図 3－5	ひきこもり本人と家族回答者の同・別居
図 3－6	支部への所属
図 3－7	会話の有無
図 3－8	ひきこもり初発年齢
図 3－9	ひきこもり期間
図 3－10	ひきこもりの程度
図 3－11	活動範囲（１）
図 3－12	活動範囲（２）
図 3－13	活動範囲（３）
図 3－14	外出日数
図 3－15	支援・医療機関の利用状況（本人）
図 3－16	支援・医療機関の利用状況（家族）

図 3－17	家計状況の幸福感
図 3－18	ひきこもり本人との関係の幸福感
図 3－19	家族関係の幸福感
図 3－20	全体的幸福感
図 3－21	生活状況（１）
図 3－22	生活状況（２）
図 3－23	生活状況（３）
図 3－24	生活状況（４）
図 3－25	生活状況（５）
図 3－26	社会参加への困難感の程度
図 3－27	支援・医療機関を利用すると思う程度

はじめに

本報告書の目的は、当会の支部に参加されている家族やひきこもり状態にある人（以下、ご本人）の実態と生活状況を明らかにすることでした。そのために、現在、ご本人自身あるいはご家族の観点からひきこもり状態にある人の生活状況について調査を行いました。

本報告書によって示された知見が、今後のひきこもりの理解と支援の発展の一助となれればと考えております。

本年度の調査では、長期的な変化を調べるために、2年間の追跡調査という初めての試みを行い、101名ものご家族に協力をしていただきました。また、例年の全国的な調査でも、家族362名、ひきこもり経験者89名の協力が得られました。当会では、多くの家族・ひきこもり経験者のご協力をいただき、このような全国規模の調査を13年間に渡って実施しており、他にはない貴重な知見を提供し続けています。

KHJ 全国ひきこもり家族会連合会が毎年調査を続けているということは稀にすばらしいことだと思います。全国的にひきこもりの調査は毎年行われていません。

最後に、本調査の実施にご協力くださった KHJ 全国ひきこもり家族会連合会の各支部の会員の皆様、各支部の代表の方々に心より感謝を申し上げます。ご協力くださった皆様のご厚意を無駄にしないよう、本調査の結果を広く普及、活用していく所存です。

なお、本調査は、厚生労働省の平成27年度生活困窮者就労準備支援事業費等補助金 社会福祉推進事業「ひきこもりに関する新たな家族支援の在り方の構築及びピアサポーター養成研修派遣事業の効果的実施に関する調査研究事業」の助成を受けて実施することができました。ここに記して御礼申し上げます。

平成28年3月吉日

特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会

代表理事 池田佳世

第一部 追跡調査

1. 目的

本調査においては、2013年に実施した「ひきこもりピアサポーターに求める支援について調査」に回答した方の中で追跡調査への協力に同意をした方を対象に同様の項目を用いて追跡調査を実施しました。こうした追跡調査によって、2年間でひきこもり状態の実態がどのように変化しているのかについて検討しました。

2. 調査方法

(1) 調査対象者

2013年の調査（以下、2013調査）はNPO法人全国引きこもり親の会（以下、「親の会」とする）の支部が平成25年11月～平成26年1月に開催した月例会において調査を実施しました。2013調査においては、月例会参加者のうち、調査協力の得られた478名の回答が分析に用いられました。

2013調査の回答者の内、追跡調査の協力に同意した236名（同意率：49.37%）を対象に、2015年5月～7月にかけて郵送による追跡調査を実施しました（以下、2015調査）。その結果、101名（回答率：42.80%）から回答が得られました。

(2) 調査内容（注：調査内容の詳細は、巻末の資料を参照してください）

①基礎情報 家族調査に回答した方（以下、家族回答者）及び、ひきこもり状態にある人（以下、ひきこもり本人）に関する以下の情報について回答を求めました。

- ・家族回答者が住んでいる都道府県
- ・家族回答者とひきこもり本人との続柄
- ・家族回答者の年齢
- ・ひきこもり本人の性別
- ・ひきこもり本人の年齢
- ・ひきこもり本人と家族回答者の同・別居
- ・ひきこもりの期間
- ・ひきこもりの程度
- ・ひきこもり本人の1ヶ月の外出日数
- ・家族回答者とひきこもり本人との会話
- ・ひきこもり本人の相談機関利用状況
- ・ひきこもり本人の兄弟姉妹の有無
- ・経済の困難度
- ・本人との関係の困難度
- ・対応の自信

②ひきこもりピアサポーターについて

- ・どのような人からのピアサポートを望むか
- ・ひきこもり経験者から受けた支援
- ・ひきこもり経験者の家族から受けた支援
- ・ひきこもり経験者からのピアサポートでしてほしい支援

- ・ひきこもり経験者の親からのピアサポートでしてほしい支援
- ・ひきこもりピアサポーターになることを望むか

（３）調査手続き

2013 調査においては、調査の趣旨に関する文書を読んだ上で、調査協力に同意された方のみが調査用紙に回答をしました。調査の趣旨に関する文書は、調査用紙から切り離して、持ち帰ってもらいました。ほとんどの回答者には、月例会において調査用紙を配布し、その場で回収をしました。しかし、各支部の運営上の問題から、後日記入の上で持参したものを回収した回答者もいました。

2015 調査においては、2013 調査への回答時に記入していただいた郵送先に、調査用紙を郵送し、調査用紙を受け取ってから 2 週間をめぐりに返信用封筒で郵送してもらう方法で調査用紙を回収しました。また、調査用紙の郵送の際には、無地の茶封筒を使い、調査協力に同意してくださったご家族以外が受け取っても調査の趣旨が漏洩しないよう配慮しました。

3. 結果

(1) 家族回答者が住んでいる場所

表1-1 家族回答者が住んでいる場所

地方	都道府県	人数	地方	都道府県	人数
東北地方	山形県	1	近畿地方	三重県	1
	岩手県	1	中国地方	広島県	4
	北海道	4		岡山県	3
北陸地方	新潟県	4		山口県	2
	富山県	2	四国地方	愛媛県	4
	石川県	4		香川県	2
関東地方	千葉県	5		高知県	5
	埼玉県	5	九州地方	福岡県	4
	東京都	2		宮崎県	2
	神奈川県	3		大分県	4
	群馬県	1		鹿児島県	2
東海地方	栃木県	5		佐賀県	1
	愛知県	14	不明		2
	岐阜県	2	合計		101
	静岡県	12			

表1-1に示したとおり、家族回答者が住んでいる場所は30都道府県に分布しています。各地方の割合としては、北海道・東北地方が6%、北陸地方が9.9%、関東地方が20.7%、東海地方が27.7%、近畿地方が0.9%、中国地方が8.9%、四国地方が10.8%、九州地方が12.8%となっています。

(2) 家族回答者とひきこもり本人との続柄

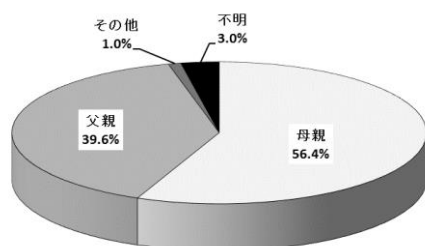


図1-1 家族回答者の続柄(2013)

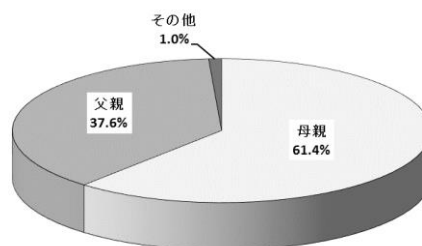


図1-2 家族回答者の続柄(2015)

ひきこもり本人と家族回答者の続柄は、2013年においては、母親が56.4%、父親が39.6%、その他が1.0%、不明が3.0%でした。2015年においては、母親が61.4%、父親が37.6%、その他が1.0%でした。その他としては、姉、妻、義理の姉などが見られました。2013年と比較して母親の割合が若干増加しています。

(3) 家族回答者の年齢

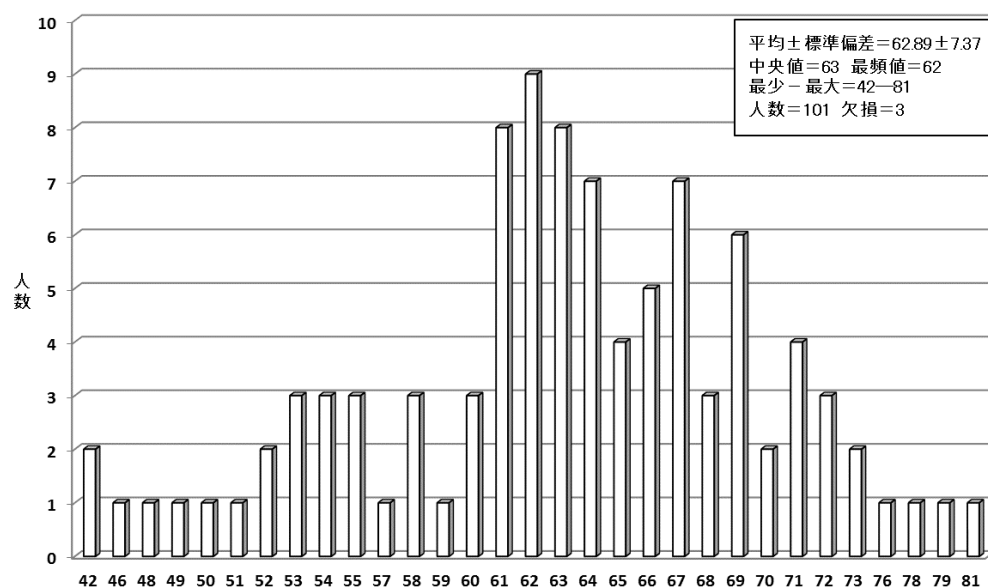


図1-3 家族回答者の年齢(2013)

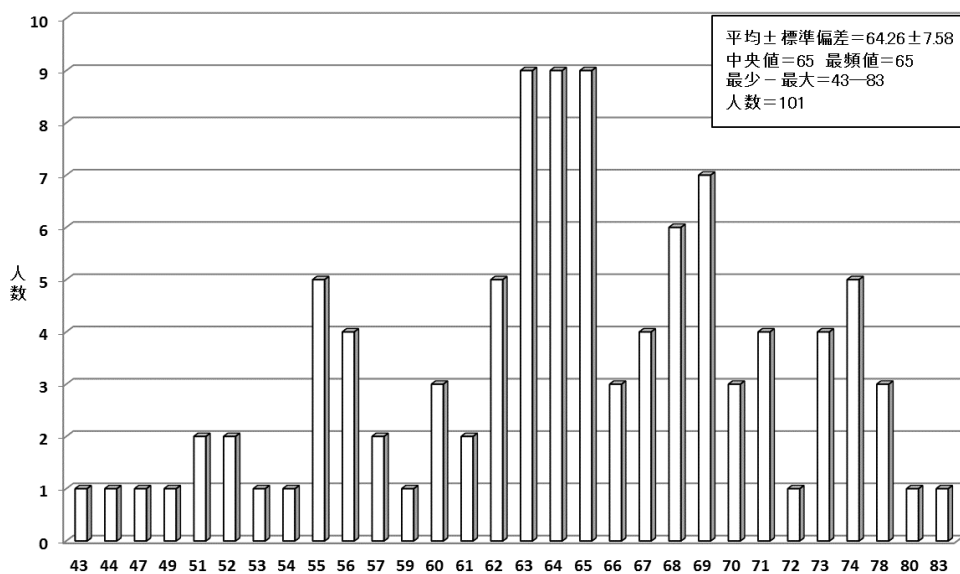


図1-4 家族回答者の年齢(2015)

家族回答者の年齢を図1-3, 4に示します。2013年では、家族回答者の平均年齢は62.89歳であり、最年少が42歳、最年長が81歳でした。2015年では、家族回答者の平均年齢は64.26歳であり、最年少が43歳、最年長が83歳でした。2年経過した家族回答者の年齢も上昇しています。

(4) ひきこもり本人の性別

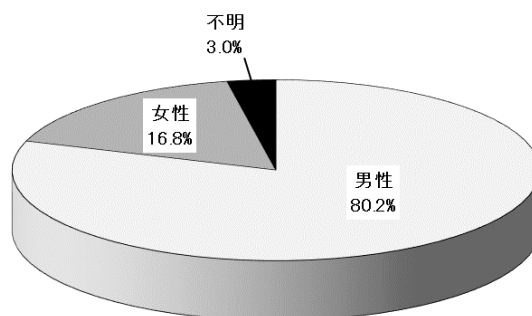


図1-5 ひきこもり本人の性別(2013)

ひきこもり本人の性別については、2013年に調査した結果を示します。男性が80.2%、女性が16.8%でした。男性が多いことはいずれの調査でも一貫している傾向です。

(5) ひきこもり本人の年齢

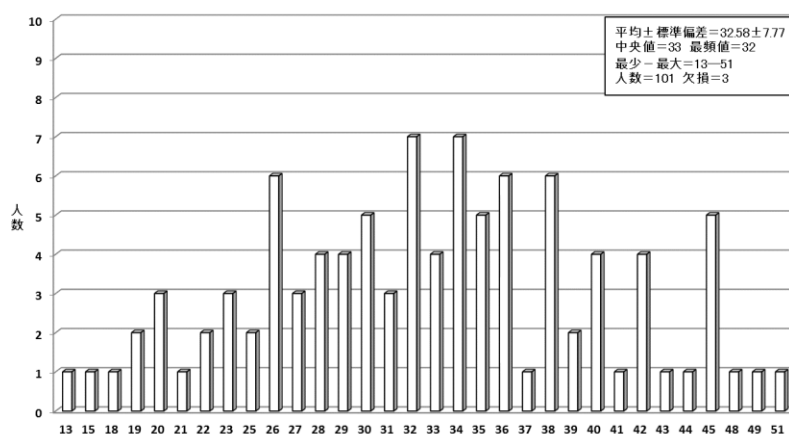


図1-6 ひきこもり本人の年齢(2013)

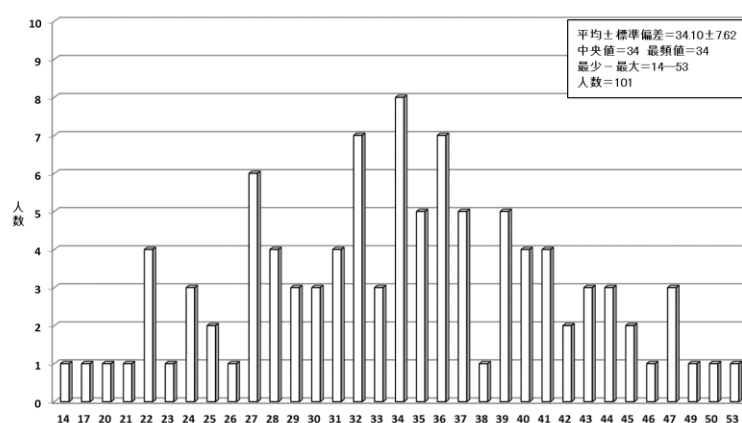


図1-7 ひきこもり本人の年齢(2015)

ひきこもり本人の年齢は、2013年では平均32.58歳であり、最年少が13歳、最年長が51歳でした。2015年では、平均34.10歳であり、最年少が14歳、最年長が53歳でした。こちらも時間の経過によって年齢が上昇しています。

(6) ひきこもり本人と家族回答者の同別居

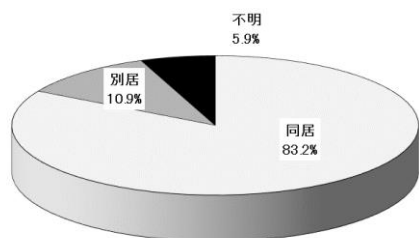


図1-8 ひきこもり本人と家族回答者の同・別居(2013)

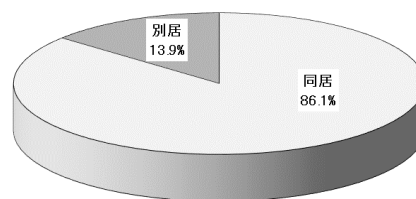


図1-9 ひきこもり本人と家族回答者の同・別居(2015)

図1-8, 9に示すように、ひきこもり本人と家族回答者の同別居に関しては、2013年では同居している人が83.2%、2015年では同居している人が86.1%でした。2013年調査では不明があるため正確な推移は把握できませんが、同居の割合が時間の経過とともに更に上昇しているといえます。

(7) ひきこもりの初発年齢

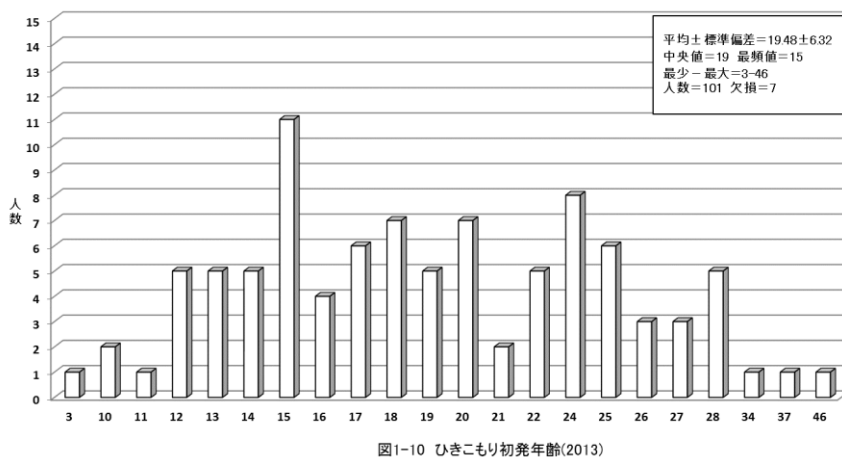


図1-10 ひきこもり初発年齢(2013)

ひきこもりが始まった時期については、2013年調査の結果を示しています。図1-10に示すとおり、平均年齢は19.48歳、最年少が3歳、最年長が46歳でした。中学校に入る12歳から20歳代までがひきこもりが生じやすい時期

であることがわかります。

(8) ひきこもり期間

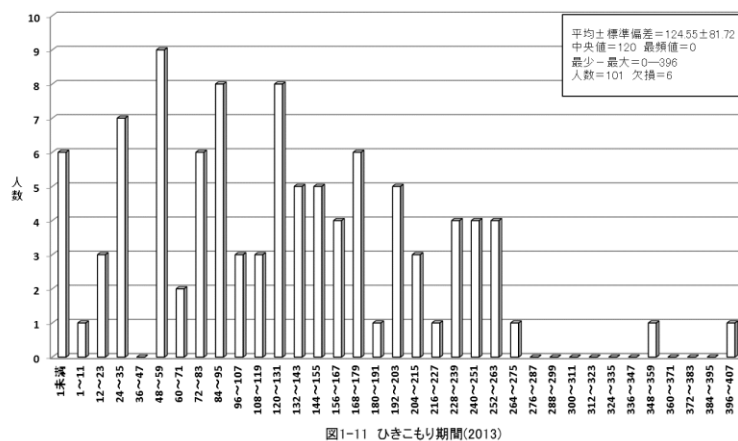


図1-11 ひきこもり期間(2013)

ひきこもり期間については、2013年調査の結果を示しています。図1-11に示すとおり、平均124.55ヶ月、最少が0ヶ月、最大は396ヶ月でした。

(9) ひきこもりの程度

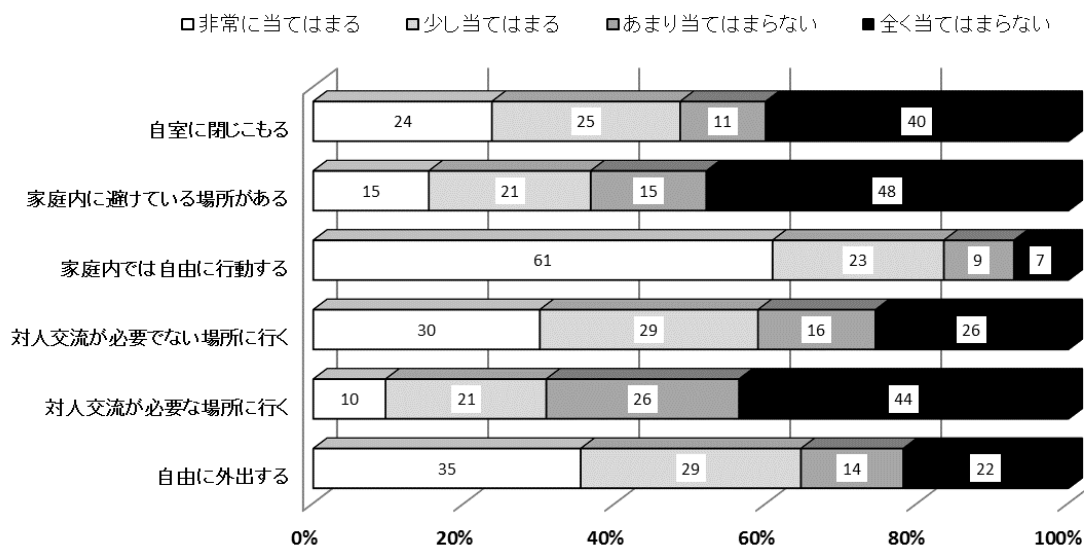


図1-12 ひきこもりの程度(2013)

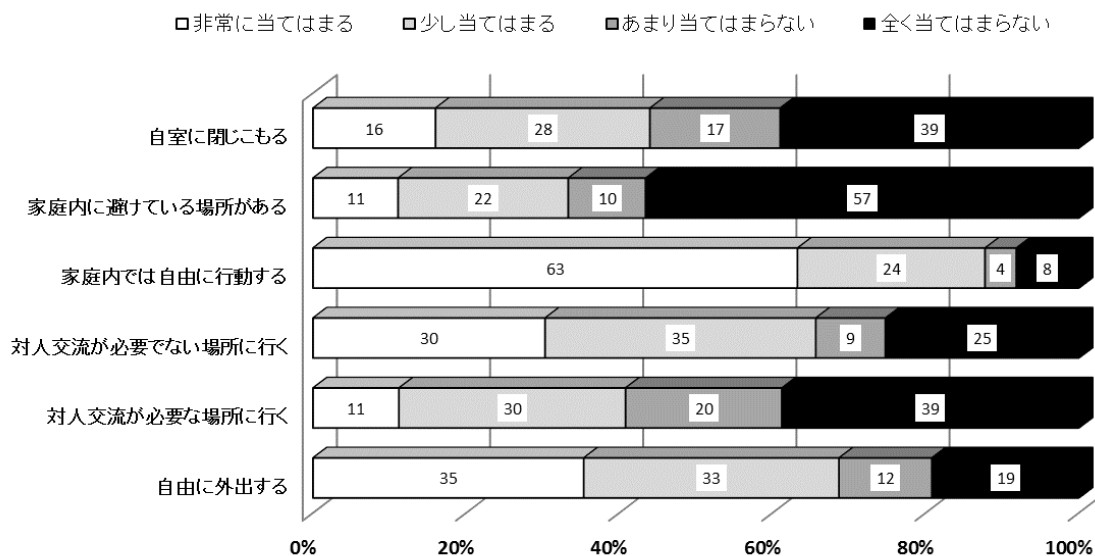


図1-13 ひきこもりの程度(2015)

ひきこもりの程度については、2013年調査において家庭内では自由に行動し、外出を自由にする方、対人交流が必要ない場所へ行く方が多いと言えます。しかし、自室に閉じこもる傾向にある方が半数に上り、本人調査の回答者よりも深刻なひきこもり状態にあると言えます。2015年調査でもこの傾向に大きな変化は認められません。

(10) 1か月の外出日数

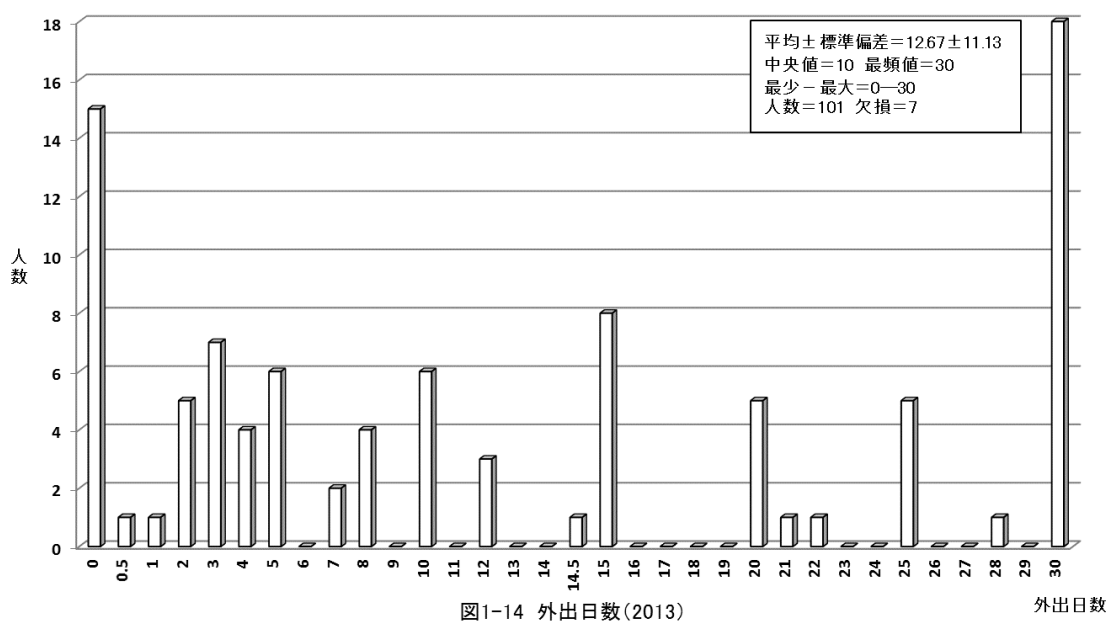


図1-14 外出日数(2013)

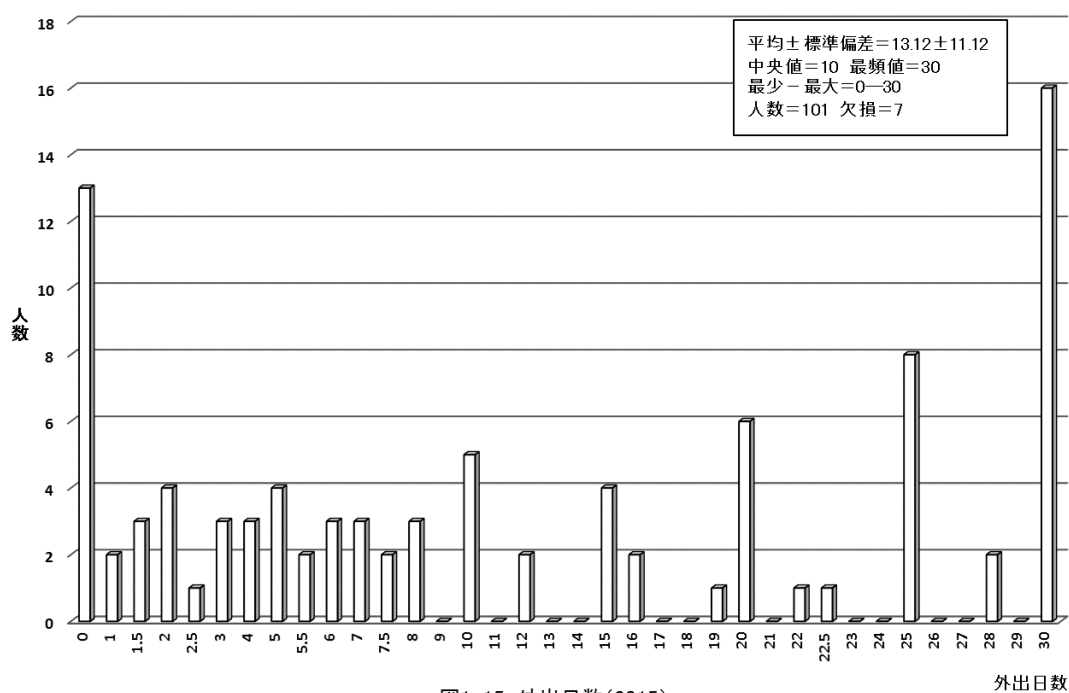


図1-15 外出日数(2015)

図1-14, 15 から, まったく外出しない方と, ほとんど毎日外出する方に分かれる傾向にあることが伺えます。外出をほとんどしないケースが半数近くを占めることがわかります。こうした傾向は2013年調査, 2015年調査で大きな変化がないといえます。

(11) 家族回答者とひきこもり本人との会話

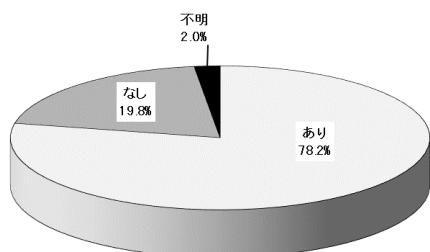


図1-16 会話(2013)

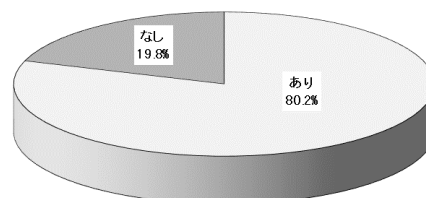


図1-17 会話(2015)

図1-16, 17 から、おおよそ8割のご家庭でご本人との会話があることが分かりました。2013年調査と2015年調査で割合にほとんど変化が認められません。

(12) 支援・医療機関の利用

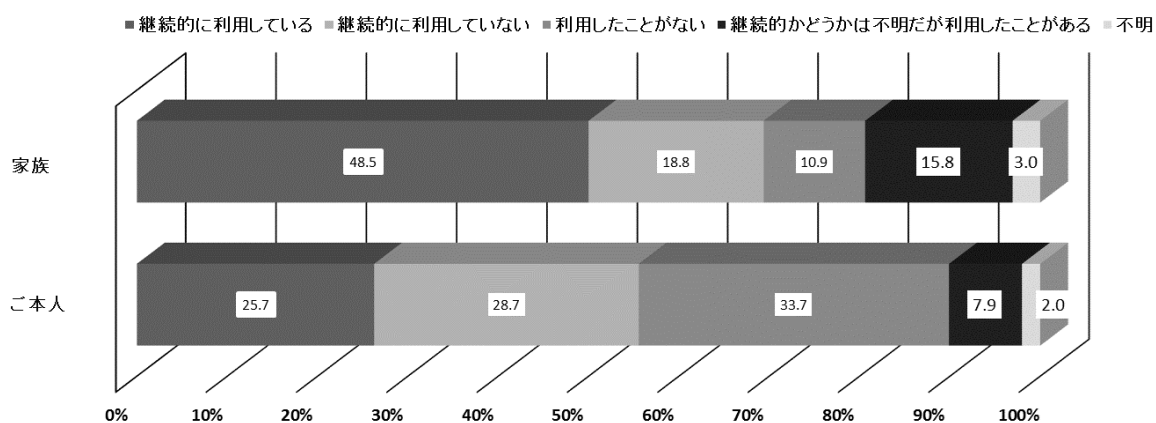


図1-18 支援・医療機関の利用状況(2013)

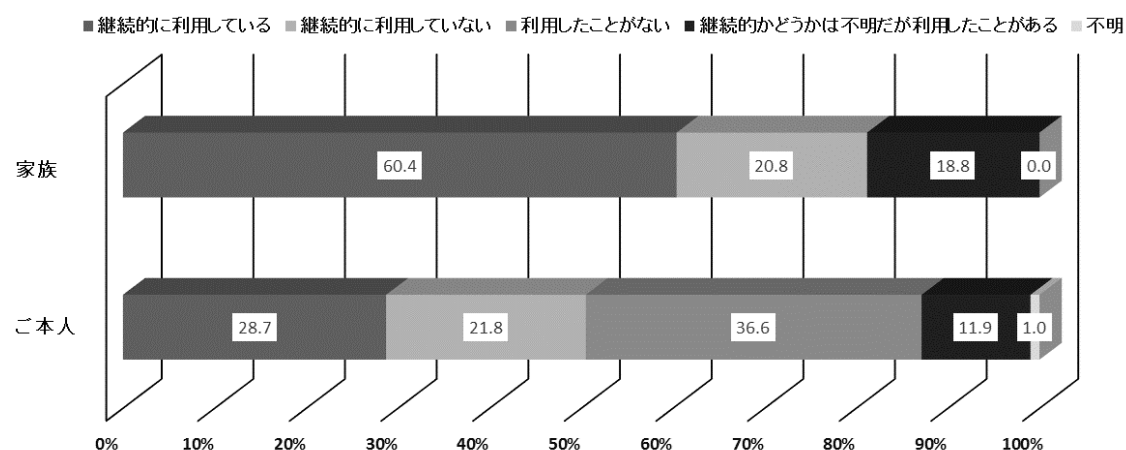
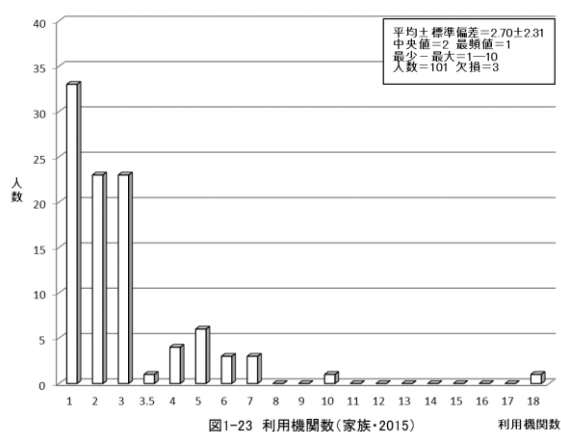
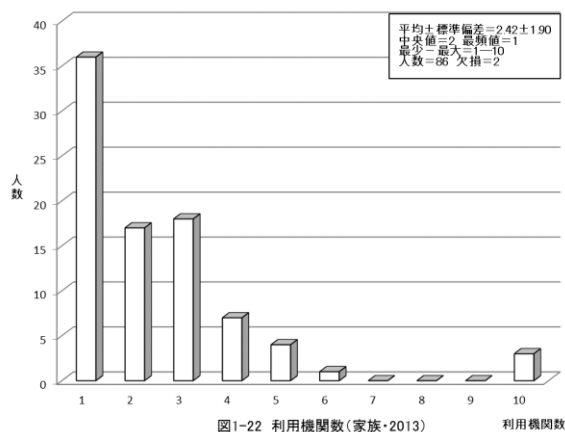
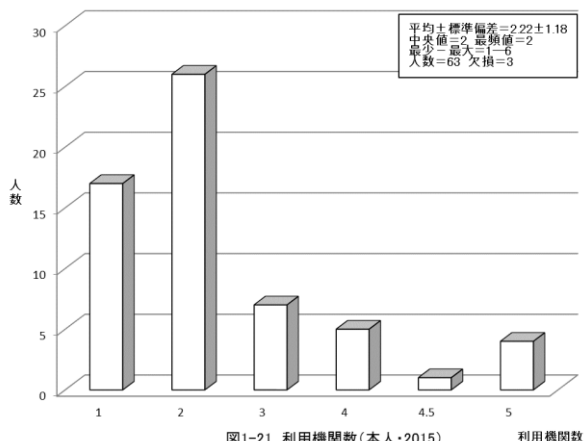
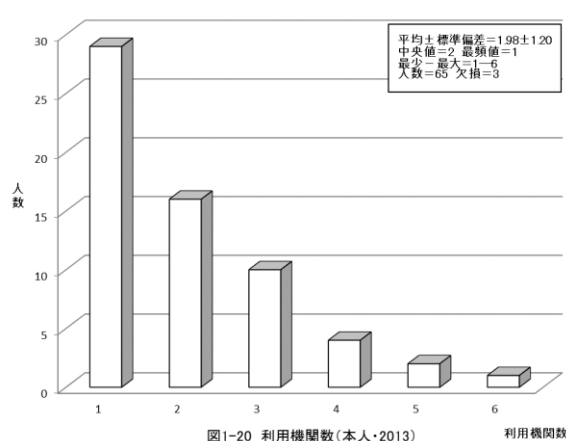


図1-19 支援・医療機関の利用状況(2015)

図1-18, 19から、2013年においてご本人の支援・医療機関の利用は、継続的に利用している人が25.7%, 過去に利用したことのある人が28.7%, 利用したことのない人が33.7%となっています。2015年においてご本人の支援・医療機関の利用は、継続的に利用している人が28.7%, 過去に利用したことのある人が21.8%, 利用したことのない人が36.6%となっています。このことから、ひきこもり本人の相談機関の利用状況には大きな変化がないものといえます。

家族回答者の支援・医療機関の利用は、2013年において継続的に利用している家族が48.5%, 過去に利用した事のある家族が18.8%, 利用したことのない家族が10.9%, 2015年において継続的に利用している家族が60.4%, 過去に利用して事のある家族が20.8%, 利用したことのない家族が18.8%となっており、家族回答者の多くが支援・医療機関を利用していることが分かります。このことから2年が経過する中で家族の相談機関の利用は増加していることがわかります。



また、図1-20, 22から2013年では、支援・医療機関を利用したことがあると回答した方のうち、ご本人の約5%, 家族の約9%が5か所以上の機関を利用したことがあると分かりました。図1-21, 23から2015年では、支援・医療機関を利用したことがあると回答した方のうち、ご本人の約7%, 家族の約14%が5か所以上の機関を利用したことがあると分かりました。このことから多くの相談機関を利用している人の割合が増えていますが、継続的な相談は家族のみが増加しており、ひきこもり本人の継続的利用は増加していないといえます。

(13) 兄弟姉妹の有無

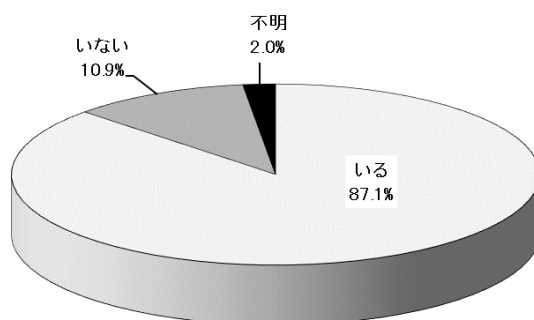


図1-24 兄弟姉妹の有無(2013)

図1-24 から、ほとんどの方に兄弟姉妹がいることが分かります。

(14) 経済状況

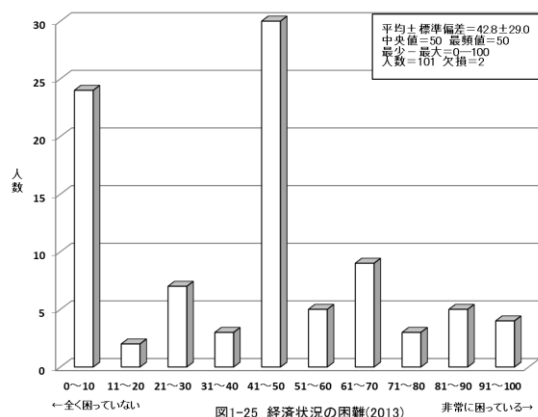


図1-25 経済状況の困難(2013)

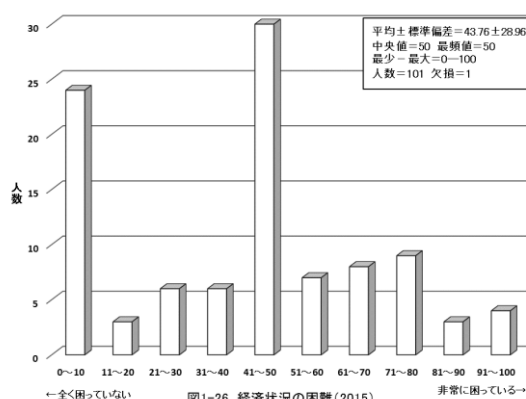


図1-26 経済状況の困難(2015)

図1-25, 26 から、家族回答者の約 60%が経済状況の困難度が 41 以上であると答えました。この傾向は、2013 年調査と 2015 年調査でほぼ一致します。しかし、困難度が 50 点以上の人が増加しており、2 年経過することで経済的な困難度が高まる傾向にあるといいます。

(15) ひきこもり本人との関係

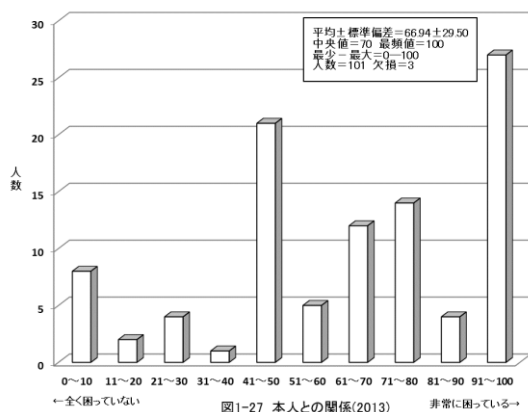


図1-27 本人との関係(2013)

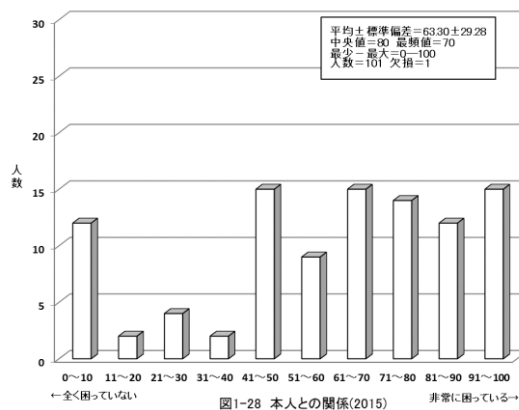


図1-28 本人との関係(2015)

本人との関係は、2013 年においては家族回答者の約 27%が 90 以上の困難度であると回答しました。2015 年においては家族回答者の約 15%が 90 以上の困難度であると回答しました。このことから極めて困難な状態にある事例は減少しているといえます。しかし、半数以上の家族回答者が本人との関係との困難度を 50 以上に評価しており、本人との関係に困難を抱えている家族回答者が大半であることがわかります。

(16) ひきこもり本人以外の家族との関係

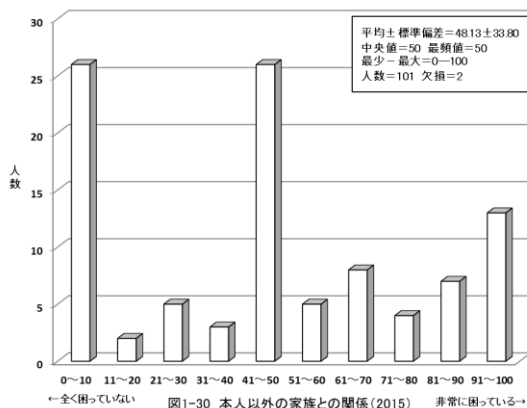
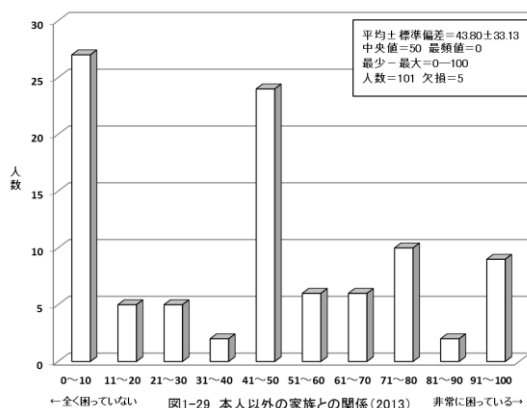


図1-29 から、2013 年において約 9%の家族回答者が、本人以外の家族との関係の困難度を 90 以上であると回答しました。図1-30 から、2015 年において約 13%の家族回答者が、本人以外の家族との関係の困難度を 90 以上であると回答しました。2013 年調査、2015 年調査のいずれにおいても、ひきこもり本人以外との関係においては、強い困難を抱えている人は少数であると言えます。

(17) ひきこもり本人への対応の自信

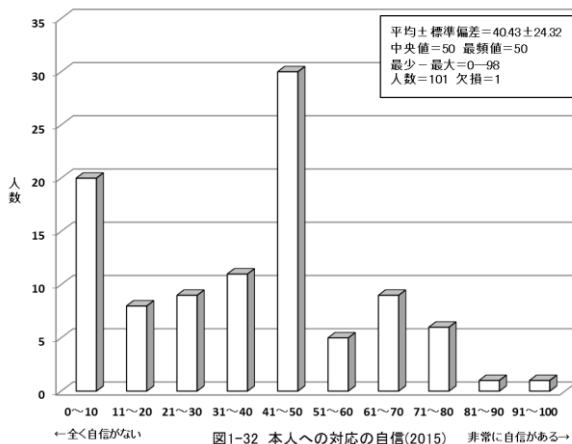
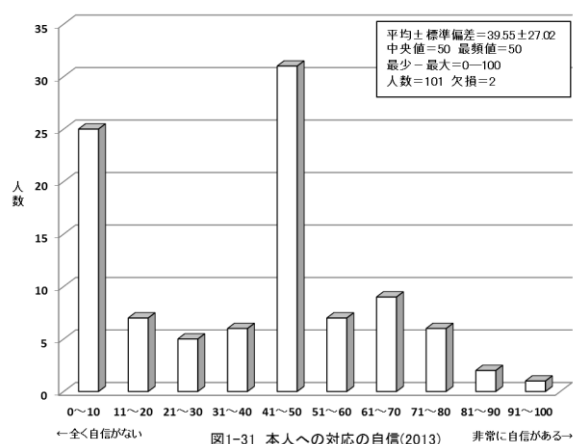


図1-31 から 2013 年調査においては、家族回答者の約 25%が本人への対応の自信について 10 以下であると回答しました。図1-32 から 2015 年調査においては、家族回答者の約 20%が、本人への対応の自信について 10 以下であると回答しました。一方で、2013 年

調査、2015年調査のいずれにおいても、自信があると答えた方はほとんどおらず、ひきこもり本人にどう対応したらよいのかが分からず、自信を失っている家族がほとんどであると言えます。

(18) ピアサポートを受けたい人

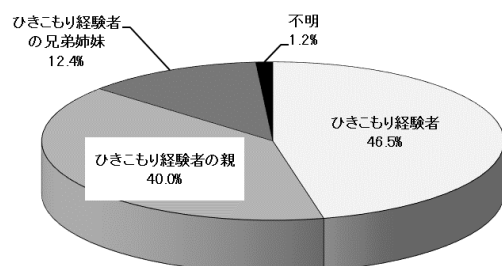


図1-33 望むピアサポーター(2013)

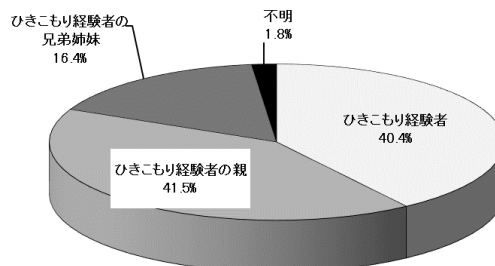


図1-34 望むピアサポーター(2015)

図1-33から2013年調査では、ひきこもり経験者のピアサポートを受けたい家族回答者が46.5%、ひきこもり経験者の親のピアサポートを受けたい家族回答者が40.0%であることが分かります。図1-34から2015年調査では、ひきこもり経験者のピアサポートを受けたい家族回答者が40.4%、ひきこもり経験者の親のピアサポートを受けたい家族回答者が41.5%であることが分かります。2年が経過する中で、ひきこもり経験者からサポートを受けたいと思う家族回答者が減少していることがわかります。一方で、ひきこもり経験者の親からのサポートを受けたいという家族回答者が増加していることがわかります。

(19) ひきこもり経験者からの支援

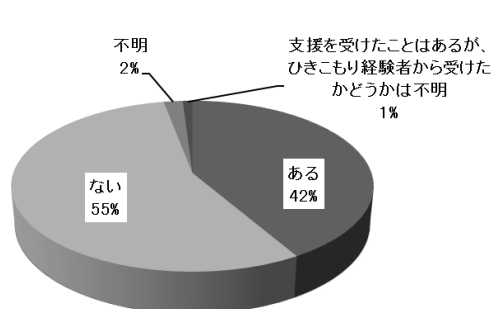


図1-35 ひきこもり経験者から支援を受けた経験(2013)

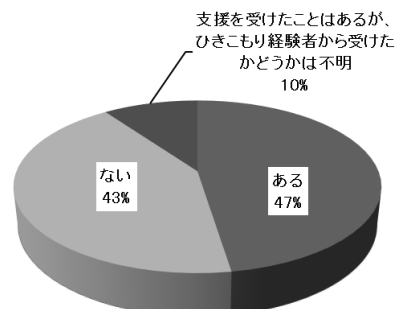


図1-36 ひきこもり経験者から支援を受けた経験(2015)

2013年調査では、家族回答者の42%がひきこもり経験者からの支援を受けたことがわかりました。2015年では、家族回答者の47%がひきこもり経験者からの支援を受けたことがわかりました。このことから、2年が経過する中でひきこもり経験者からサポートを受けた家族回答者が増加していると言えます。こうした結果が、ひきこもり経験者からサポート受けたいという家族回答者が減少した結果に影響を与えている可能性があります。

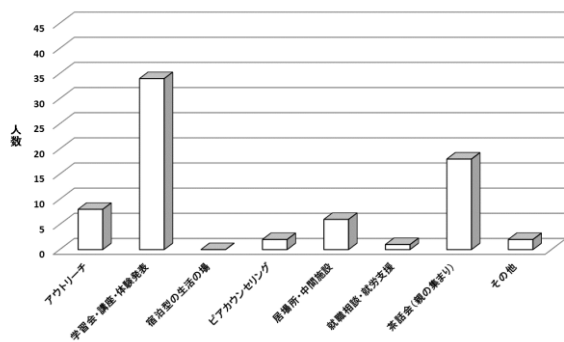


図1-37 ひきこもり経験者から受けたことのある支援(2013)

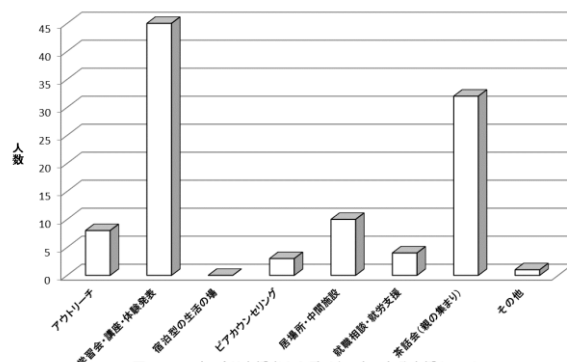


図1-38 ひきこもり支援者から受けたことのある支援(2015)

ひきこもり経験者から受けたことのある支援は、2013年と2015年ともに、学習会・講座・体験発表と、茶話会（親の集まり）が多いことが分かります。特に、学習会・講座・体験発表と、茶話会（親の集まり）でひきこもり経験者から支援を受けた家族回答者が2015年調査で増加しているといえます。

(20) ひきこもり経験者の家族から受けたことのある支援

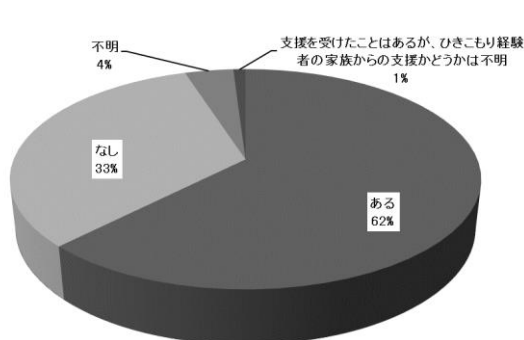


図1-39 ひきこもり経験者の家族から支援を受けた経験(2013)

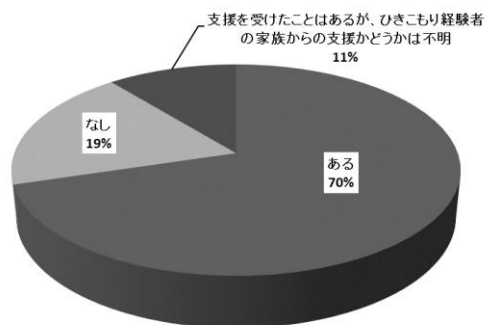


図1-40 ひきこもり経験者の家族から支援を受けた経験(2015)

図1-39から、2013年では家族回答者の62%がひきこもり経験者の家族から支援を受けたことがあることが分かります。図1-40から、2015年では家族回答者の70%がひきこもり経験者の家族から支援を受けたことがあることが分かります。この結果から、2年外経過する中で家族から支援を受けた家族回答者が増加しているといえます。

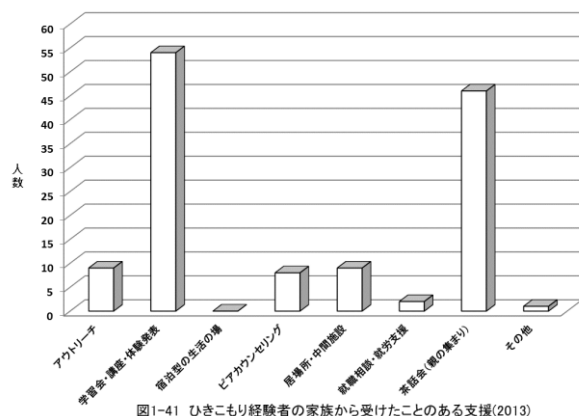


図1-41 ひきこもり経験者の家族から受けたことのある支援(2013)

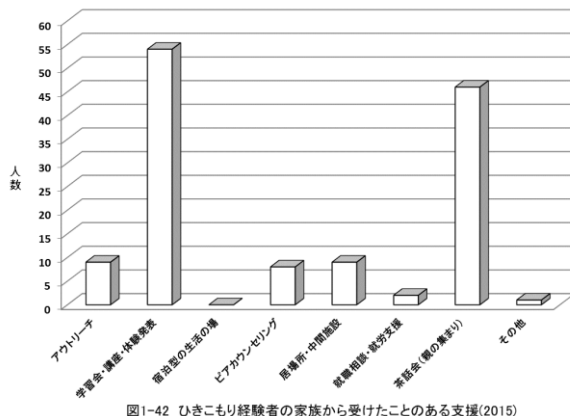


図1-42 ひきこもり経験者の家族から受けたことのある支援(2015)

ひきこもり経験者の家族から受けたことのある支援は、2013 年と 2015 年ともに学習会・講座・体験発表や、茶話会（親の集まり）であることが分かります。親がピアサポートを受ける場として、学習会や茶話会などが中心になっていると言えます。この傾向に 2013 年調査と 2015 年調査でほとんど変化は認められません。

(21) ひきこもり経験者に望む支援

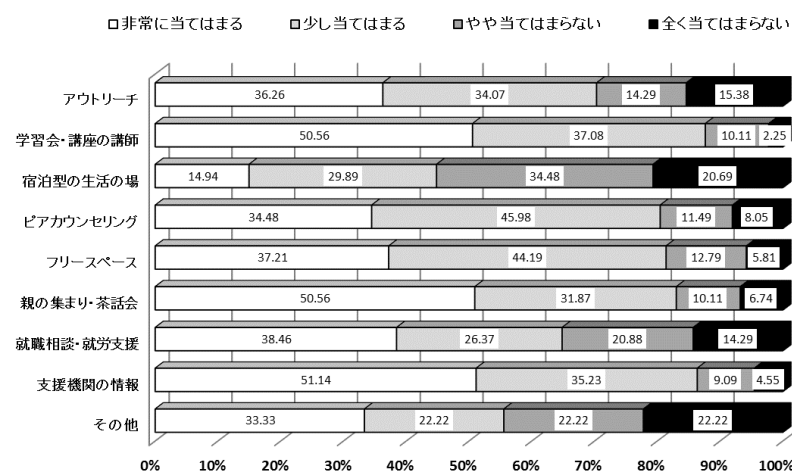


図1-43 ひきこもり経験者に望む支援(2013)

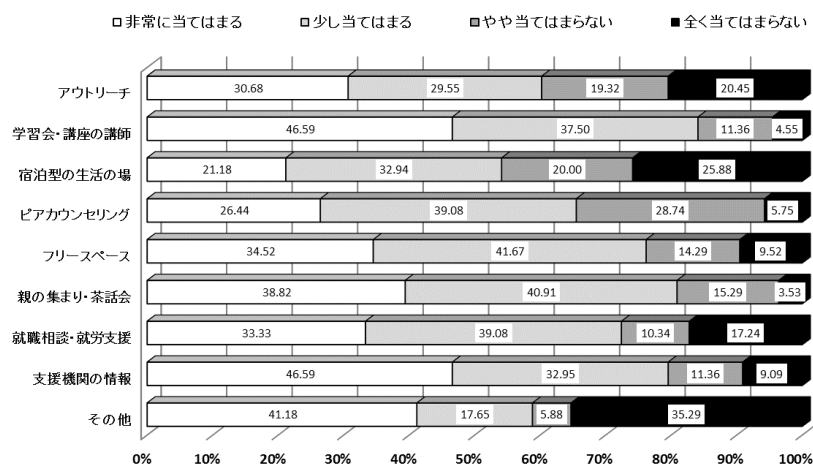


図1-44 ひきこもり経験者に望む支援(2015)

図1-43, 44 から、2013 年と 2015 年ともに、ひきこもり経験者に望む支援は、支援機関の情報や学習会・講座の講師、親の集まり・茶話会、フリースペースなど、多岐に渡ることが分かります。ピアカウンセリングの希望は 2013 年調査から 2015 年調査にかけて減少している傾向が伺えます。

(22) ひきこもり経験者の親に望む支援

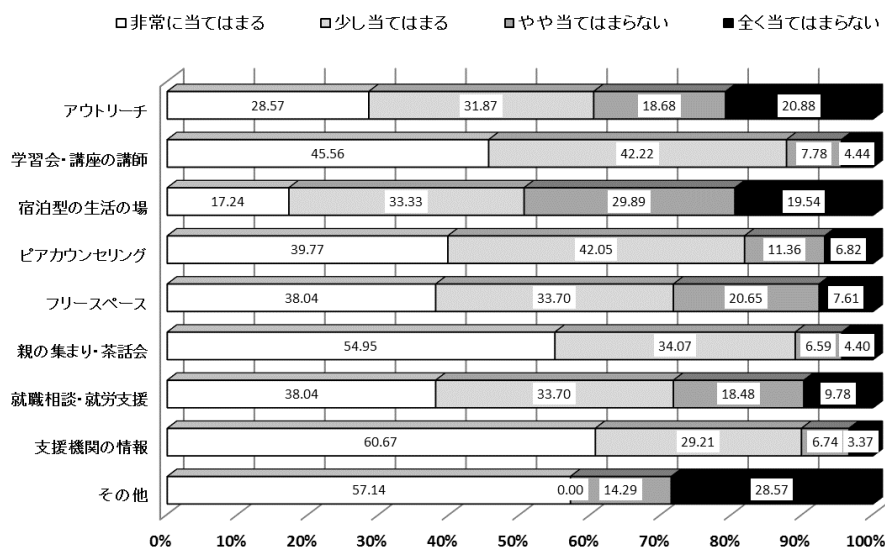


図1-45 ひきこもり経験者の親に望む支援(2013)

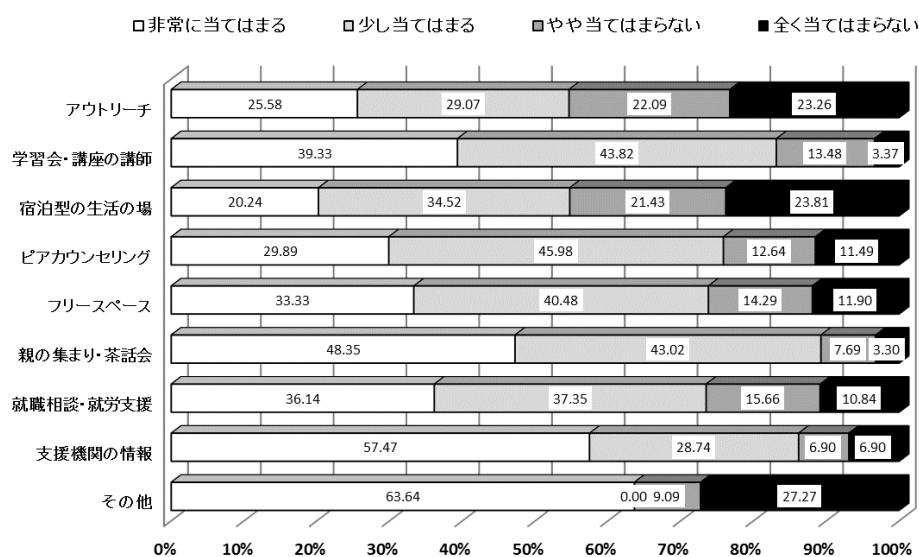


図1-46 ひきこもり経験者の親に望む支援(2015)

図1-45, 46 から、2013 年と 2015 年ともに、ひきこもり経験者の親に望む支援は、支援機関の情報や学習会・講座の講師、親の集まり・茶話会を多くの人が望んでいることが分かります。親が家族に行うピアサポートとしては、この3つに重点を置くことが効果的であると考えられます。ただし、その他を望んでいる人も非常に多いため、本調査では含まれていない支援でひきこもり経験者の親に望む支援について検討していく必要があります。

(23) ひきこもりサポーターになりたいか

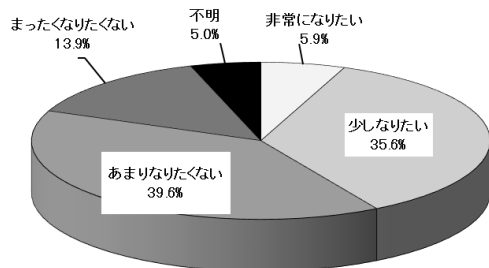


図1-47 ひきこもりサポーターになりたいと思うか(2013)

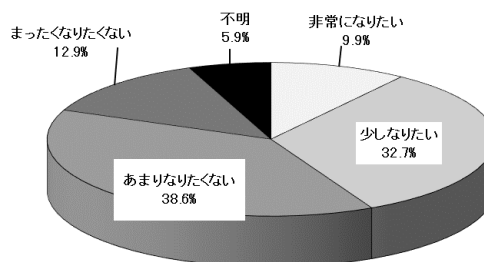


図1-48 ひきこもりサポーターになりたいと思うか(2015)

2013 年において、ひきこもりサポーターに非常になりたいと回答した家族回答者が 5.9%、少しなりたいと回答した家族回答者が 35.6%、あまりなりたくないと回答した家族回答者が 39.6%、まったくなりたくないと回答した家族回答者が 13.9%でした。2015 年において、ひきこもりサポーターに非常になりたいと回答した家族回答者が 9.9%、少しなりたいと回答した家族回答者が 32.7%、あまりなりたくないと回答した家族回答者が 38.6%、まったくなりたくないと回答した家族回答者が 12.9%でした。ピアサポーターになりたいか否かについては、2013 年調査と 2015 年調査でほぼ同じ傾向であるといえます。

第二部 本人調査

1. 目的

本調査においては、ひきこもりの実態およびひきこもり状態にある人の生活状況について調査を実施しました。

2. 調査方法

(1) 調査対象者

特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会（以下、「家族会」とする）の支部が平成 27 年 11 月～平成 28 年 1 月に開催した月例会において調査を実施しました。月例会参加者のうち、調査協力の得られた 89 名の回答が分析に用いられました。

(2) 調査内容（注：調査内容の詳細は、巻末の資料を参照してください）

①基礎情報 本人調査に回答した方（以下、本人回答者）及び、ひきこもり状態にある人（以下、ひきこもり本人）に関する以下の情報について回答を求めました。

- ・現在住んでいる都道府県
- ・年齢
- ・性別
- ・現在のひきこもりの程度
- ・家族との同・別居
- ・ひきこもりの期間
- ・支援・医療機関の利用状況

②生活状況について

- ・家族について
- ・周囲の状態について
- ・家庭外での主な活動の場で接する人について
- ・あなた自身について

1) 自己記入式レジリエンス・チェックリスト：ひきこもり状態にある人のレジリエンスを測定するために作成したチェックリスト。

2) 二次元レジリエンス要因尺度（BRS）：平野（2010）が作成したレジリエンスを資質的要因、獲得的要因の 2 つの側面から測定する尺度。資質的レジリエンス要因は、「楽観性」「統制力」「社交性」「行動力」の 4 因子、獲得的レジリエンス要因は「問題解決志向」「自己理解」「他者心理の理解」の 3 因子で構成される。各因子 3 項目、合計 21 項目で構成される。

3) 家族アセスメントインベントリー（FAI）：西出（1993）が作成した家族機能を測定する尺度。「家族に対する評価と凝集性」「親密で自由な家族内交流」「家族の構成度」「家族内の秩序・ルール」の 4 因子、合計 30 項目で構成される。今回その中の「家族内の秩序・ルール」の 7 項目を用いる。

4) 職場用ソーシャルサポート尺度：職場用ソーシャルサポート尺度を一部改訂して使用する。職場用ソーシャルサポート尺度は、小牧・田中（1993）が作成し、職場におけるソーシャルサポート 15 項目で構成される。

（３）調査手続き

調査の趣旨に関する文書を読んだ上で、調査協力に同意された方のみが調査用紙に回答をしました。調査の趣旨に関する文書は、調査用紙から切り離して、持ち帰っていただくように依頼しました。

回答者には、月例会において調査用紙と返信用封筒を配布し、返信用封筒に入れて郵送にて回収をしました。

3. 結果

(1) 本人回答者が住んでいる場所

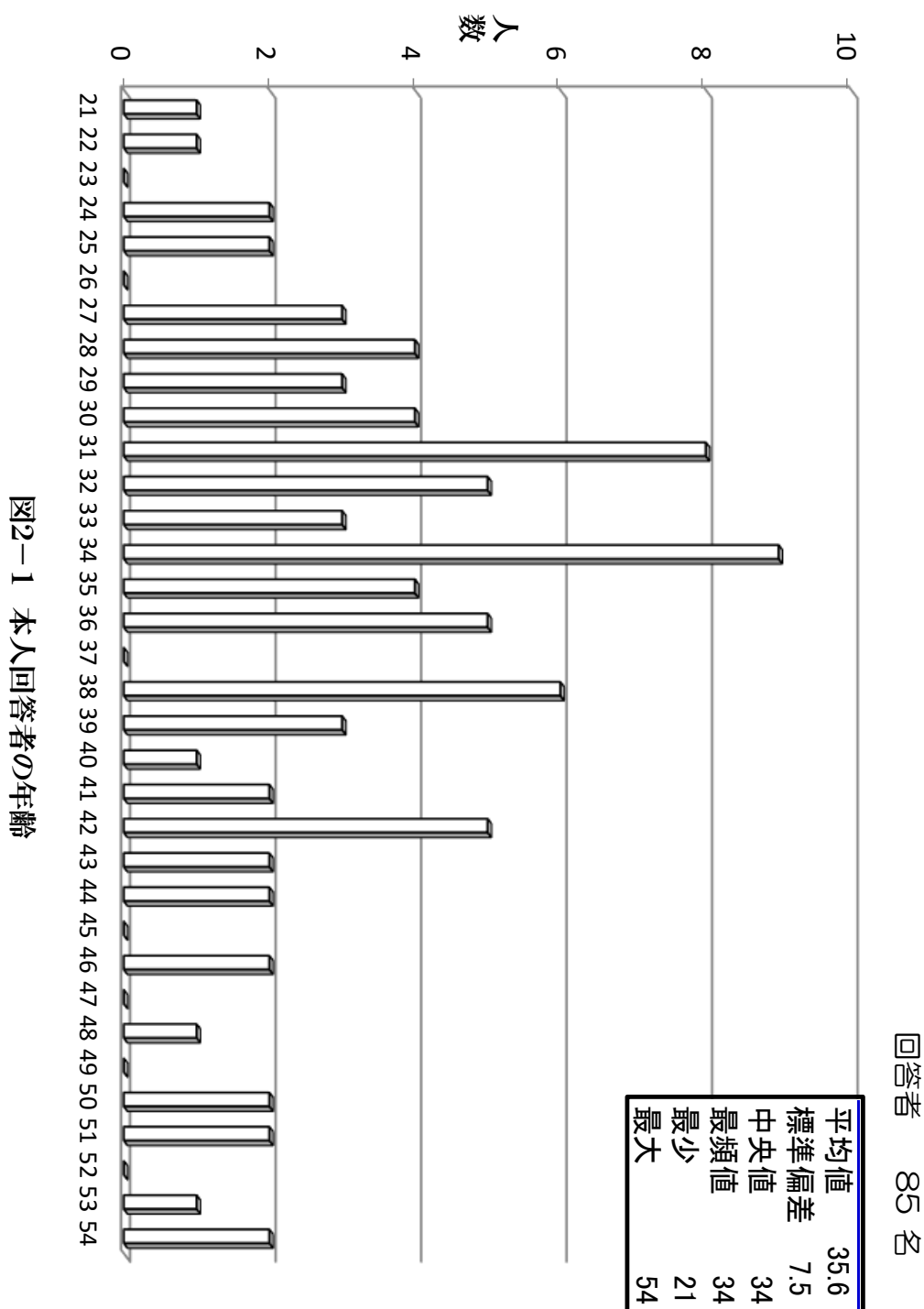
表2-1 本人回答者が住んでいる場所

地方	都道府県	人数	地方	都道府県	人数
北海道・東北地方	北海道	2	近畿地方	三重県	1
	青森県	0		滋賀県	0
	岩手県	0		京都府	12
	宮城県	0		大阪府	1
	秋田県	0		兵庫県	7
関東地方	山形県	8	中国地方	奈良県	0
	福島県	1		和歌山県	0
	茨城県	0		鳥取県	0
	栃木県	1		島根県	0
	群馬県	1		岡山県	0
	埼玉県	5	四国地方	広島県	1
	千葉県	19		山口県	1
	東京都	1		香川県	5
	神奈川県	2		愛媛県	1
	山梨県	1		徳島県	0
中部地方	長野県	0	九州地方	高知県	2
	新潟県	0		福岡県	1
	富山県	1		佐賀県	0
	石川県	0		長崎県	0
	福井県	0		熊本県	0
	静岡県	3		大分県	0
	愛知県	8		宮崎県	1
	岐阜県	0		鹿児島県	0
				沖縄県	0
			不明		0
			記入なし		3
			合計		89

表2-1に示したとおり、本人回答者が住んでいる場所は24都府県に分布しています。各地方の割合としては、北海道・東北地方が12.8%（0%）、関東地方が33.7%（49.0%）、中部地方が15.1%（18.4%）、近畿地方が24.4%（12.2%）、中国地方が2.3%（4.1%）、四国地方が9.3%（14.3%）、九州地方が2.3%（2.0%）となっています（カッコ内は昨年度の値）。昨年度よりも各地方に幅広く回答されていることが分かります。また、都道府県単位では千葉県は回答者が特に多いことが分かります。この県では、家族会が運営している居場所に本人回答者が多く参加しているものと考えられます。

(2) 本人回答者の年齢

図2-1のとおり、本人回答者の平均年齢は35.6±7.5歳(34.16±7.56歳)であり、最年少が21歳(20歳)、最年長が54歳(60歳)でした。男性においては平均年齢が36.0歳(34.67歳)、女性においては33.7歳(31.71歳)でした(カッコ内は昨年度の値)。家族会に参加しているひきこもり経験者の8割以上の方が30歳を超えていることが分かります。また、家族調査のひきこもり本人の平均年齢よりも高い値となっています。昨年度の当会の全国調査よりも、本人回答者の平均年齢は1.5歳ほど高い年齢であることが分かります。



(3) 本人回答者の性別

図2-2のとおり、本人回答者の性別は男性が81.4% (86.0%)，女性が18.6% (14.0%) でした（カッコ内は昨年度の値）。家族調査の結果よりもやや男性の割合が多いことが分かります。昨年度よりも、やや女性の割合が増加しています。

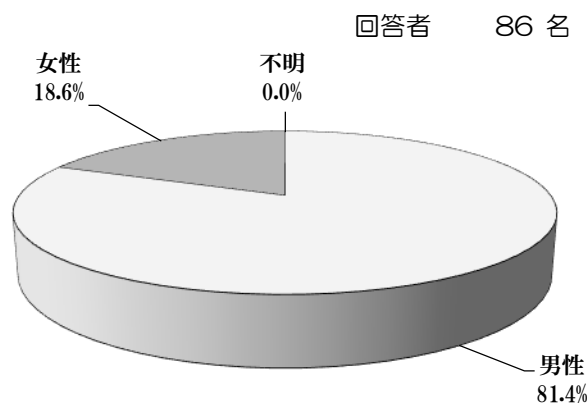


図2-2 本人回答者の性別

(4) ひきこもりの程度

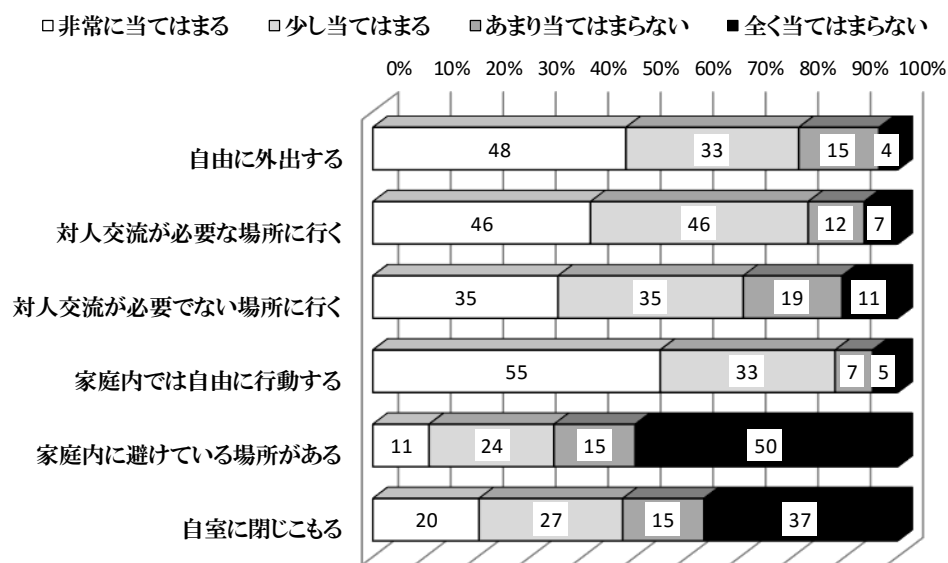


図2-3 ひきこもりの程度

図2-3のとおり、ひきこもりの程度については、家庭内では自由に行動でき、外出も自由にできている人が多いと言えます。家族会に参加している本人回答者の方は、ひきこもりから回復してきている人が多いことが分かります。昨年度と比較すると、「自由に外出する」について「非常に当てはまる」もしくは「少し当てはまる」と回答した割合は昨年度 (84%) とほぼ同様でしたが、「自室に閉じこもる」については昨年度 (34%) よりも増加しています（カッコ内は昨年度の値）。

(5) 本人回答者と家族の同別居

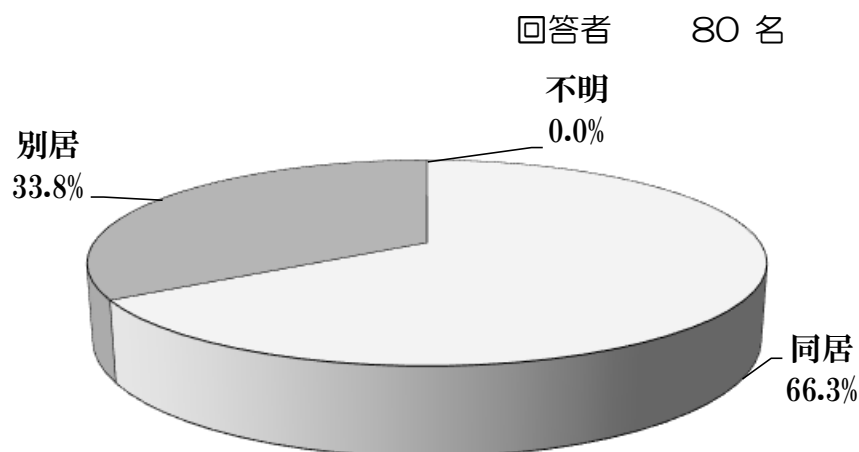


図2-4(1) 本人回答者と親の同・別居

図2-4(1)のとおり、本人回答者と家族の同別居に関しては、同居している人が66.3% (85.7%)であり、別居している人は33.8% (14.3%)でした。同居している人の割合は、家族調査の89.8% (86.6%)よりも少なく、昨年度の調査よりも減少しています(カッコ内は昨年度の値)。

また、図2-4(2)のように、別居している人は別居期間が1～3年以内の比較的短い人と21年以上の比較的長い人の両パターンが多いことが分かります。

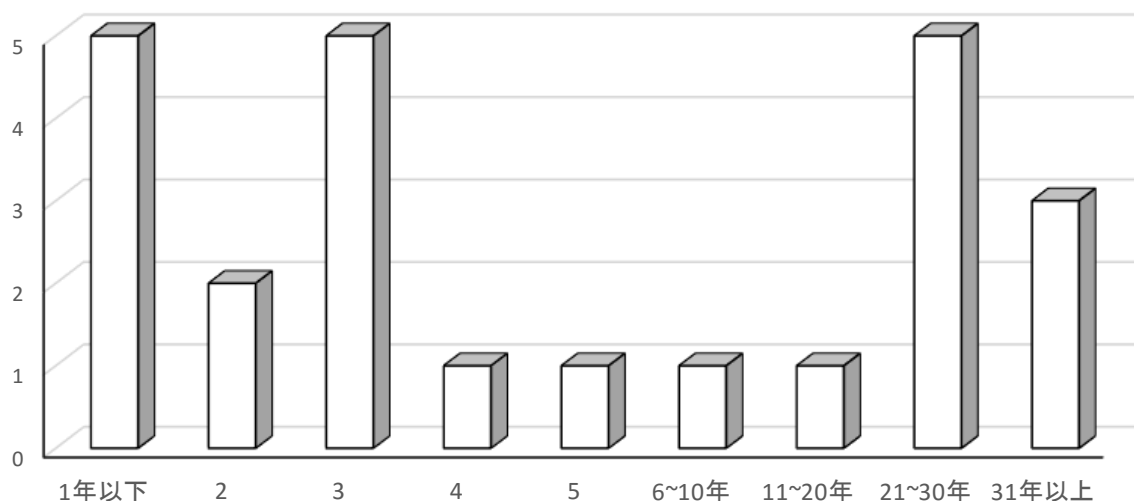


図2-4(2) 別居している本人回答者の別居期間

（６）ひきこもりの初発年齢

図２－５のとおり，ひきこもりが始まった時期の平均年齢は 19.7 歳（19.63 歳），最年少が 4 歳（10 歳），最年長が 50 歳（36 歳）でした（カッコ内は昨年度の値）。昨年度の調査と比べると，ほぼ同様の結果でした。また，約半数の人が 20 歳未満でひきこもり状態が生じていることが分かります。

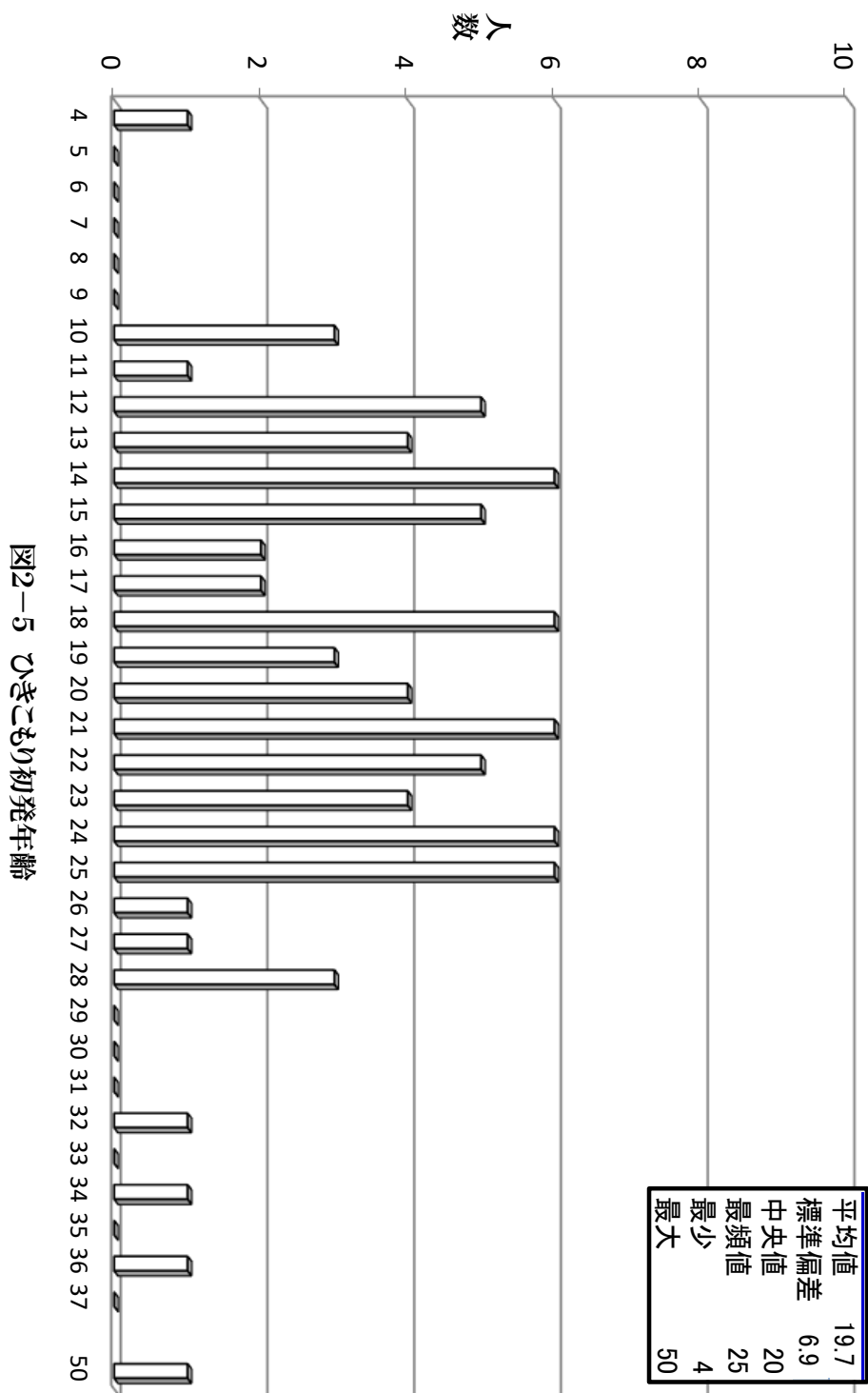
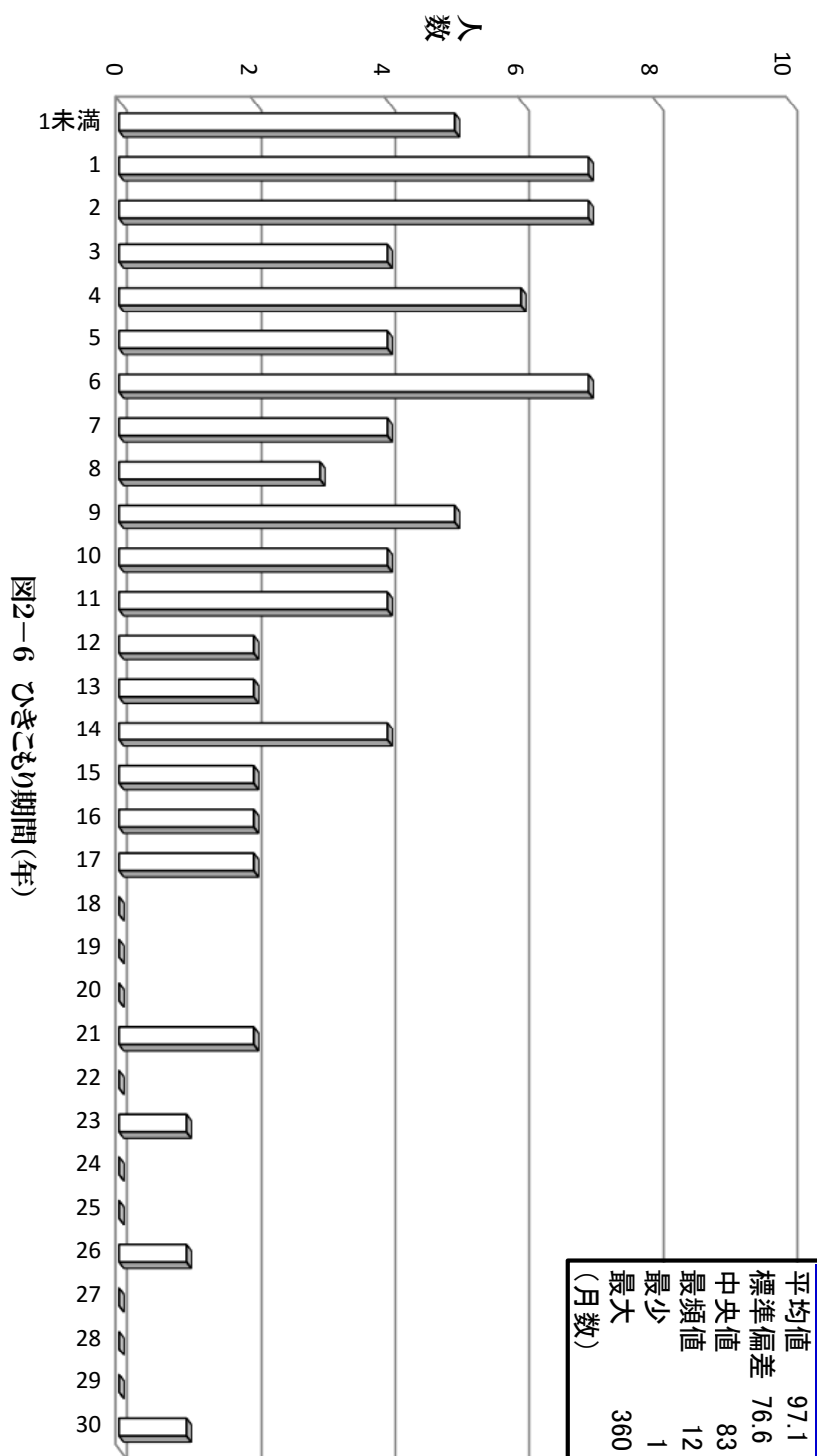


図2－5 ひきこもり初発年齢

(7) ひきこもり期間

図2-6のとおり、ひきこもり期間は、平均8.1年(7.08年)、最少が1ヶ月(12ヶ月)、最大は360ヶ月(240ヶ月)でした(カッコ内は昨年度の値)。昨年度の調査と比べると、約1年長くなっていることが分かります。また、3割以上の人が10年以上のひきこもり期間でしたが、これは家族調査よりも低い割合でした。



(8) 支援・医療機関の利用状況

回答者 83 名

図2-7のとおり、本人回答者では、支援・医療機関を継続的に利用している人が約半数、利用したことがない人が2割弱でした。家族調査の結果と比較すると、継続的に利用している人の割合が多く、利用したことがない人の割合は少ないことが分かります。

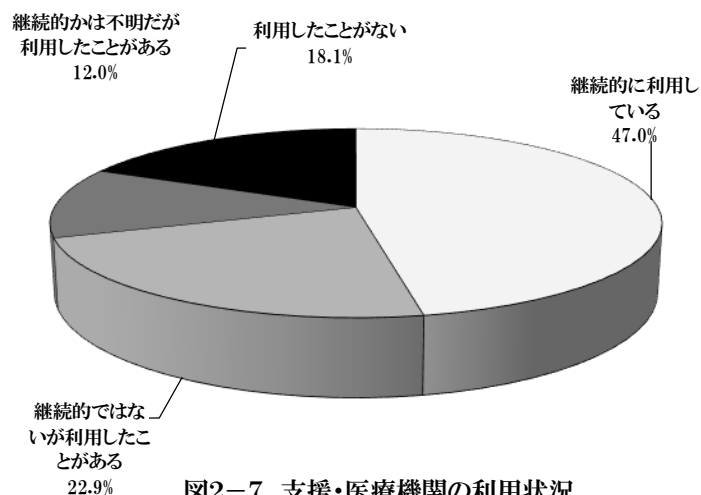


図2-7 支援・医療機関の利用状況

(9) 家族について (西出隆, 1993)

図2-8のとおり、家族の様子について「よくあてはまる」、「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と回答した人がもっとも多かった項目は、「私の家では、決まりがあるのかどうかははっきりしない」(75.9%)でした。その一方で、もっとも少なかった項目は「私の家族の中では、決まりを守ることがとても大切にされている」(31.3%)であったことが分かります。

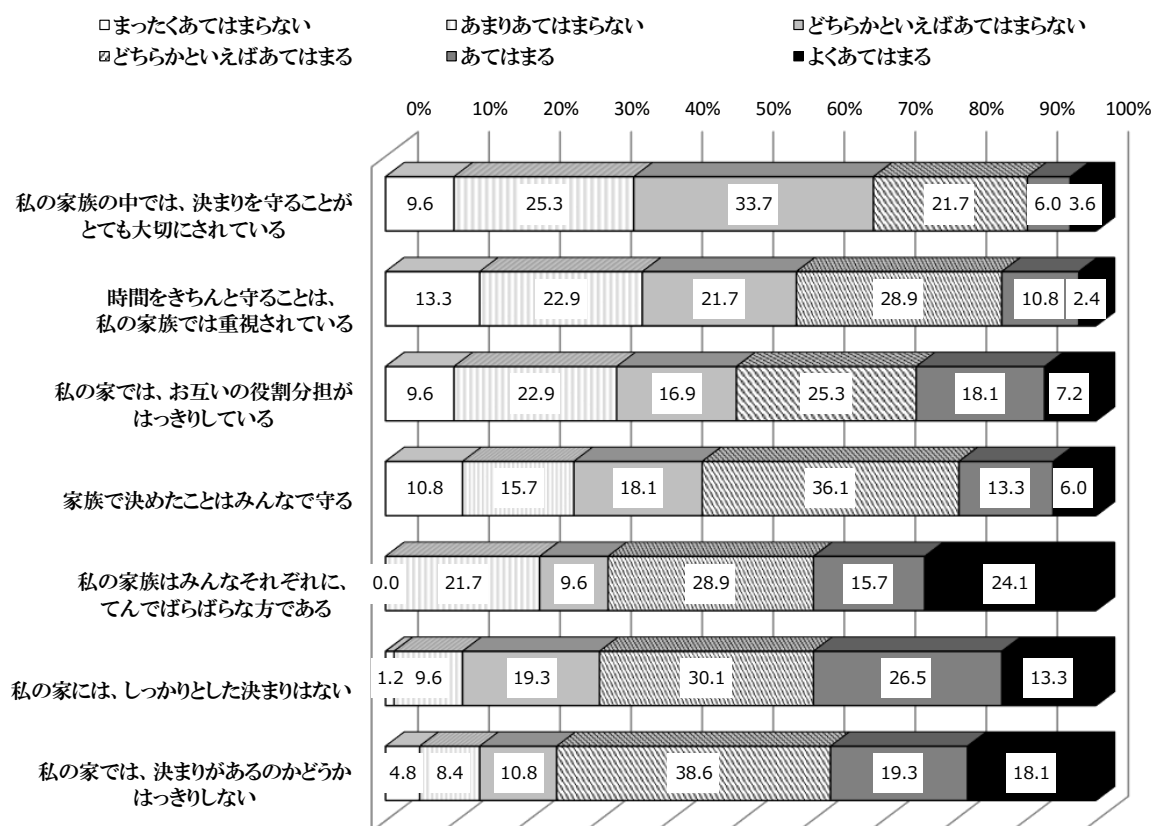


図2-8 家族について

（１０）自分自身について

図２－９のとおり，自分自身の状態について「非常に当てはまる」，「当てはまる」と回答した人がもっとも多かった項目は，「自己理解（例：自分の良いところ，悪いところを理解している方だ）」（50.6%）でした。その一方で，もっとも少なかった項目は「自己コントロール（例：つらいときでも自分の気持ちをコントロールできる方だ）」（22.6%）であったことが分かります。

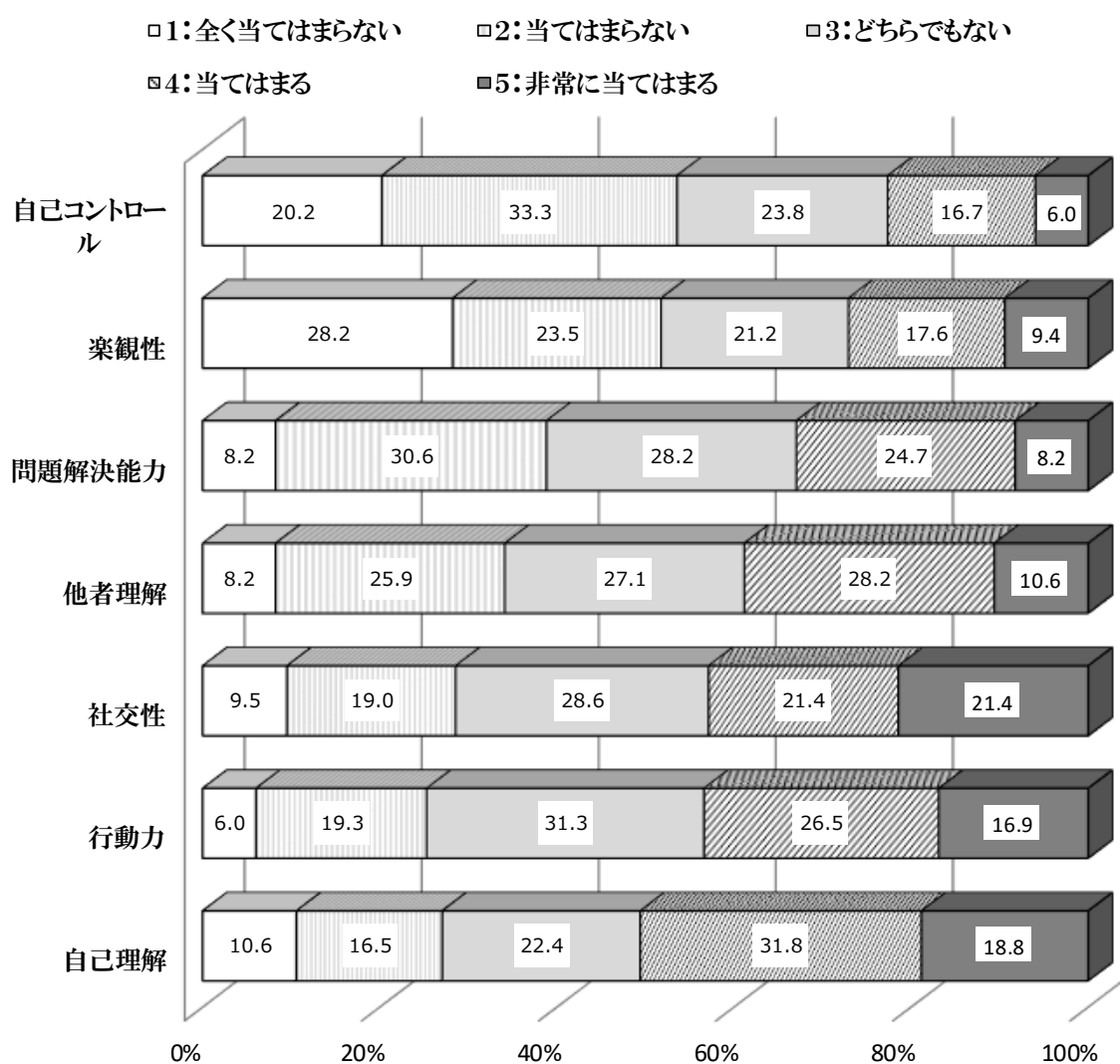


図2－9 自分自身について

（１１）家庭環境について

図２－１０のとおり，家庭環境の状態について「非常に当てはまる」，「当てはまる」と回答した人がもっとも多かった項目は，「家族からの物質的援助（例：家庭には食べ物，お金，必要な物が揃っている）」（66.7%）でした。その一方で，もっとも少なかった項目は「家庭のルール（例：家族みんなが納得して守っているルールがある）」（22.6%）であったことが分かります。

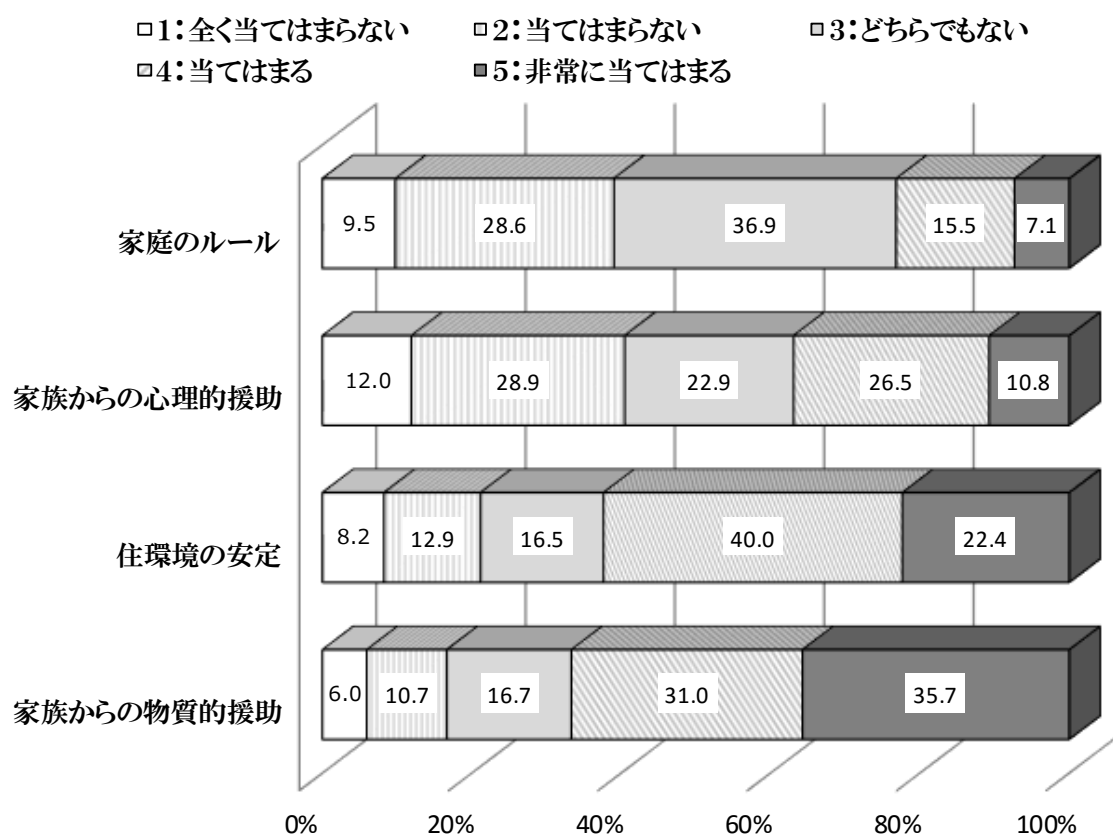


図2－10 家庭環境について

（１２）家庭外の主な活動の場について

図２－１１のとおり，家庭外の主な活動の場の状態について「非常に当てはまる」，「当てはまる」と回答した人がもっとも多かった項目は，「家庭外の主な活動の場でのルール（例：家庭外の主な活動の場には，みんなが納得して守っているルールがある）」（50.6%）でした。その一方で，もっとも少なかった項目は「家庭外の環境での物質的援助（例：家庭外の環境には，食べ物，お金，必要な物が揃っている）」（36.5%）であったことが分かります。

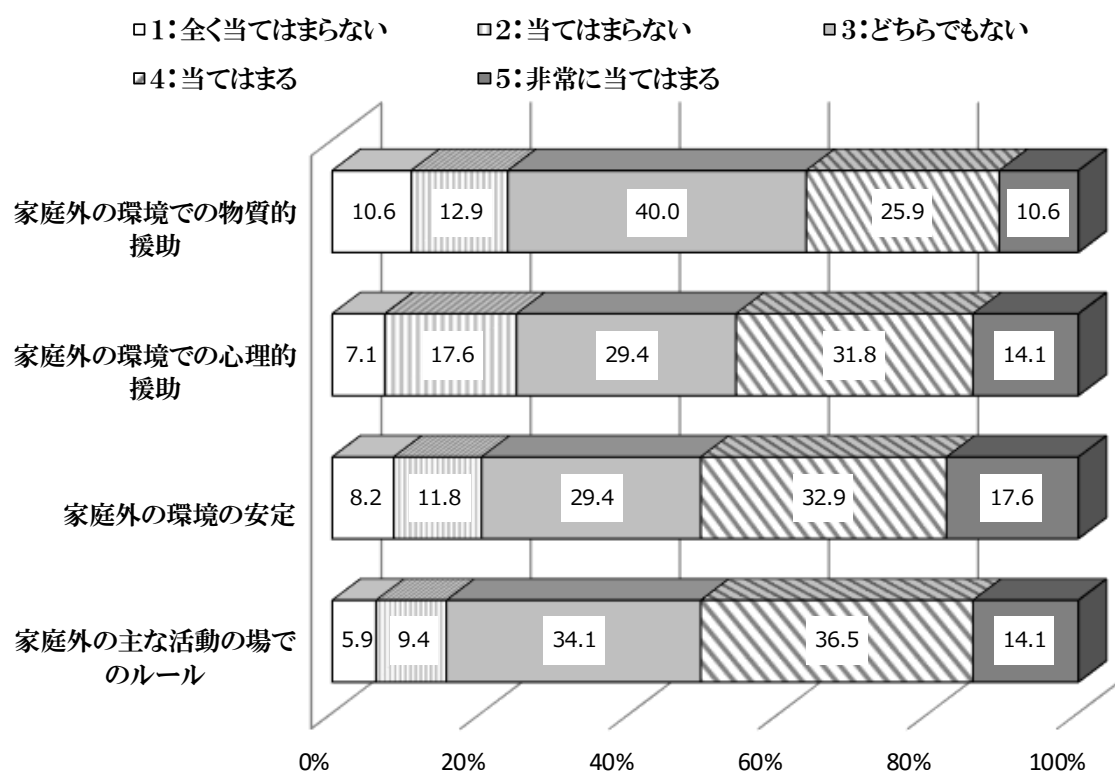


図2－11 家庭外の主な活動の場について

(13) 家庭外での主な活動の場で接する人について (小牧・田中, 1993)

図2-12から図2-14のとおり、家庭外での主な活動の場で接する人について「非常に当てはまる」、「当てはまる」と回答した人がもっとも多かった項目は、「気軽に話をしてくれる」(69.4%)や「問題で困っているとき、どうすればいいか相談にのってくれる」(68.2%)でした。その一方で、もっとも少なかった項目は「手持ちのお金がなくなった時など、気兼ねなく借りられる」(5.9%)や「気軽に食事に誘ってくれる」(36.5%)であったことが分かります。

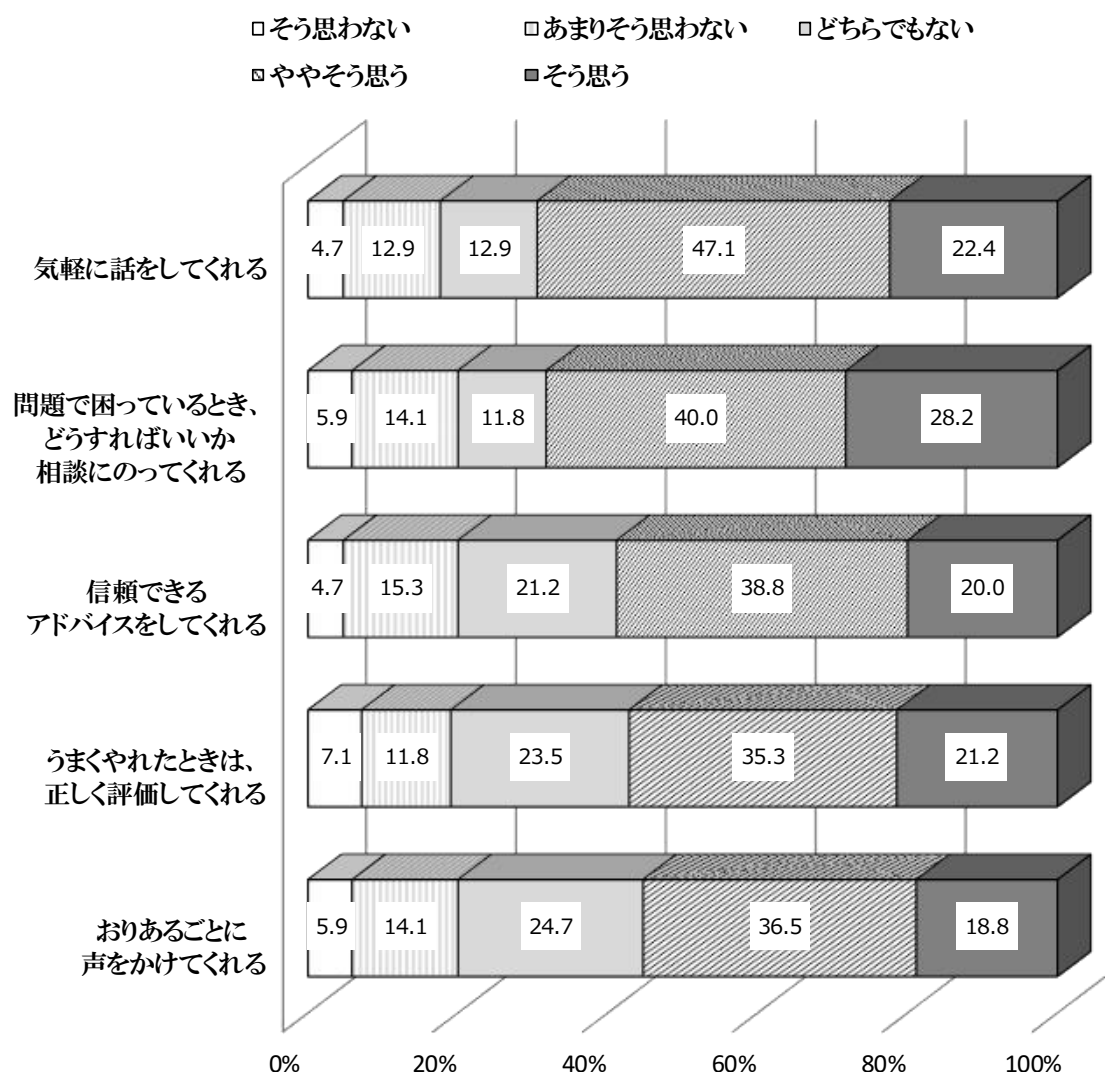


図2-12 家庭外での主な活動の場で接する人について(1)

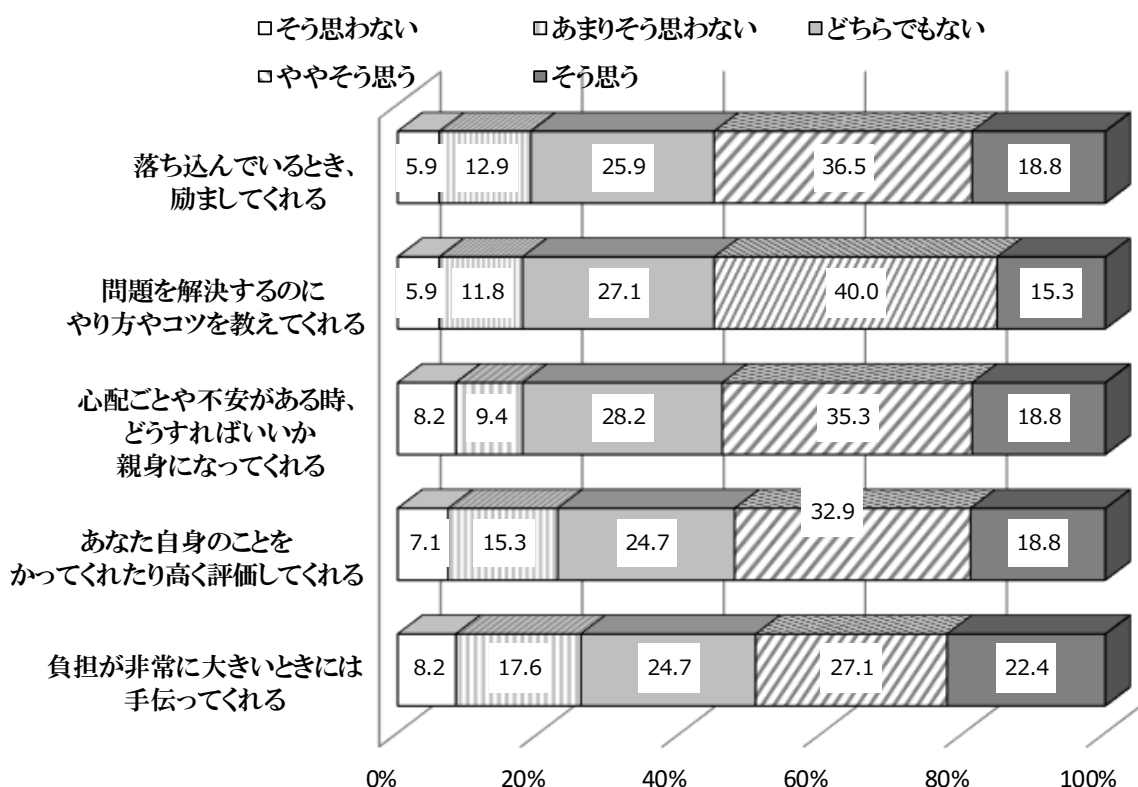


図2-13 家庭外での主な活動の場で接する人について(2)

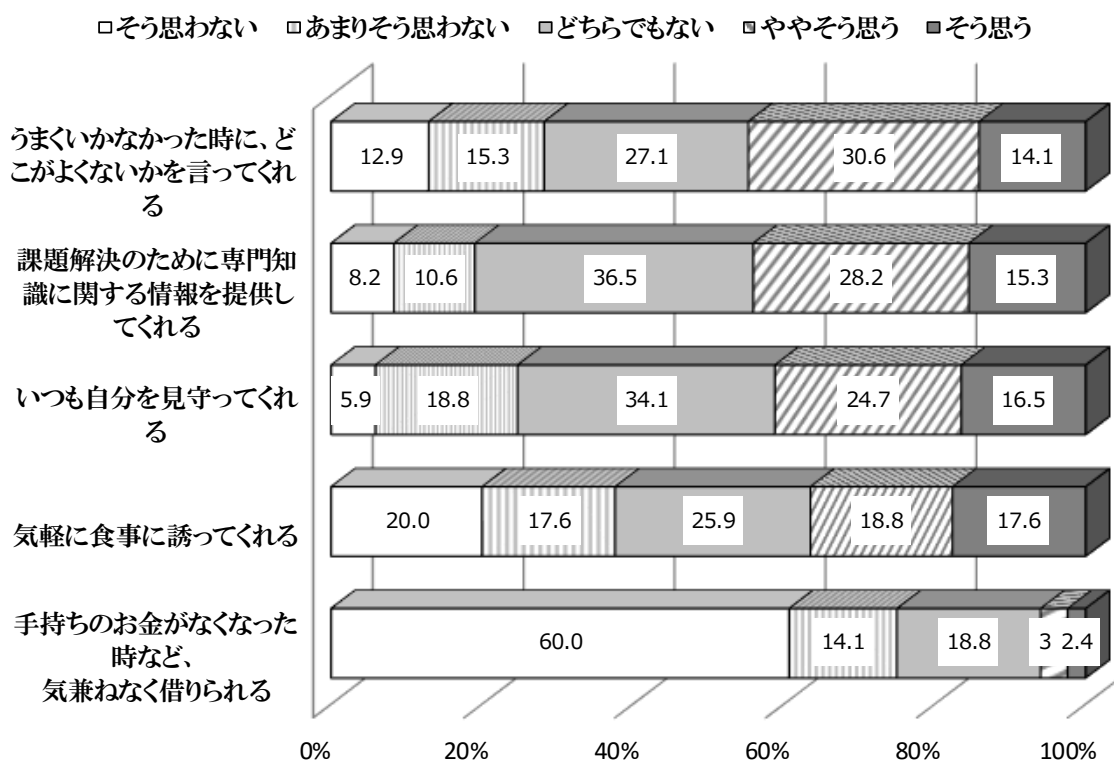


図2-14 家庭外での主な活動の場で接する人について(3)

(14) あなた自身について (平野, 2010)

図2-15から図2-17のとおり、あなた自身について「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と回答した人がもっとも多かった項目は、「努力することを大事にする方だ」(58.3%)や「嫌な出来事が、どんな風に自分の気持ちに影響するか理解している」(54.8%)でした。その一方で、もっとも少なかった項目は「昔から、人との関係をとるのが上手だ」(10.7%)や「交友関係が広く、社交的である」(13.3%)といった他者との交流に関する項目であったことが分かります。

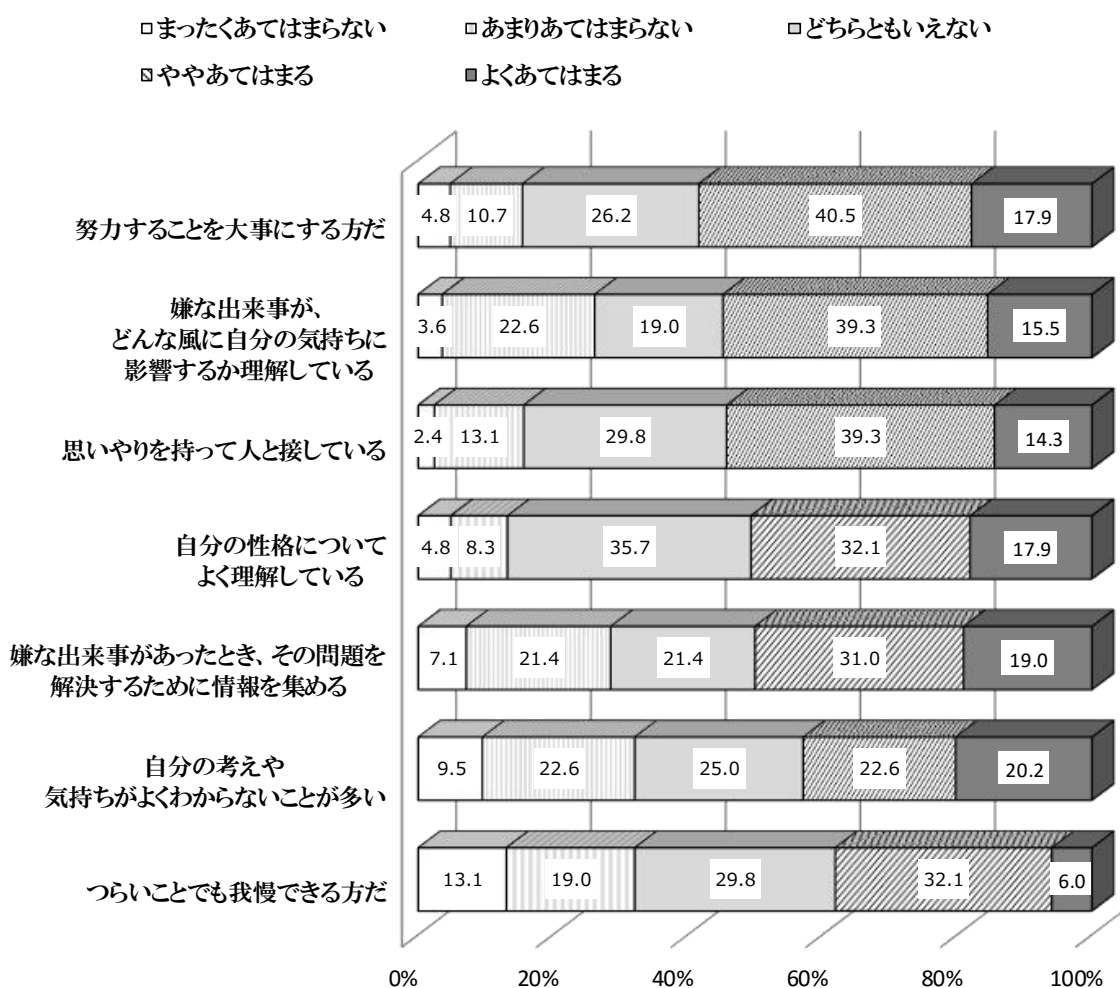


図2-15 あなた自身について(1)

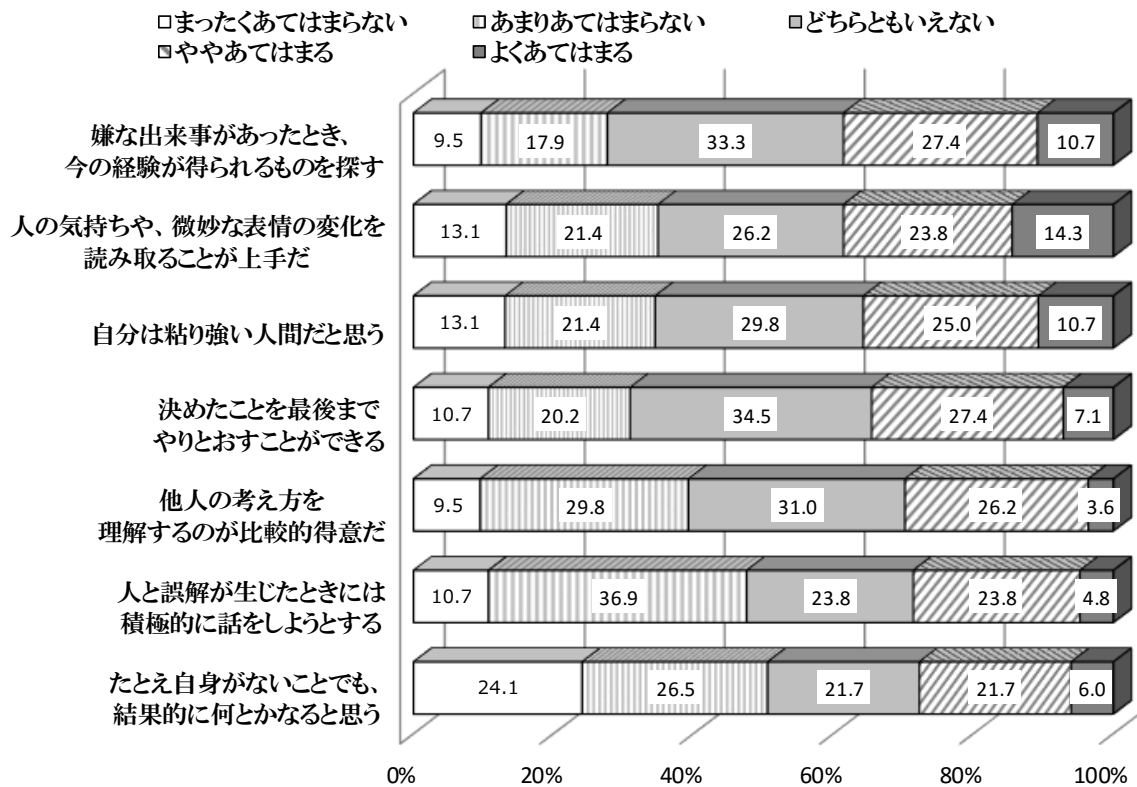


図2-16 あなた自身について(2)

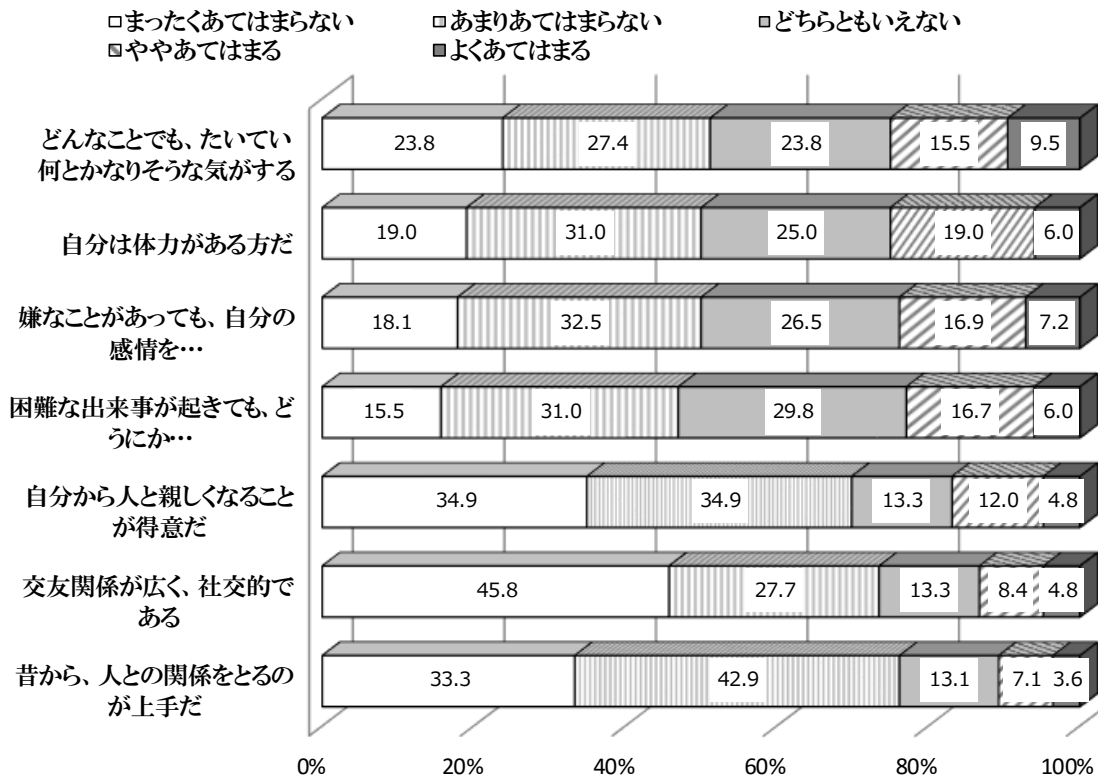


図2-17 あなた自身について(3)

第三部 家族調査

1. 目的

本調査においては、ひきこもりの実態およびひきこもり状態にある人の生活状況について調査を実施しました。

2. 調査方法

(1) 調査対象者

特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会（以下、「家族会」とする）の支部が平成 27 年 11 月～平成 28 年 1 月に開催した月例会において調査を実施しました。月例会参加者のうち、調査協力の得られた 362 名の回答が分析に用いられました。

(2) 調査内容（注：調査内容の詳細は、巻末の資料を参照してください）

①基礎情報 家族調査に回答した方（以下、家族回答者）及び、ひきこもり状態にある人（以下、ひきこもり本人）に関する以下の情報について回答を求めました。

- ・家族回答者が住んでいる都道府県
- ・家族回答者の続柄
- ・家族回答者の年齢
- ・ひきこもり本人の性別
- ・ひきこもり本人の年齢
- ・家族回答者とひきこもり本人の同・別居
- ・支部への所属
- ・ひきこもり本人との会話の有無
- ・ひきこもりの期間
- ・ひきこもりの程度
- ・活動範囲
- ・外出日数
- ・ひきこもり本人の支援・相談機関利用状況
- ・家族回答者の支援・相談機関利用状況
- ・家計の幸福感
- ・ひきこもり本人との関係の幸福感
- ・家族関係の幸福感
- ・全体的幸福感

②生活状況について

- ・生活状況
- ・社会参加への困難感の程度
- ・支援・医療機関を利用すると思う程度

(3) 調査手続き

調査の趣旨に関する文書を読んだ上で、調査協力に同意された方のみが調査用紙に回答をしました。調査の趣旨に関する文書は、調査用紙から切り離して、持ち帰っていただくように依頼しました。

回答者には、月例会において調査用紙と返信用封筒を配布し、返信用封筒に入れて郵送にて回収をしました。

3. 結果

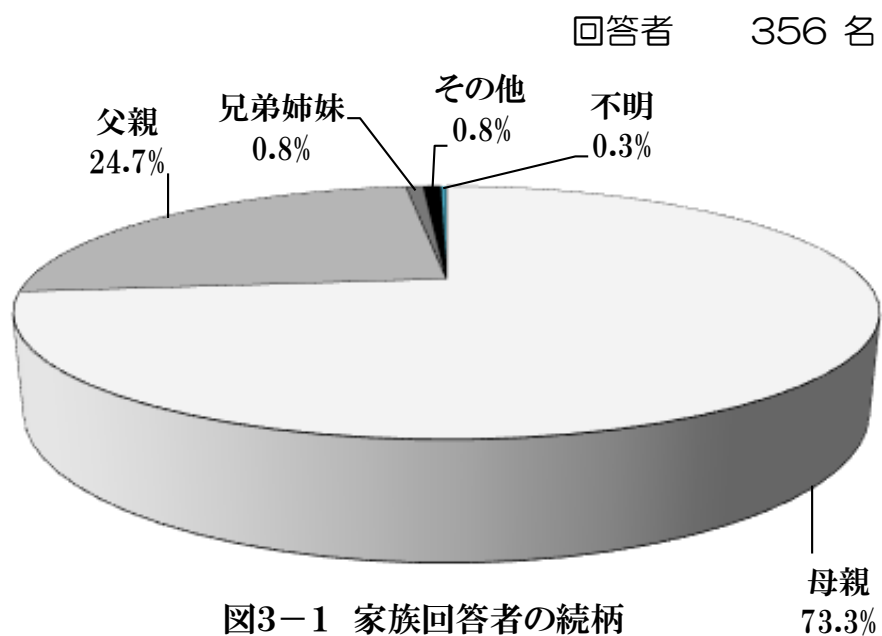
(10) 家族回答者が住んでいる場所

表3-1 家族回答者が住んでいる場所

地方	都道府県	人数	地方	都道府県	人数
北海道・東北地方	北海道	14	近畿地方	三重県	8
	青森県	3		滋賀県	0
	岩手県	0		京都府	1
	宮城県	0		大阪府	6
	秋田県	0		兵庫県	6
関東地方	山形県	16	中国地方	奈良県	0
	福島県	3		和歌山県	0
	茨城県	0		鳥取県	1
	栃木県	10		島根県	0
	群馬県	4		岡山県	7
	埼玉県	30	四国地方	広島県	9
	千葉県	25		山口県	10
	東京都	29		香川県	11
	神奈川県	7		愛媛県	11
	山梨県	12		徳島県	3
中部地方	長野県	1	九州地方	高知県	7
	新潟県	14		福岡県	7
	富山県	5		佐賀県	0
	石川県	12		長崎県	0
	福井県	4		熊本県	2
	静岡県	31		大分県	8
	愛知県	30		宮崎県	4
	岐阜県	1		鹿児島県	0
				沖縄県	0
			不明		0
			記入なし		10
			合計		362

表3-1のとおり、家族回答者が住んでいる場所は35都道府県(27都道府県)に分布しています。各地方の割合としては、北海道・東北地方が10.2%(6.6%)、関東地方が29.8%(35.0%)、中部地方が31.3%(30.0%)、近畿地方が6.0%(1.7%)、中国地方が7.7%(4.3%)、四国地方が9.1%(16.5%)、九州地方が6.0%(5.9%)となっています(カッコ内は昨年度の値)。静岡県や埼玉県、愛知県、東京都は回答者が特に多いことが分かります。これらの県では、家族会に家族回答者が多く参加しているものと考えられます。

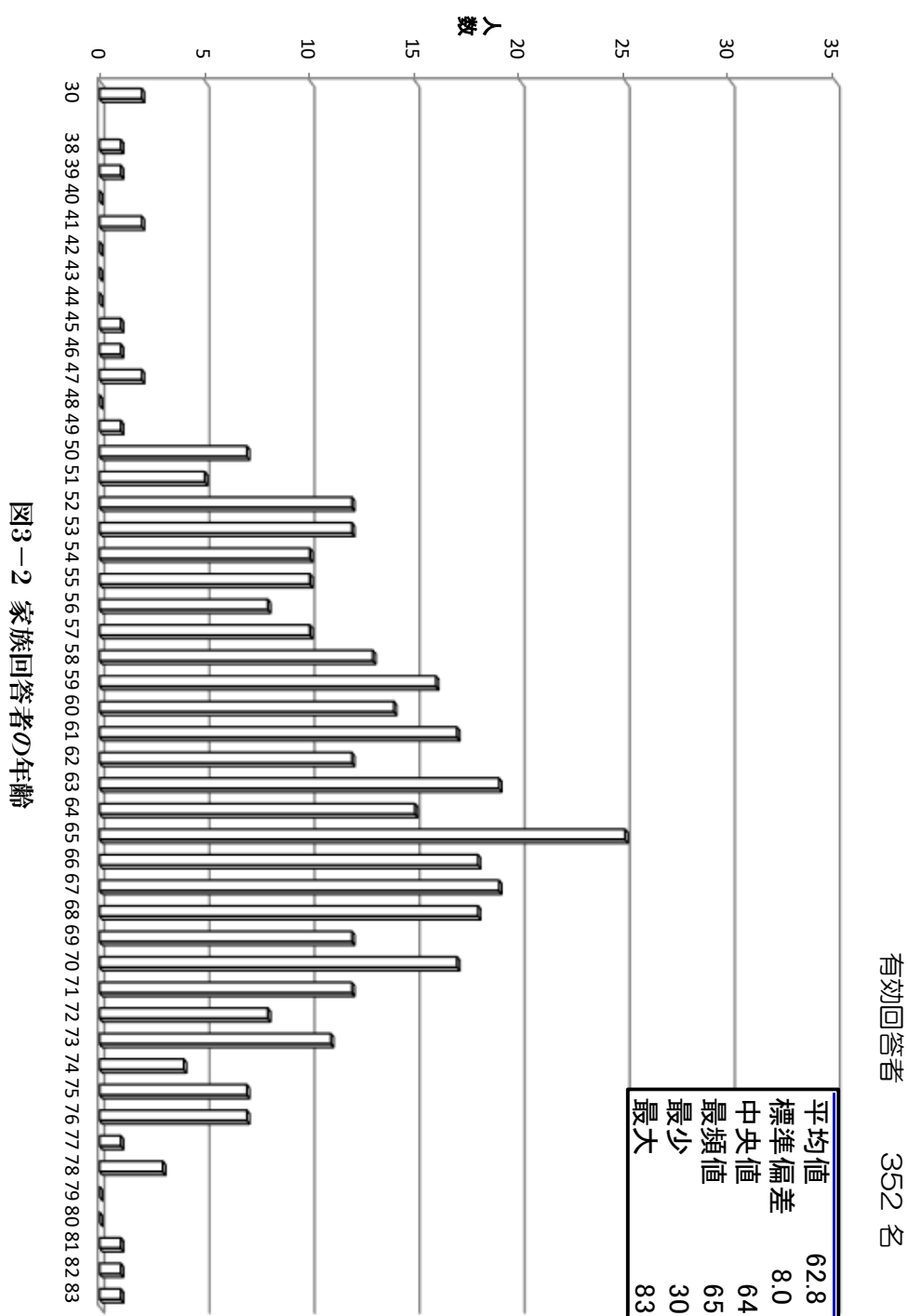
(11) ひきこもり本人と家族回答者の続柄



ひきこもり本人と家族回答者の続柄は、母親が 73.3% (70.1%)、父親が 24.7% (28.2%)、兄弟姉妹が 0.8% (なし)、その他が 0.8% (1.3%)、不明が 0.3% (0.3%) でした (カッコ内は昨年度の値)。その他としては、姉、祖母、里親などが見られました。昨年度と比べると、やや母親の割合が高いことが分かります。

(12) 家族回答者の年齢

家族回答者の年齢を図3-2に示します。家族回答者の平均年齢は62.8歳(63.64歳)であり、最年少が30歳(40歳)、最年長が83歳(81歳)でした(カッコ内は昨年度の値)。母親の年齢に関しては、平均61.9歳(61.96歳)であり、最年少が39歳(45歳)、最年長が81歳(80歳)でした。父親の年齢については、平均66.3歳(67.76歳)であり、最年少41歳(52歳)、最年長83歳(82歳)でした。昨年度とほぼ同様の結果であることが分かります。



(13) ひきこもり本人の性別

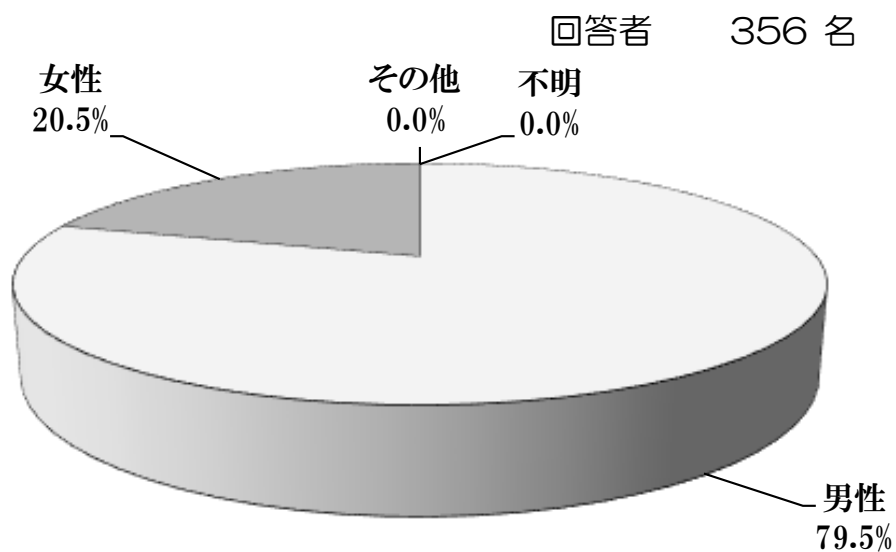
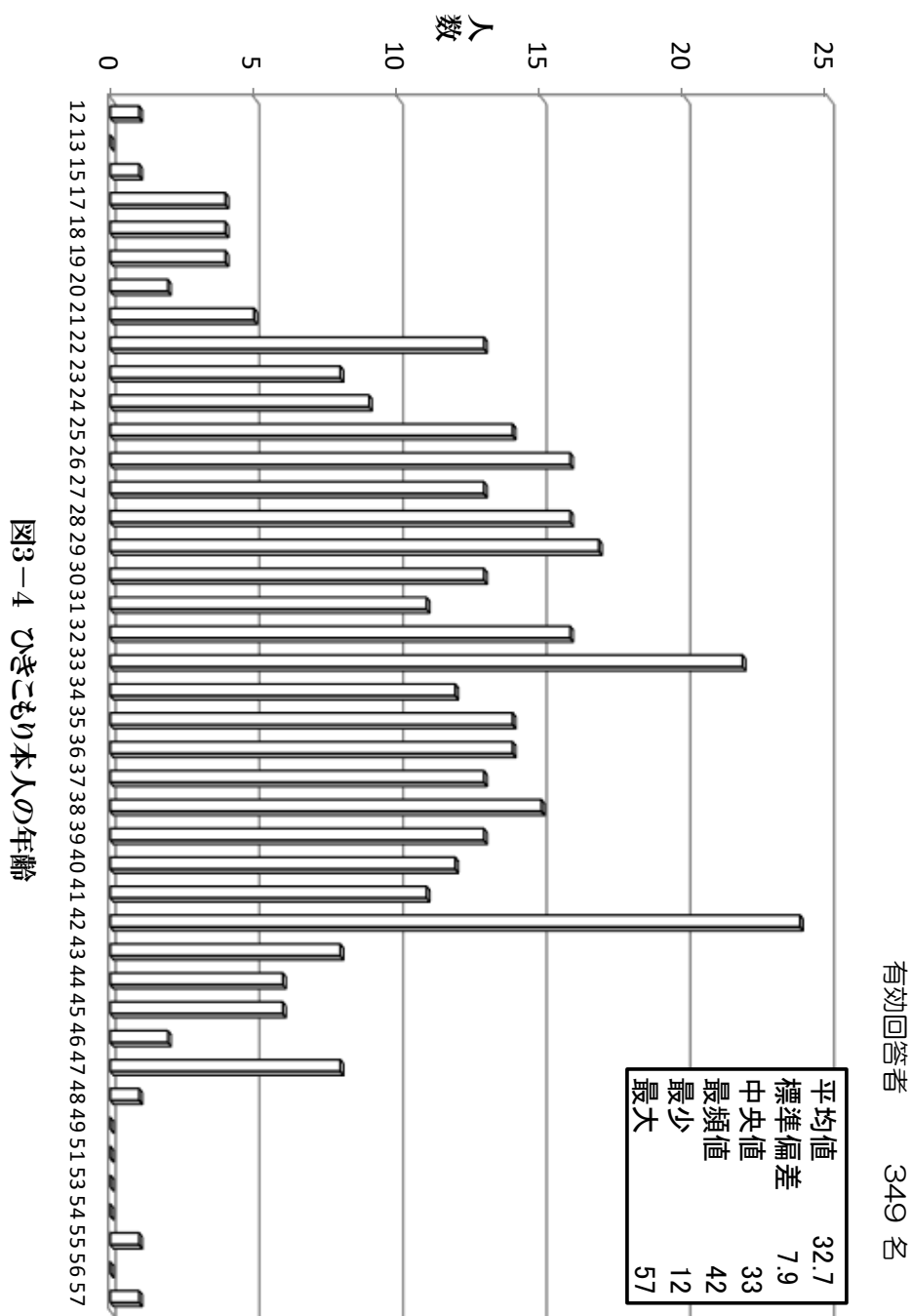


図3-3 ひきこもり本人の性別

図3-3のとおり、ひきこもり本人の性別については、男性が79.5%（79.1%）、女性が20.5%（20.9%）でした（カッコ内は昨年度の値）。昨年度とほぼ同様の割合であることが分かります。また、調査開始以降、一貫して男性が多いことは、ひきこもりの一つの特徴であると言えます。

(14) ひきこもり本人の年齢

図3-4のとおり、全体では平均32.7歳(33.24歳)であり、最年少が12歳(11歳)、最年長が57歳(54歳)でした(カッコ内は昨年度の値)。男性に関しては、平均年齢32.9歳(33.3歳)であり、最年少が14歳(11歳)、最年長が55歳(54歳)でした。女性に関しては、平均年齢31.8歳(33.06歳)、最年少が12歳(18歳)、最年長が57歳(45歳)でした。本年の調査においては、女性においてやや下降が示されており、全体的にも年齢の上昇は認められていません。



(15) ひきこもり本人と家族回答者の同・別居

図3-5のとおり、同別居に関しては、ひきこもり本人と家族回答者の場合は同居している割合が89.8% (86.6%) です(カッコ内は昨年度の値)。つまり、多くの家庭ではひきこもり本人と家族回答者が同居していると考えられます。一昨年度の調査では同居している割合が84.7%でした。概して同居している割合は高く、やや同居している割合が上昇していることが分かります。

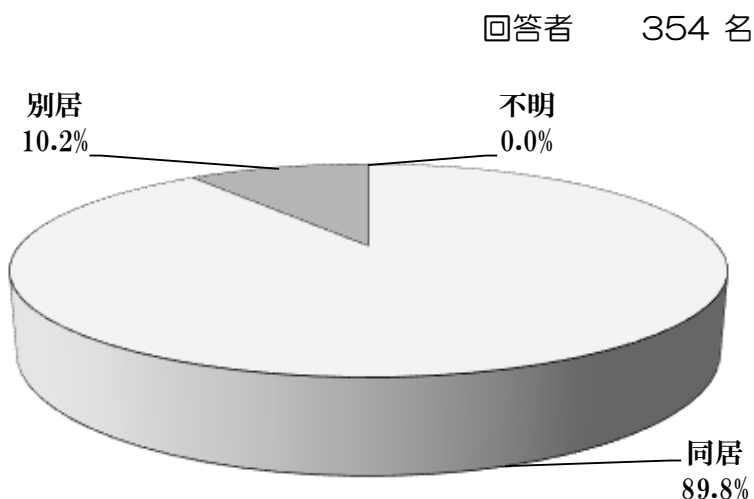


図3-5 ひきこもり本人と家族回答者の同・別居

(16) 支部への所属

図3-6に示すとおり、家族回答者のほとんどは支部に入会していることが分かります。入会していない人は7.7% (4.7%) に留まっています(カッコ内は昨年度の値)。

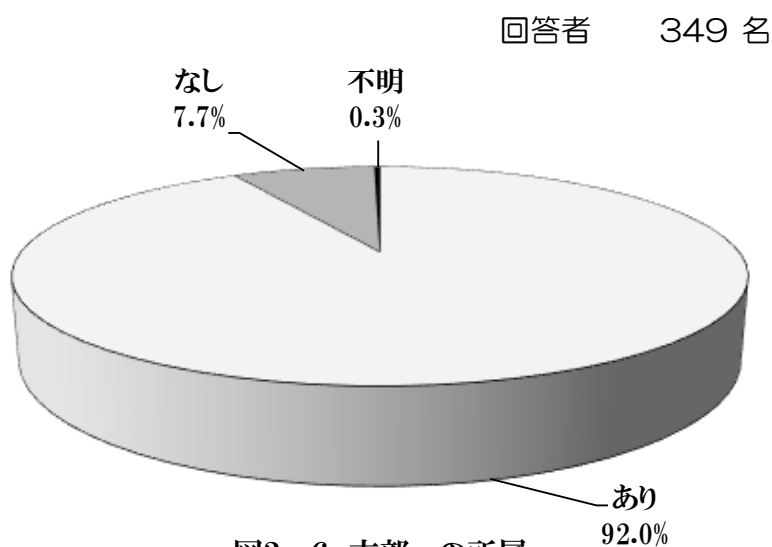


図3-6 支部への所属

(17) 会話の有無

図3-7のとおり，家族回答者の82.8%が本人との会話があり，16.9%が会話がない人でした。家族回答者の多くは，本人との会話があることが分かります。

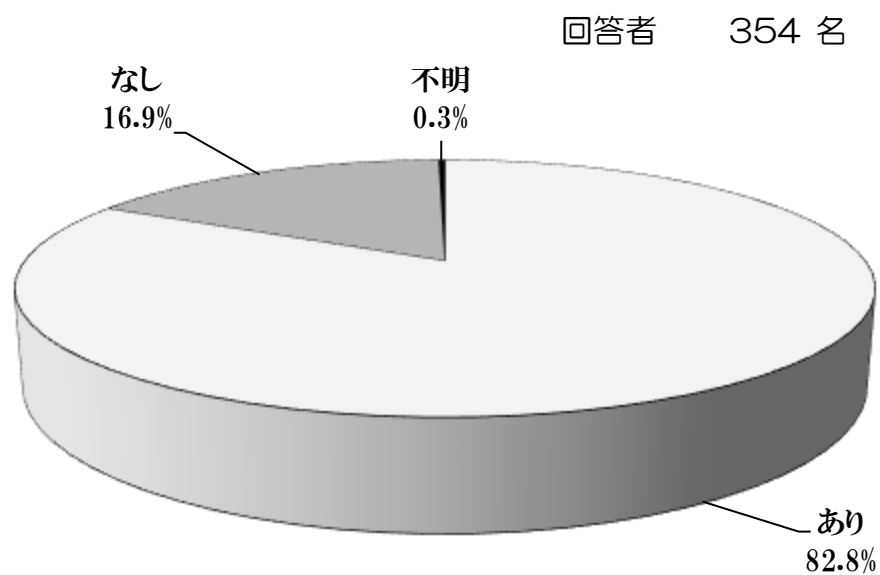
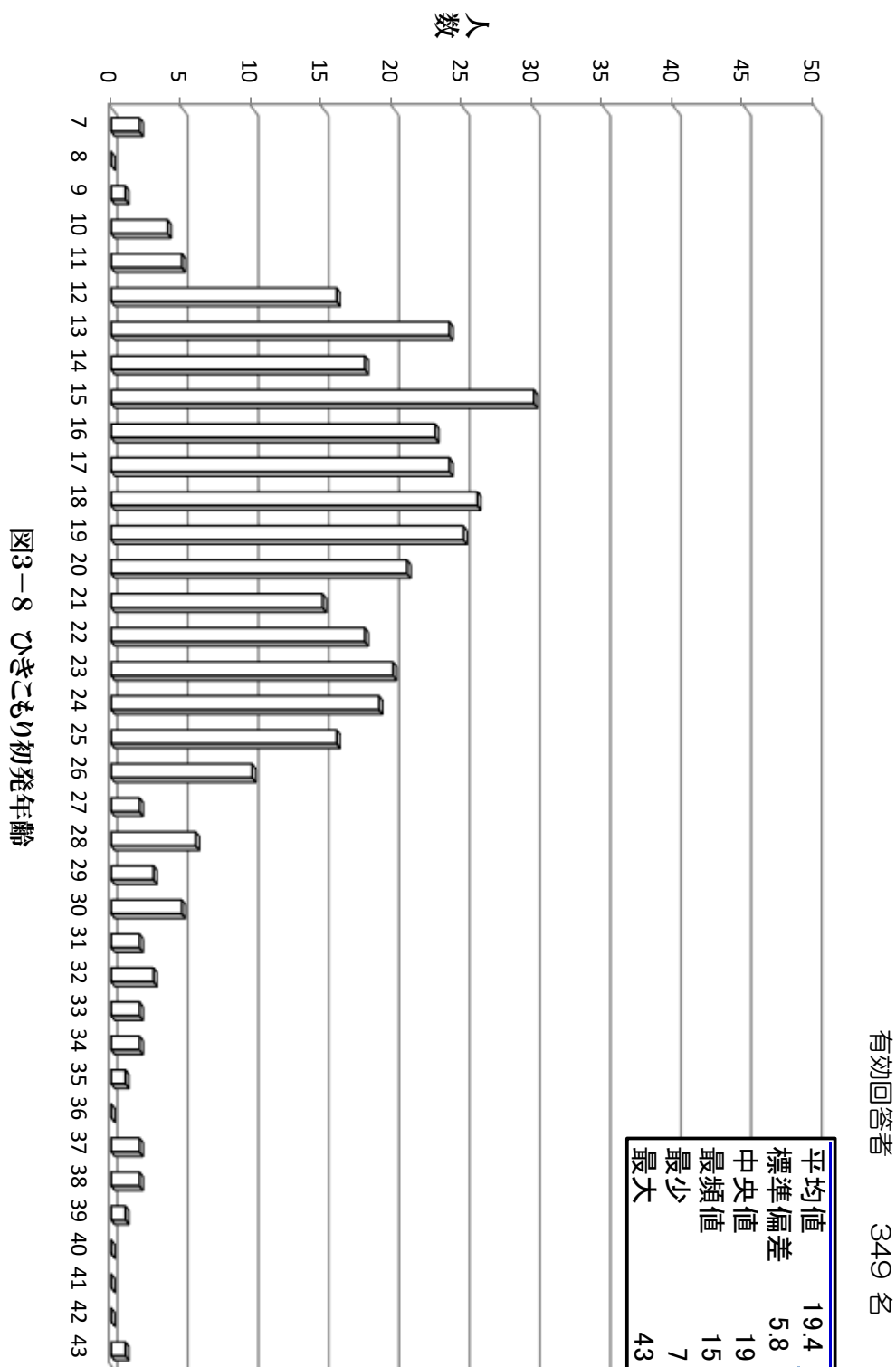


図3-7 会話の有無

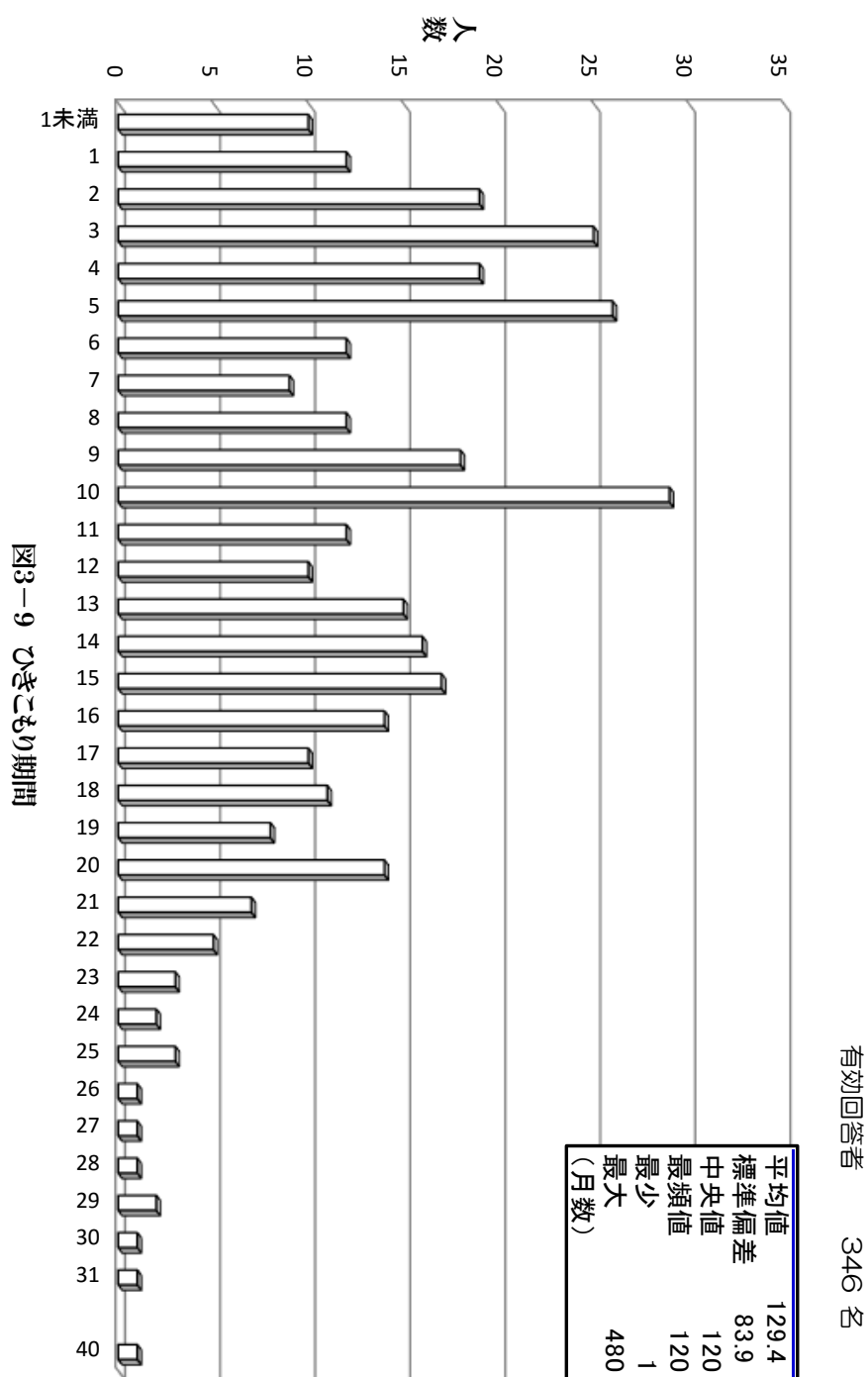
(18) ひきこもりの初発年齢

ひきこもりが始まった時期については、図3-8に示すとおり、平均年齢は19.4歳(20.44歳)、最年少が7歳(10歳)、最年長が43歳(46歳)でした(カッコ内は昨年度の値)。昨年度よりも、初発年齢が1年程度低下していました。



(19) ひきこもり期間

ひきこもり期間は、図3-9に示すとおり、平均10.8年(10.22年)，最少が1ヶ月(8ヶ月)，最大は480ヶ月(348ヶ月)でした(カッコ内は昨年度の値)。本年度の本人調査の平均ひきこもり期間は8.1年でしたが、家族会に参加している方の抱えるひきこもり当事者は、さらに長期にわたりひきこもり状態にあることが分かります。当会には、長期化したひきこもり事例で悩む方が多く参加されていると言えます。また、昨年度と比較してもややひきこもり期間が長いことが示されました。



（２０）ひきこもりの程度

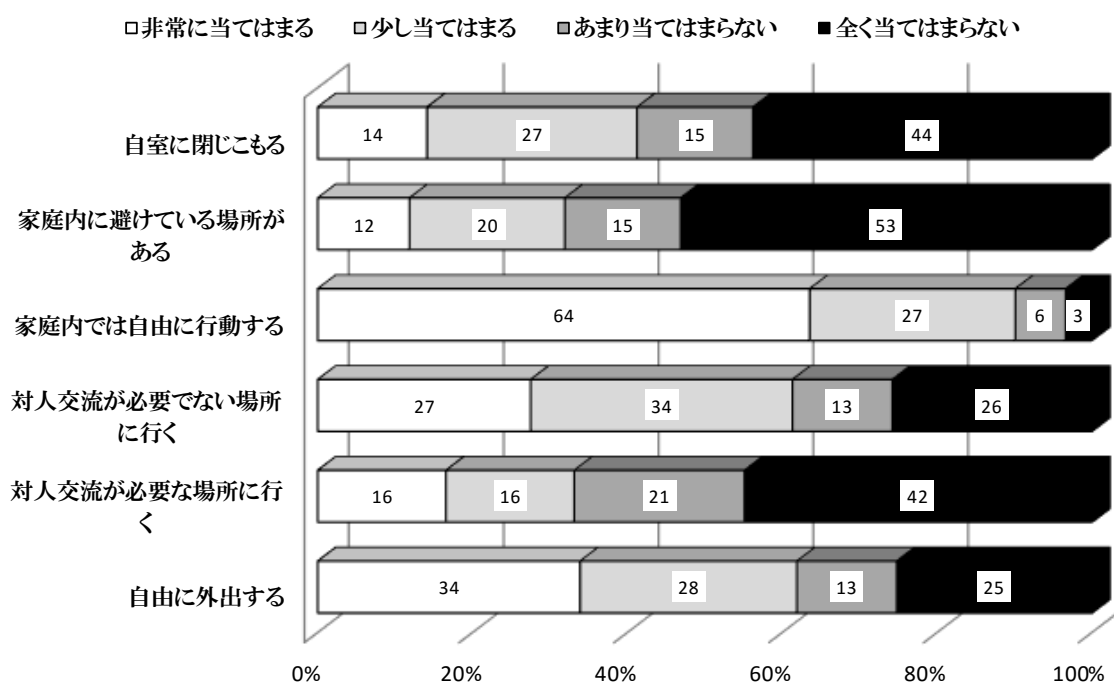


図3－10 ひきこもりの程度

図3－10のとおり、ひきこもりの程度については、家庭内では自由に行動し、外出を自由にする方、対人交流が必要ない場所へ行く方が多いと言えます。しかし、自室に閉じこもることについて、「非常に当てはまる」あるいは「少し当てはまる」と回答した人が4割に上り、本人調査の回答者よりも深刻なひきこもり状態にあると言えます。また、昨年度と比較してもほぼ同様の結果でした。

(2 1) 活動状況

ご本人の活動状況を図3-11から図3-13に示しました。コンビニ(71%),スーパー(67%),自動販売機(64%)には行くことがある人が多い一方で,フリースペース(11%),学校(6%),ボランティア(5%)に行くことがある人は少ないことが分かります。

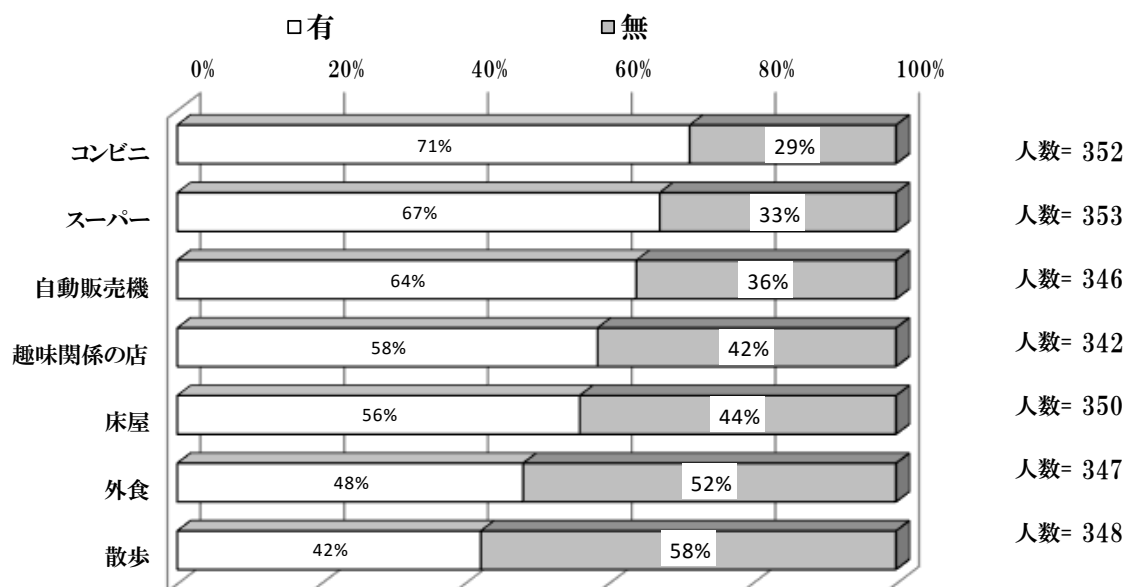


図3-11 活動状況(1)

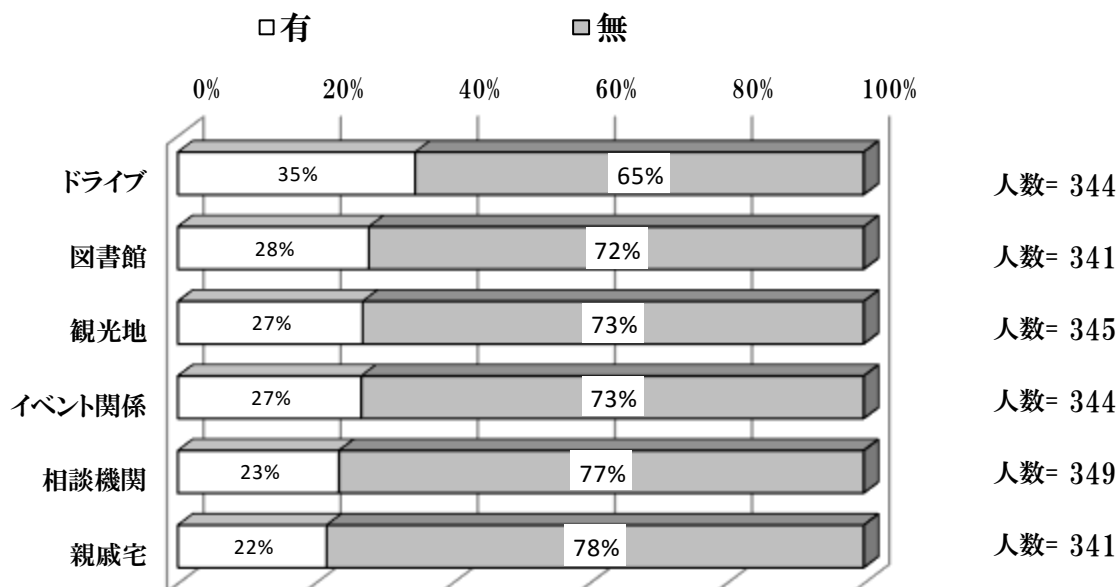


図3-12 活動状況(2)

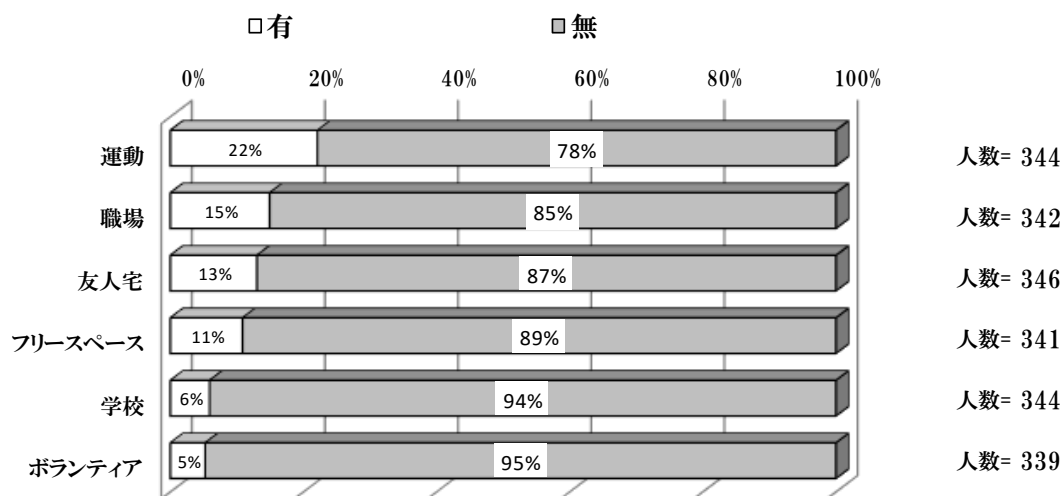


図3-13 活動状況(3)

(22) 外出日数

ご本人の1ヶ月の外出日数を図3-14に示しました。「毎日」外出している場合、「31日」外出している場合は、「30日」として示しました。外出日数の平均は11.3日、最少は0日、最大は30日でした。もっとも多い回答は0日であり、家族回答者が抱えるケースでは、まったく外出しない人が多いことが分かります。

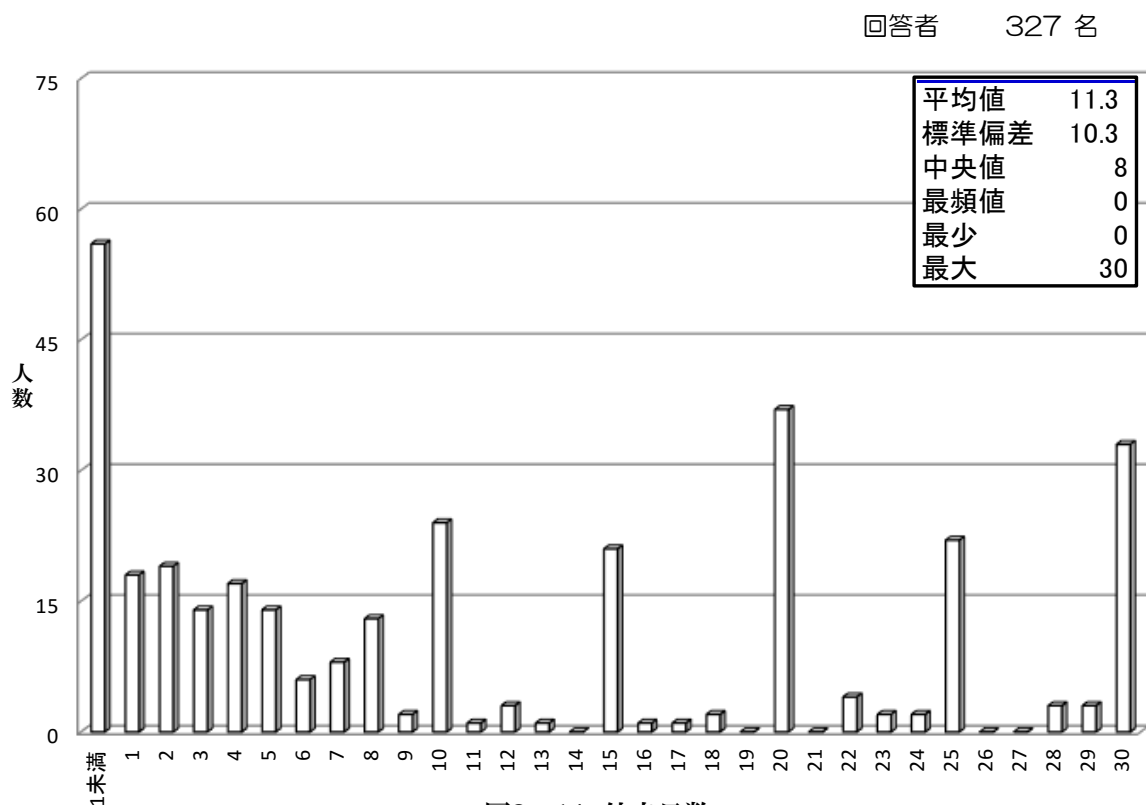
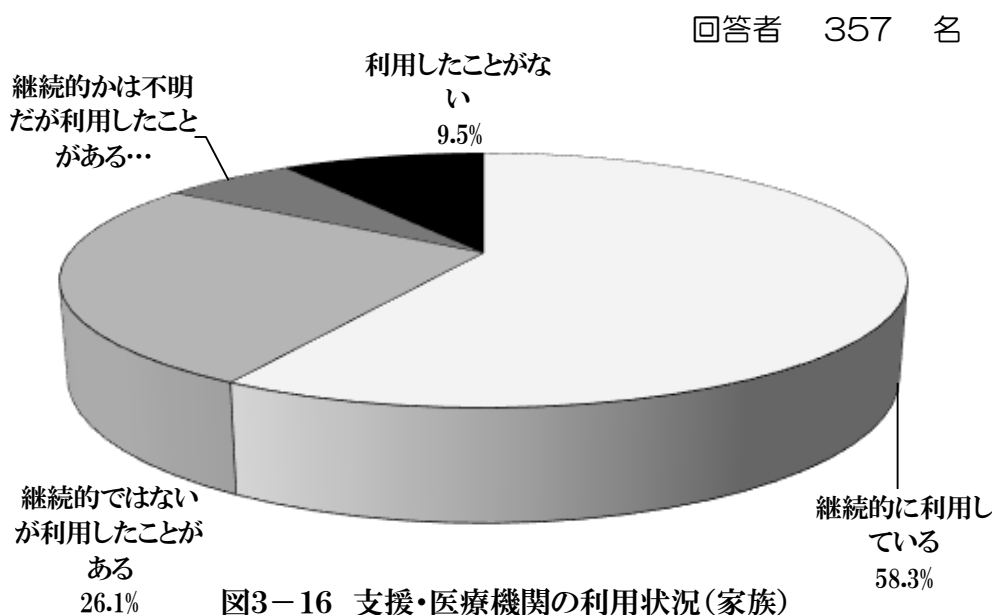
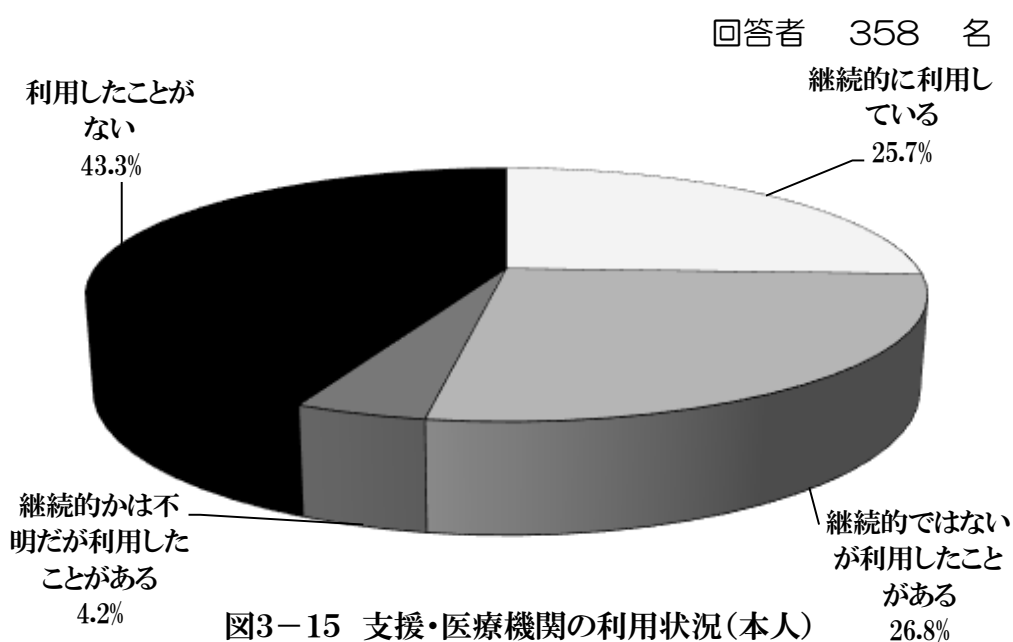


図3-14 外出日数

(23) 支援・医療機関の利用状況

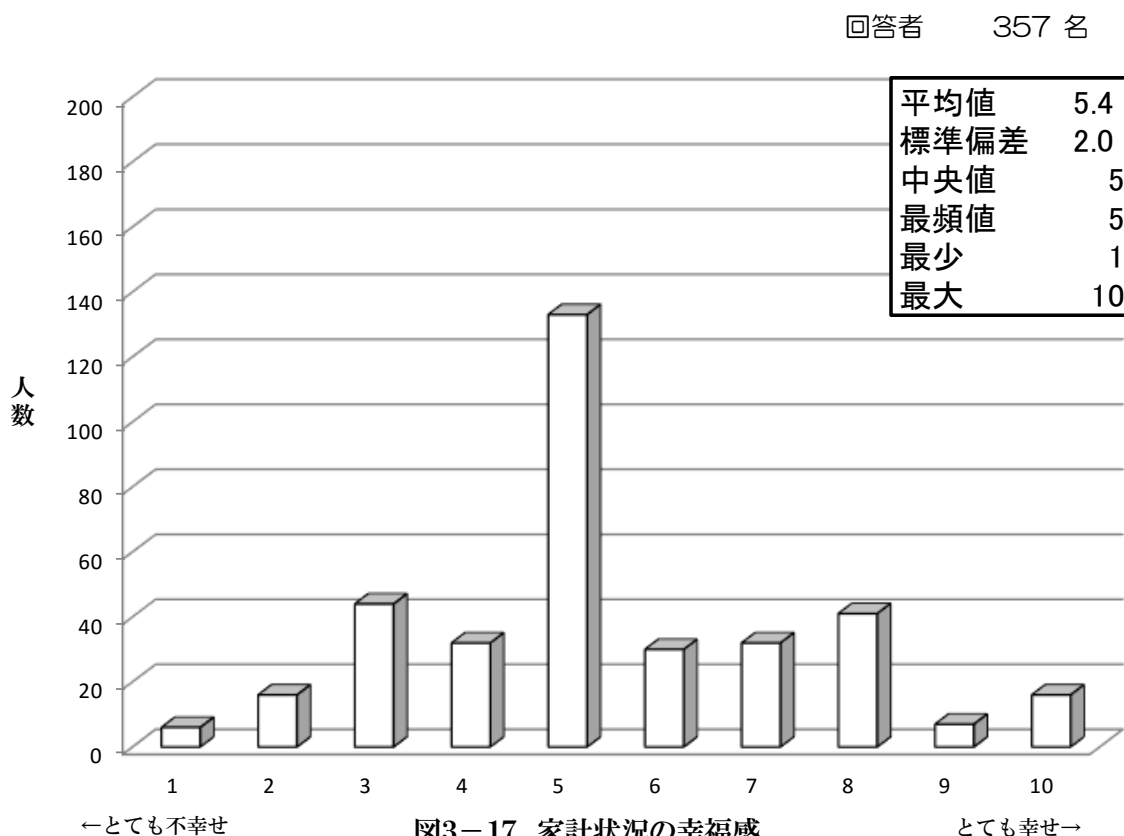
ご本人の支援・医療機関の利用状況は、図3-15のとおり、継続的に利用している人が25.7% (21.3%) である一方で、利用したことがない人が43.3% (47.9%) でした (カッコ内は昨年度の値)。昨年度よりも、継続的に利用している人がやや多く、利用したことがない人がやや少なくなっていることが分かります。

また、ご家族の支援・医療機関の利用状況は、図3-16のとおり、継続的に利用している人が58.3% (34.5%) であり、利用したことがない人が9.5% (15.3%) でした (カッコ内は昨年度の値)。昨年度よりも、継続的に利用している人が多く、利用したことがない人が少ないことが分かります。



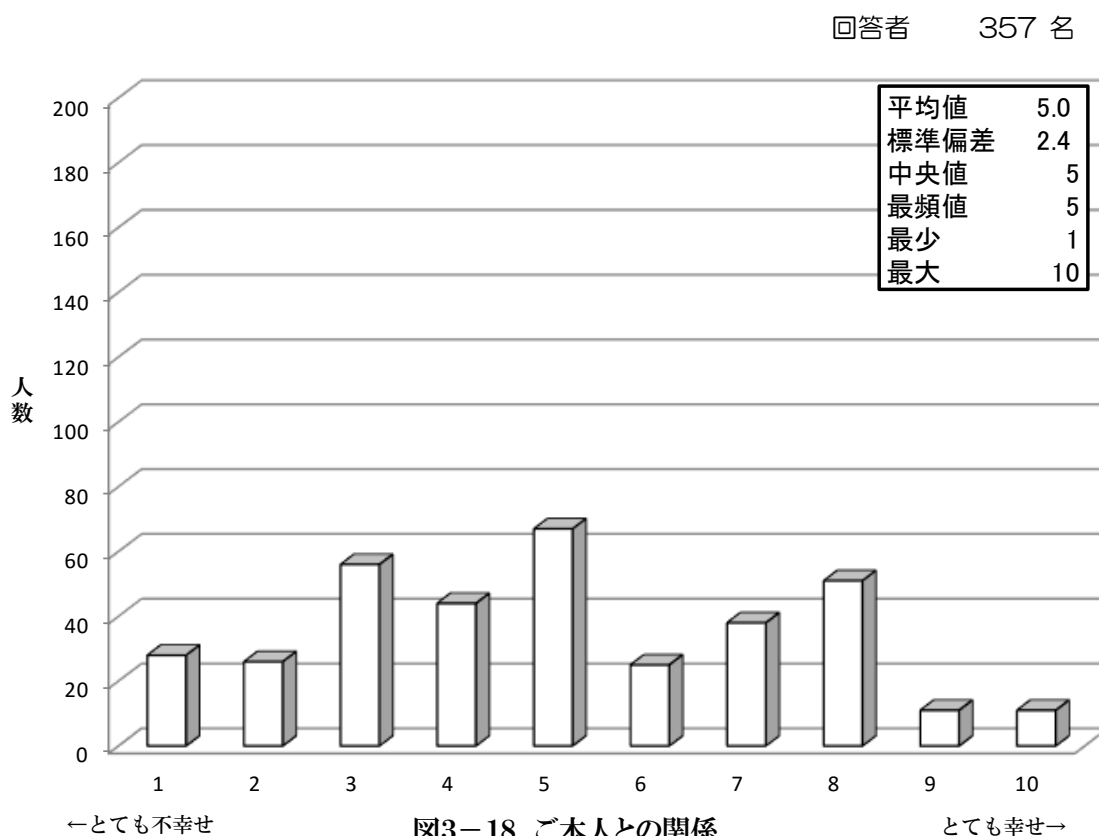
（２４）家計状況の幸福感

図３－１７のとおり，家計状況の幸福感は，家族回答では18%（14%）の方が10段階で3以下と回答していることが分かりました（カッコ内は昨年度の値）。これらの方は，家計について幸福感が低いことが予想されます。その一方で，37%の人は5と回答しており，家計状況の幸福感に関してどちらともいえない状況にあることが分かります。



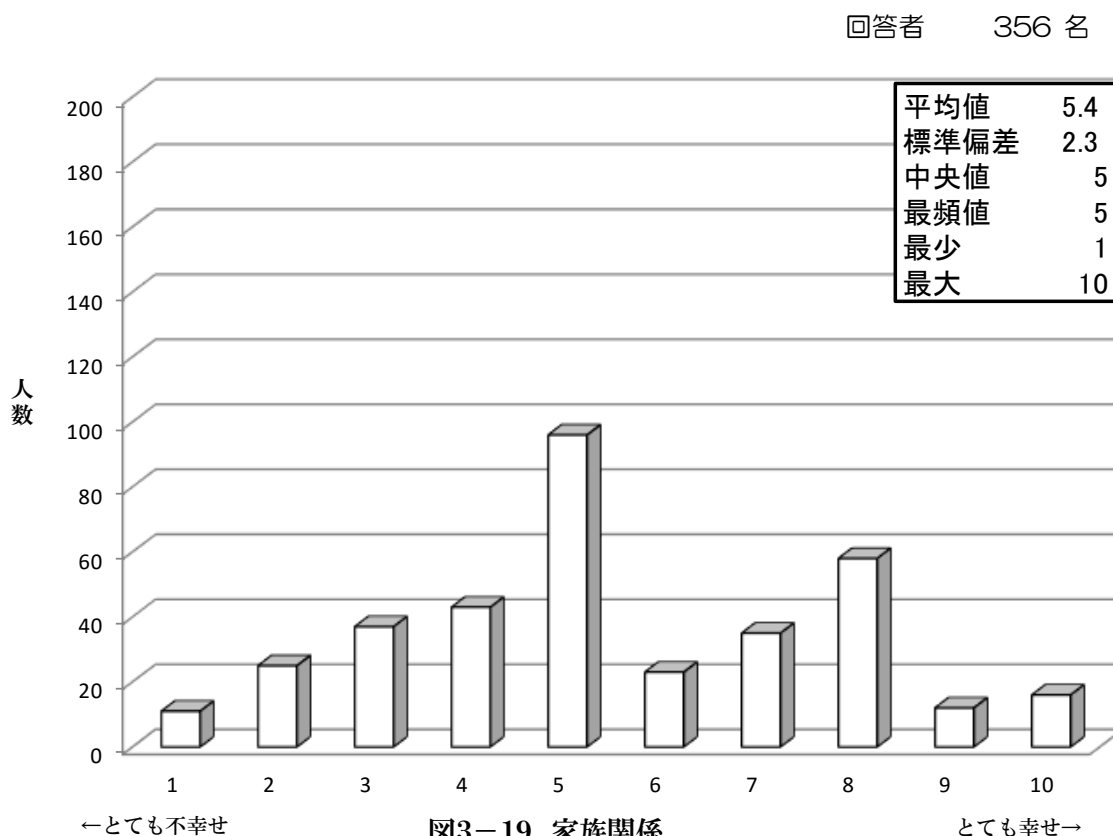
（２５）ひきこもり本人との関係の幸福感

図３－１８のとおり、本人との関係の幸福感は、家族回答では31%（34%）の方が10段階で3以下と回答していることが分かりました（カッコ内は昨年度の値）。これらの方は、ご本人との関係について幸福感が低いことが予想されます。また、8以上と回答した人は20%にとどまっており、とても幸せと回答している人は少ないことが示されました。



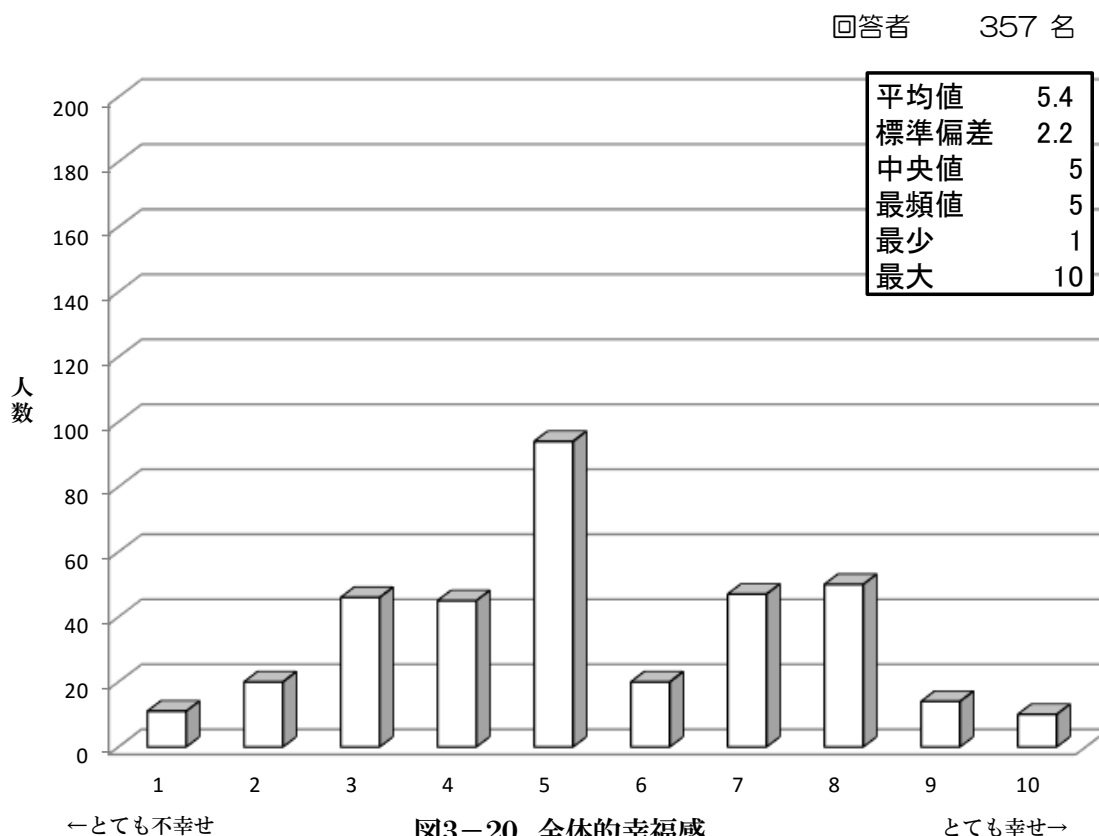
（２６）家族関係の幸福感

図３－１９のとおり，家族関係の幸福感は，家族回答では21%（20%）の方が10段階で3以下と回答していることが分かりました（カッコ内は昨年度の値）。これらの方は，家族関係について幸福感が低いことが予想されます。その一方で，27%は5と回答した人であり，家族関係の幸福感についてどちらでもないと感じている人が多いことが分かります。



(27) 全体的幸福感

図3-20のとおり、全体的幸福感は、家族回答では22%（19%）の方が10段階で3以下と回答していることが分かりました（カッコ内は昨年度の値）。これらの方は、全体的な幸福感が低いことが予想されます。その一方で、26%は5と回答した人であり、全体的幸福感についてどちらでもないと感じている人が多いことが分かります。



（２８）生活状況

図３－２１から図３－２５のとおり、ご本人の生活状況として、「全然ない」、「あまりない」と回答した人が少なかったのは、「身の回りのことを自分でする」16.0%、「家族の呼び掛けに返事をする」17.7%、「他者と会うことを避ける」20.4%であり、これらのことはご本人の生活状況としてよく見られることであることが分かります。その一方で、多かったのは、「他者を遊びに誘う」90.9%、「他者と遊びに出掛ける」85.5%、「社会参加のために苦手なこともする」83.9%であり、これらのことはご本人の生活状況としてあまり見られないことであることが分かります。

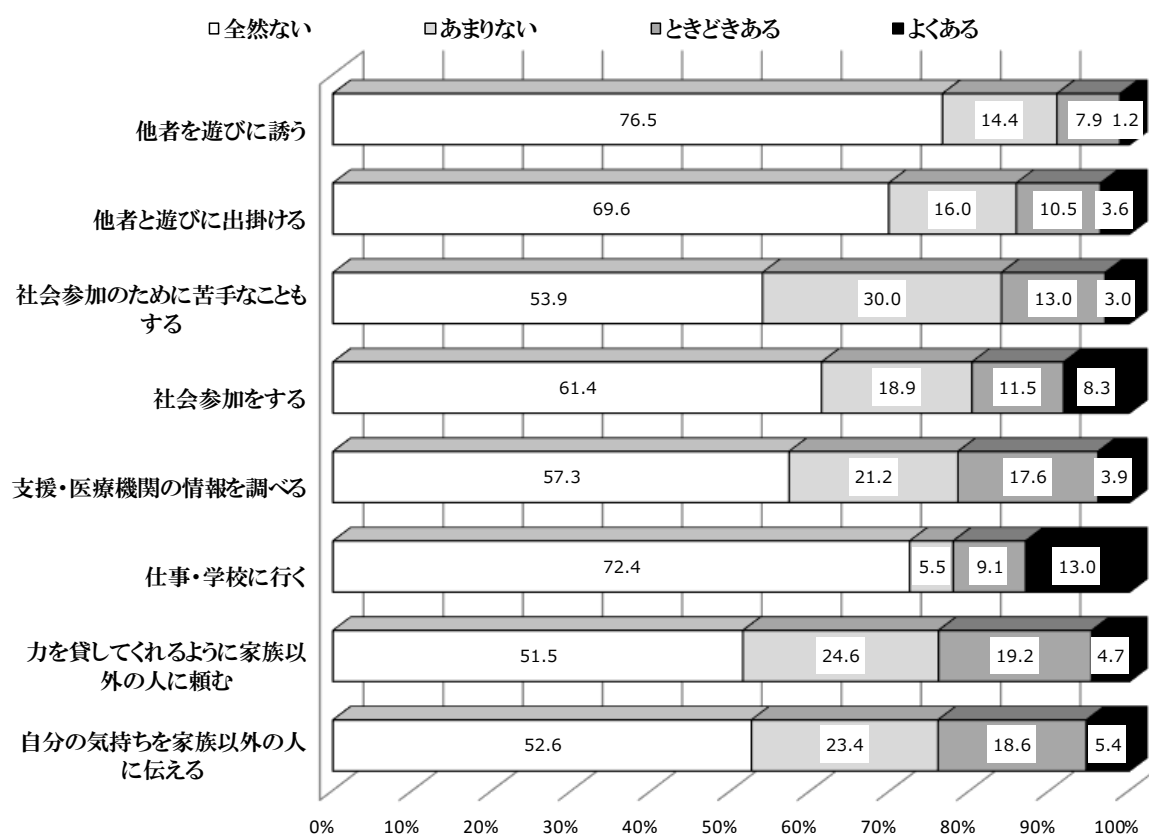


図3-21 生活状況(1)

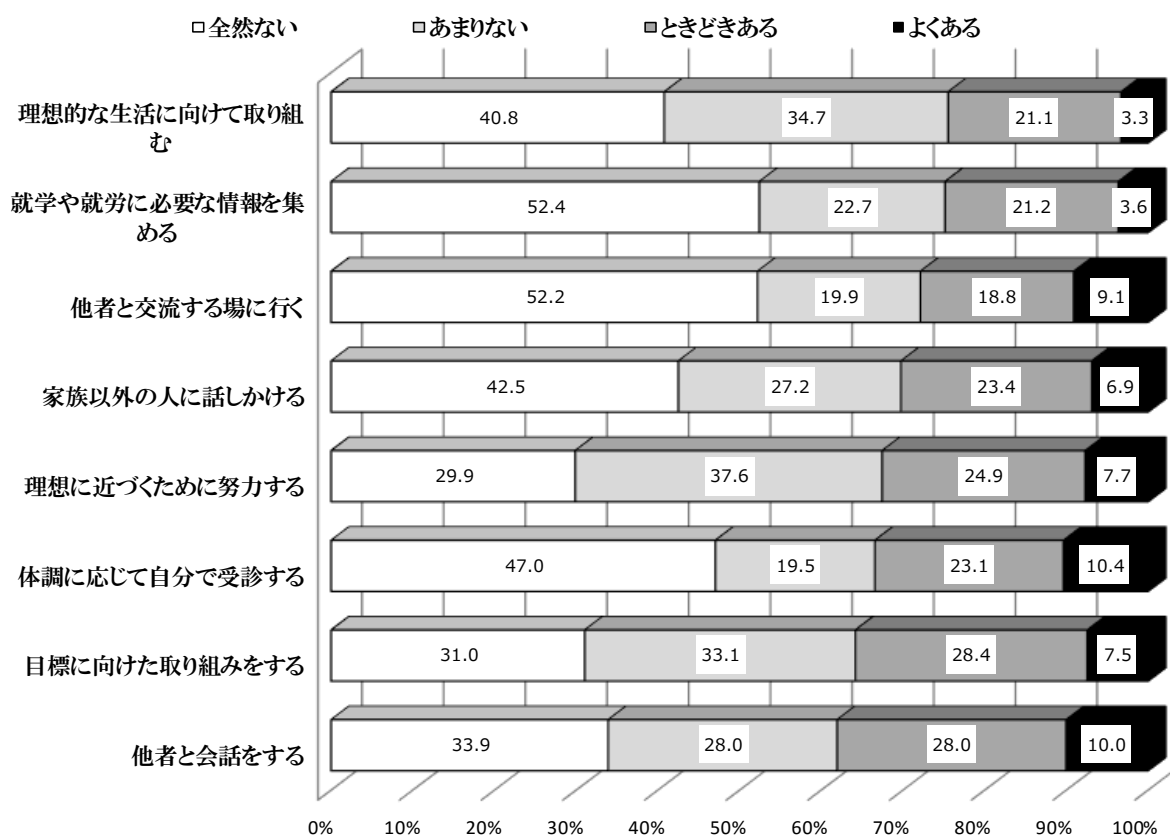


図3-22 生活状況(2)

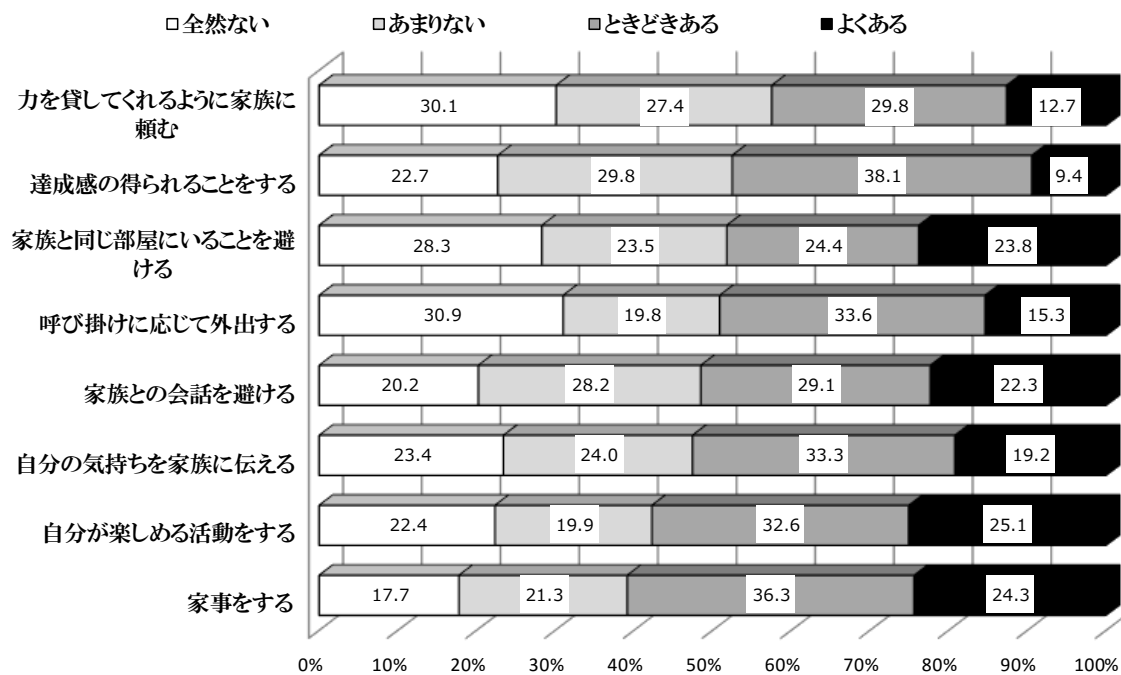


図3-23 生活状況(3)

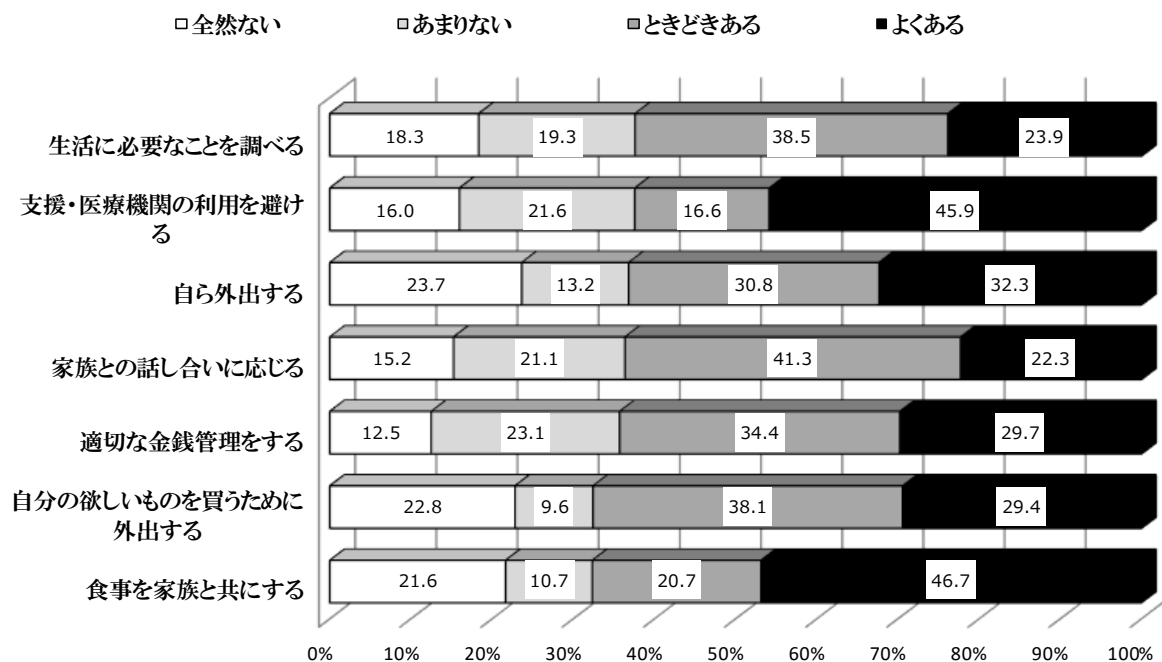


図3-24 生活状況(4)

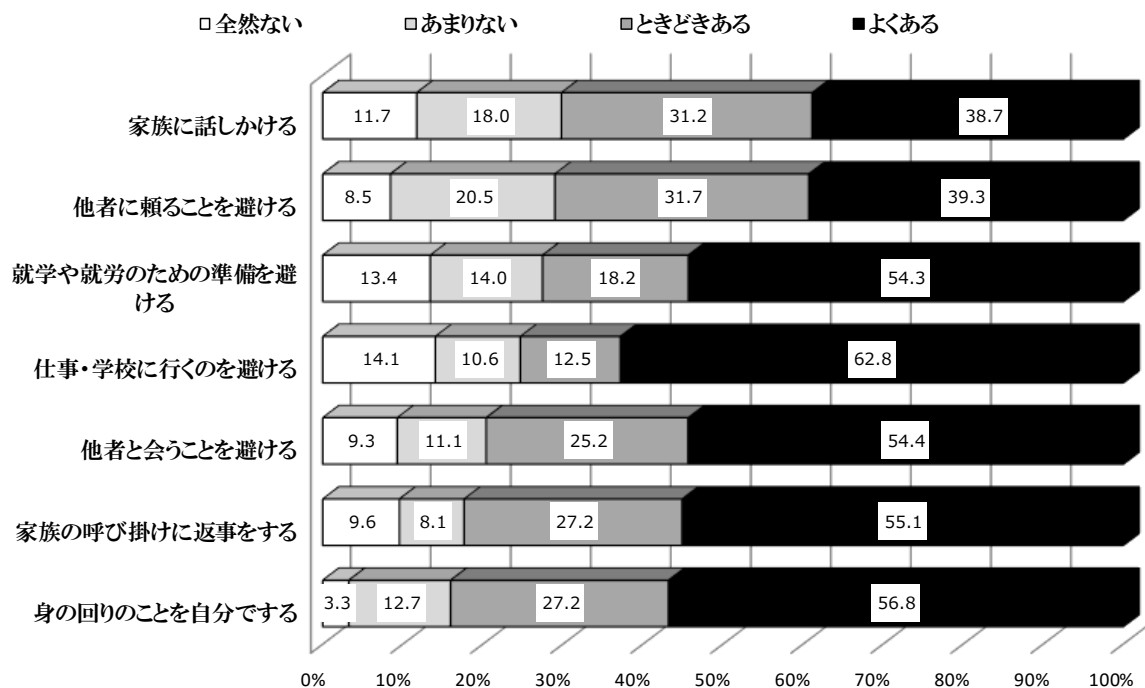
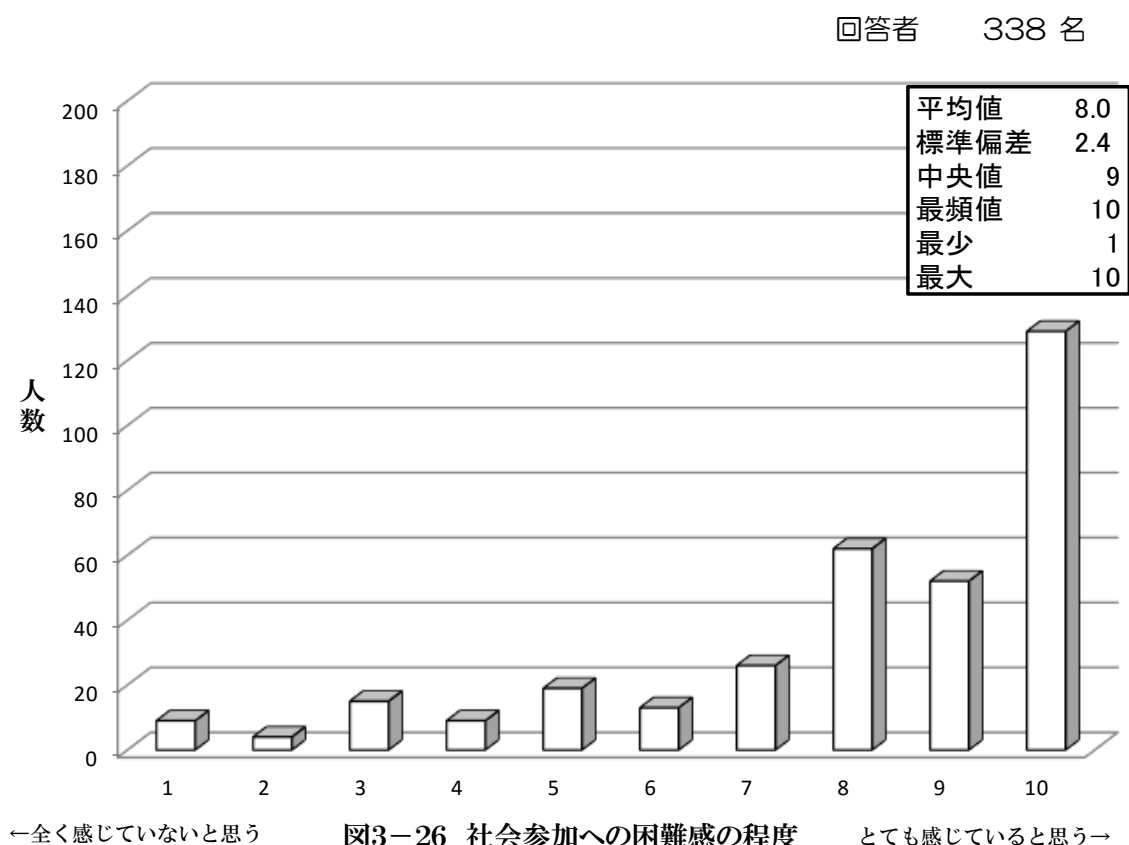


図3-25 生活状況(5)

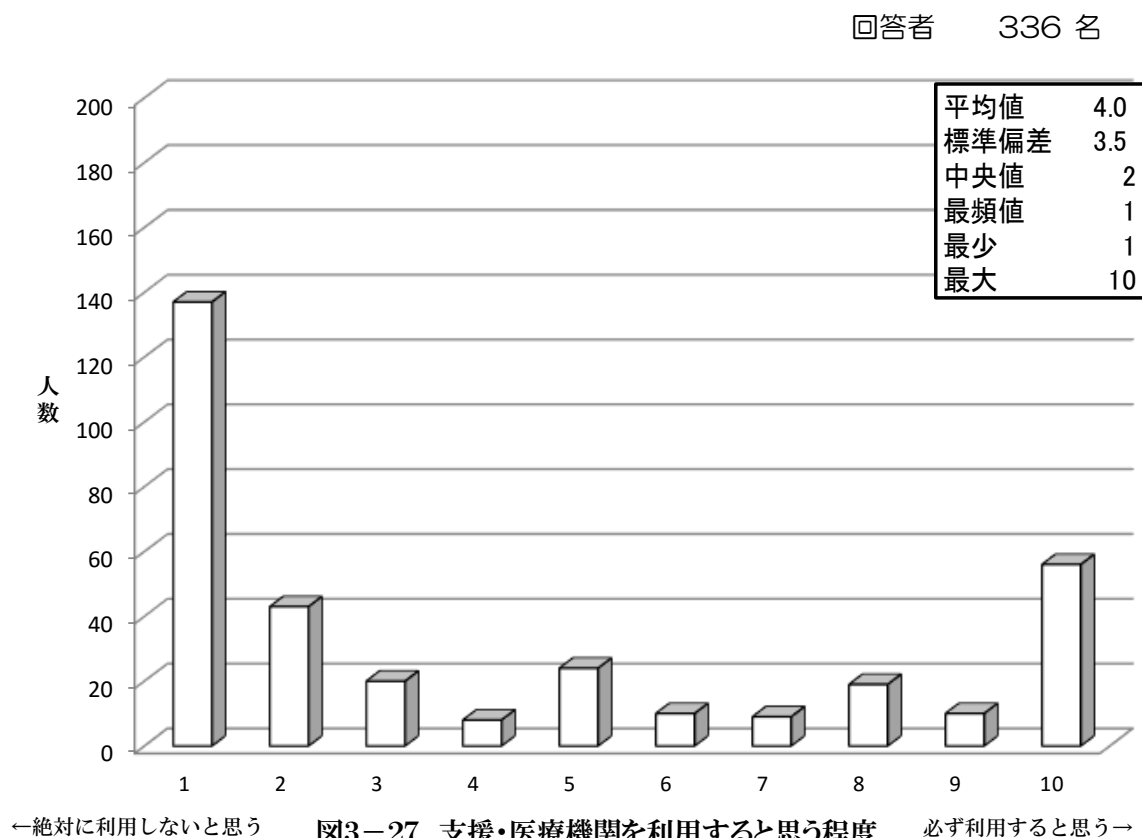
（２９）社会参加への困難度の程度

図３－２６のとおり、ご本人の社会参加への困難感には、８％の方が１０段階で３以下と回答していることが分かりました。これらの方は、社会参加への困難感が低いことが予想されます。その一方で、７２％は８以上と回答した人、３８％は１０と回答した人であり、社会参加への困難感が高い人が多いことが分かります。



（３０）１ヶ月以内に支援・医療機関を利用すると思う程度

図３－２７のとおり、ご本人が１ヶ月以内に支援・医療機関を利用すると思う程度は、60%の方が10段階で3以下と回答していました。これらの方は、１ヶ月以内に支援・医療機関を利用すると思う程度が低いことが予想され、利用すると思う程度が低い人が多いことが分かります。その一方で、25%は8以上と回答した人であり、１ヶ月以内に支援・医療機関を利用すると思う程度が高い人も一定程度いることが分かります。



第四部 自由記述

自由記述では、以下のことについて回答を求めました。

本人・家族回答用

I. 生活困窮者自立支援法に基づく自立相談支援事業において、ひきこもり経験者とその家族を支援していく上で、「ひきこもり経験者とその家族の自立と尊厳の確保」、「ひきこもり経験者とその家族への支援を通じた地域づくり」という目標を達成する上での課題について、自由にお書きください。

II. ひきこもり経験者の社会的自立に向けて、居場所でできる活動について自由にお書きください。

以下には、それぞれの質問についての回答を本人回答者、家族回答者に分けて記載しています。自由記述の内容は、実態を示すため記載された内容を忠実に再現していますが、個人が特定できないように記述の趣旨が損なわれない範囲で編集しています。なお、大半の自由記述は掲載しておりますが、記述の量や重複を考慮し、掲載されていない自由記述もあります。また、読み取ることの困難であった記述は「●」で示しています。

I. 生活困窮者自立支援法に基づく自立相談支援事業への意見・要望

本人回答者

① 支援体制に関して

- ・自分が住んでいる市の自立支援の試みでひきこもり問題について考える機会に出席したことがあったのですが、その場に居た支援者の間に「ひきこもり」に対する共通理解が存在していない感を受けました。もっとひきこもりについて関心を持ってもらえるよう、当事者も家族も努力していく必要があると思います。
- ・地域の相談機関は、いざという時に、とても頼りになると思います。私は、親との関係で悩んでいることを、「困りごと相談」で聞いてもらって、気持ち楽になりました。
- ・「自立と尊厳の確保」「支援を通じた地域づくり」をよりよく進めるためには、「支援をする側」も自らのこと等について考える必要があると感じる。
- ・効果的で適切な支援が行えるようにするための人材の確保と関係機関
- ・私の住む地域では社協をはじめとする自治体があまりに非協力的であり、県内には頼りになる支援機関もないので非常に困っている。制度がいくら出来ても支援者、協力者の視線が変わらなければ何も向上しないだろう。
- ・働くこと。自分で生活するお金を自分でかせぐこと。
- ・居場所が少ないのが難点だと思う
- ・私はパソコンやケイタイを使わないので、情報は少ない気がする。自分の家は、自治会にも入っておらず、地域の人との顔も良く知らないし、親も人との関りを嫌う。地域のために何

か出来るならやりたいけど、何をして良いか全く分からない。他人の視線は死ぬ程に怖くて、外を歩いていても、とても罪悪感で、気が狂いそうな事が多い。会社に入る事は、とても恐く、気楽に単純なボランティアバイト？の様な窓口が必要な気がしています。

・市の相談窓口は機能していない、過去の病歴を話すと再診させようとするがその先のプランの説明とか無いし、グレーゾーンの人には利用しづらい。「病気、障害ありき」な制度でしかなく制度にあてはまらないので こぼれ落ちてしまう状態だし、相談に行っても余計不安になるだけ。

・当事者と親と公平かつ前向きなアドバイスができる機関が少ない。Dr、Ns、PHS、行政の中にその分ヤでのスペシャリストが少ない。

- ・正しい情報の発信
- ・受け手の成長、学びの必要性ピアサポーターの限界
- ・当事者自身がどう受け取るかが大切
- ・支援者としての力をいかぶりすぎると、何も効果を生まない。
- ・ピアサポートでも、自分ができることは限られている。自分ができることは、何かを見極めていくことが必要。間接的な気づきを促す。
- ・支援者として行うことで、上から目線(与えるという行動自体が)、(当事者が)になりはしないか。

② 支援内容に関して

・時間がかかってもゆっくりと進めるようにしてほしい。せかされたり、いそがされると、本人はしんどいと思います。

・町おこしや子育て等のイベントにひきこもり&ニートの人達の活動出来る場を提供する様にしてはどうでしょうか？

- ・対象の精心障害を正しく理解し接する。
- ・もっとひきこもりたりしてよくわかってほしい。
- ・青空教室のような場所にて、いろいろな体験ができ、仕事にもつながるような短時間でサポートの方と、やわらかい場所なら話もできる。
- ・ひきこもりの方がもっと勉強できるような場所がほしいと思います。
- ・中高年の「たまり場」就労訓練と相談の場
- ・居場所を作る。話ができる所が必要
- ・様々な寄り所の選択肢を1つ1つ色々をバリエーションを変えて増えていくと良いと思います。本人は元より家族の支援がもっと増えるといいと思います。
- ・本人の社会復帰への不安の軽減自身の回復、段階的な仕事などの社会復帰のバリエーションの豊富土
- ・その家族ごとのケース、ケースに合った支援。

③ 地域における理解の促進

- ・当事者以外の理解が必要だと思います。

- ・団体のネットワーク作り。手厚く理解ある支援がなされている地域がある一方で、未だに「ひきこもり」へのステレオタイプな偏見や誤解に基づいた方法が採られている地域もあり、そうした地域間格差の解消が必要だと思われる。
- ・就労における社会的ブランクに対する企業への理解度を上げるひきこもりに対する理解を深めてもらう場をもうける、ひきこもりの家族がその地域においてつながりをもつことができるネットワークのこうちく。
- ・ひきこもりの方に対する世間の目が冷たい
- ・世間からの理解が、まだまだ低いと思います。
- ・引き込もっていて対人不安が強ければ、経験上外に出る事はとても難しく思います。エネルギーが、社会に還元できれば良いと外に出れる今は思えても、当時者の時は絶対的な無理がありました。やはり、地域全体に“引き込もり”、に対しての多角的な理解が進まないと、行きつく先は“生保”であると思う。私が自立した精神や、外へ出る行動力を持ったのは、貧困と好きな物や事が少し認められた事です。定着した就労は現在は、無いけど、親から離れ、清掃や、力作業などやっている。
- ・周囲の理解を得る為には、情報発信、理解してもらう努力が必要だと思うけど、世の中そんなに甘くないので。
- ・自助努力だけでは自立と尊厳の確保は困難であり、周囲の理解が何よりも必要である。地方都市では街に残る働きざかりの人はひきこもりの人にもなることから、そうした人たちの街の担い手をして見て取り組むことは大切である。
- ・当事者だけでなく家族全体が地域から孤立しているケースが多いように思います。地域の密な連帯が大事だと考えているのですが、行政や専門家だけでは限界があると思います。当事者とその家族がもっと地域で声を上げる必要があるのではないのでしょうか。

④ 生活困窮者自立支援法の制度に関して

- ・ひきこもりは、そうしたくてしている訳ではなく、他の選択ができずにいる状態だと私は思う。これも障害者とは、少し違うけど、それに似た対策や制度をつくると、良いのかなあと思う、障害者年金や失業保険の要素を含むようなひきこもり専用のしくみがあると良いのではないかと思う。
- ・私は今障がい者総合支援法に基づく就労継続支援 B 型という事業所のスタッフをしています。市内(人口 190 万)に 400 ものこのような事業所があります。この数を利用する手はないのでしょうか？もうすでにこんなに数があるのだからスタッフのきちんとした研修と、障害者だけではなく通所者の幅を広げて訪問等にも加算がつくようにしたら、もっとひきこもり支援が動き出すと思います。今からまたひきこもり支援だけに事業所をつくっても、数は全く足りないと思います。障害者施策との融合を望みます。
- ・こういう法律がある事自体知らない。

⑤ 支援制度に関する啓蒙

- ・相談できる場所が少ない、またそれに関する情報を得る方法が分からない。
- ・どこにあって、なにを実施しているのか、地域の人には知らないと思う。私も知らない。

⑥ 支援を受けることの困難

・支援の場がわるのは大変ありがたいです。ですが、利用できないので悩んでいます。利用出来ない理由は、恐怖や不安に囚われるためです。その場所の雰囲気や、その場所にいる人がどういう人たちなのか分からないためです支援場所の情報が詳しくわかれば敷居も低くなります。実際に支援を受けたことのある人の話を聞く機会があればありがたいです。

⑦ その他

- ・外の人との交流を持ってつき合いを無理のない程度にすること。
- ・特になし
- ・?(質問の意味が…)
- ・見通しが立つことが重要。ひきこもり状態は一時的であるということが理解できて何に困っていて解決策は何か分かれば、実行できるかどうかまではいける。ただ不安な気持ちや考えばかりで何をすればいいのか分からなくて困っているのがひきこもっていた当時抱えていた問題だった。問題が明確になっていってからは少しずつできる事をやっていって前に進めていると感じられるようになっていく。ひきこもりの地域の中での理解があると感じられれば安心して外に出られる。
- ・今のままでいいと思う。
- ・共に生きていくと認め合う姿勢、歩み寄り、目標、共有できる仲間

家族回答者

① 支援体制に関して

- ・親が、健康を維持出来なくなった時、本人が自分の力だけで支援を受けるための行動が取れるだけのエネルギーが十分でない場合を考えると、とても不安である、支援者の手をおかりして、生活困窮者支援を受けられるよう、最後まで担当し支援して下さる人的環境の体制を整えていただきたい。
- ・地域に支援してもらえる機関が少なく、充実されていません（三重県四日市市）もっと行政が中心となって働きかけてほしい。知識、理解のあるスタッフの育成、人数の確保（予算）居場所の提供。環境の充実。
- ・自立相談支援事業を強い意志を持ってやっている、市町村は県内にはない！民間でやろうとにいる人はいるかもしれないが、お金目当がありありで、志(こころざし)が高い団体が無い、財力はなくとも、志ある人達との連携が必要と思う。
- ・高令者支援の様に、早期に希望者に対しては行政または支援機関が訪問支援が実施される、社会システムを構築して欲しい。家族内では互に煮詰ってしまい新しい展開が切り開けないでいる。ひきこもり家族としての行政の対象範囲が余りに狭いためほとんどのケースが対象外となっている。
- ・ひきこもりという状態を支援者の方がより深い知識をえられていただければと思います
- ・いっても安心して相談できる物がほしい 相談できる人達が本当にひきこもりがわかる人がいない

- ・平日、仕事をしている親も多いと思いますので、平日、夜、土、日、祝日も、支援を受けられる、システムがもっとふえるとよいと思う。カウンセラー費用の助成など国としても、もっと考えてほしい。
- ・自立支援事業の支援を行う場所が少ない。自宅より遠くにあれば行にくいし、近くにあれば近隣や同級生との出会いがあるのでこれもむずかしい。仕事はしたいと言うが引き受けてくれる会社はない ひきこもりやニートのために出来る仕事の会社があり、理解者がおられるような仕事場を作してほしい
- ・年がバラツいているので、同一レベルでの支援は困難では？
- ・6 カ月ひきこもていたら、家族だけが対応するのではなく。地域の行政、資源が家族ごとサポートする、体制を整えてほしい。ポスターや市区町村の広報でサポート体制をアピールし、困っていらっしゃる。ご本人ご家族が手助けをお願いしやすい環境を作してほしい。ひきこもりを長びかせないために。
- ・市町村で、ひきこもりについて、課題をかかげ、支援の場があると、良いと思う。
- ・1、身近かな所がない。2、支援の考え方がなかなか実行出来にくい。3、適切なアドバイスが欲しい。
- ・専門職(カウンセラー、Dr、など)の方々への相談が、継続して行なえる様なシステム窓口が市町村で開設いつでも行ける様にしてほしい。
- ・自立相談支援に本人が少しお世話になったが、返って、傷ついて、つらい経験をさせてしまった、もっと本人に対して尊厳をもって接して欲しい。まだまだ支援者の知識と寄りそう気持ちが足りないと思います。
- ・地域の理解がない→ひきこもり状況をオープンにできない。医療、心理関係の専門家が非常に少ない。(ひきこもりに関心のある)
- ・高ねんれいになってきた為子供のその後心配 ひきこもりの人達の生活する場所があったらと思います不便な街に住んでいるためいろいろと困難なことばかりです
- ・医療にかかっていない人が不利である、障害者枠の範囲が問題
- ・制度(国が作る)の目的に就労できそうな人を支援の対象としているので、ひきこもりの人には、高いハードルとなっています。当会では、ざっくりと今年3~4%の当事者のみが就労または就労支援を受けられたというきびしい実状です。来年はもっと低い数字が出そうです。身心面の様々な理由で実際には制度利用ができない子どもたちへの手当が必要であり、会員のほとんどの方のニーズであることを、KHJ 本部理事の方々に認識していただくことを願っています。
- ・居場所を増やす(現在設けられている居場所は遠距離)
- ・行政も財政 etc などの理由で上から目線で優しくない。
- ・時々他の家のことを耳にします。子供が中年になっても外に出ていないと、自分の家もそうなので、気になります。働きかけができません。もっと気楽に近くにひきこもりの家族がいる、家族が集まれる場所があればいいと思います。
- ・カウセリング、後見者制度などを利用すると料金が発生します。年金生活になると。子どもを養うだけで精いっぱいなので、低料金で活用できるところがあると思います。
- ・ひきこもり本人の世話を肉体的、経済的に行うことは、現在の私には無理です。現在 60 才、母子家庭、これから、何十年も本人を支えていきますと、共倒れとなります。親の介

で親子が共倒れになる事例と同じ現状が起こらぬよう。ひきこもりと親の生活は分離させて頂きたいのです。私にとっては、本人と分離することが幸せです。本人も私と分離し、生きていきたいと言っております。ひきこもりの自立。自活(生得)分離こそ、家族への支援です。

・まだひきこもり本人は家の近くにはあまり行きたがらないので住所でくぎった場所の指定はない方がいいと考えられる

・行政の職員の方々は他の業務もあり、人材が確保されているとは言いにくい。地域の精神保健福祉ボランティアグループ、ひきこもりサポーターなどに協力してもらうことや、その活動を支える経験豊富なスーパーバイザーが各都道府県全てに必要だと思う。当事者ひとりひとりにきめ細かい支援をすることにより自立できる人が増える可能性がある。そのための人材の確保と場所を国の予算できちんと作ってもらいたい。

・行ける場所 支えてもらえる人

・公的な相談機関を利用したが本人が相談に行かないために何の進展もなかった、本人が相談に行くことは難しいという前提で家族が何度でも足を運び相談できるよう支援してほしい。

・私の地域でも相談窓口は設置されたものの、形だけのもののよう相談者が必ずしも満足出来るものでない。他の域では、同行支援(仕事場など)などもその人の特徴に合わせて支援されているように聴く、自治体自身が積極的に取り組むところと、そうでないところでは、サービスのちがいが大きいと思う。国の方からの指導がけいぞくして行われることを望む。

・家から出られないのでインターネットを利用するなどして、家にいながら、社会とふれあうきっかけができればいいなと思っています。足を一歩だせる様な…N 高等学校など本人はiphone を起きている時はほとんどみていますので動画、アニメ Youtube、マイクラットゲーム、囲碁などを行っています。そこに、例えばクリークレたくなる様な脱ひきこもりのきっかけになる様な CM が出たら…いいかも…と思ったり…

・〈ひきこもり経験者とその家族の自立と尊厳の確保〉 ・ 当人・家族が関っている機関の横の連携(ケース会議、カンファレンスのようなもの)によって、当人、家族の成長や課題が総合的にそれぞれ共有せれ。当人、家族が混乱しないような。支援があれば……。 〈地域づくり〉 ・ 最も理解可能な人材の啓発活動を年に数回と、各団体へ出前出張研修を行なう。 { 介護団体 民生委員、町内会役員、社会福祉協議会担当福祉課、生活保護課、関係の民間団体、教育関係機関等の、市レベル、地域レベルでの } 支援協議会的なもの？ ・ 支援ボランティアの研修会を行う。

・ 長期の引きこもりによる精神疾患と、親の高齢化などもあり、入院治療ができる施設と専門スタッフを各地においてほしい

・ 1、最近の行政の対応が支援結成立法、大中に改善しつつあると感じている 支援するには念を取り過ぎました。行政にはもっとプロ意識のある人が継続して担当して頂ければ良いと思います

・ ○小学生から、不登校・ひきこもりが続いていても、中学を形式的に卒業してから、全く支援機関がない。○ひきこもりであることも、市町村の方は、全く知らない。○KHJ→自立支援相談事業であっても同じだと考える。とは発達障害(アスペルガータイプ)のひきこもりに対する対応についての認識不足。

・市の福祉ネットに相談に行ったが4月から始めたばかりなのでこれからという感じで人もいなくいなくなってしまう。来年は又TELしてみようと思うが…

・社協に困り事相談(ひきこもり)に行ったが「本人を連れて来てくれ。」と言われた。ひきこもりについてよくわかっていない。相談窓口にはできたが。本人を連れて行かれない。

・関係者には、専門的な知識が欲しい。

・ひきこもりの特性を理解した上での支援が不十分。相談だけでなく、その後のフォローが必要。

・ひきこもりの大半は相談機関を訪問することができません。予算上厳しいのはわかっていますが。長い眼でみれば(ひきこもりの人が少しは社会参加できる可能性がある)経済的にも訪問する為の予算を組み、訪問にとりくんで欲しい。ひきこもりの高令化、長期化が言われています。親が長い間格闘してきた結果です。親は心身とも疲弊しています。ひきこもりの専門性のある職種の人を養成して欲しい。適切なアドバイス、診断があれば、長期化は防止できると思います。ひきこもりはどの家庭にも起こりうる事です。社会問題として、国がとり組んで欲しいと思います。

・市町村で足並みがそろっていないと思う。現在住んでいる自治体でも「相談事業を開催する」という記事(広報紙で)を見ましたが、「ひきこもり」の文字はありませんでした。また、息子は今週2回1時間以上かけて病院とデイケアに通っています。近くに支援体制(機関)がなく、仕方がないのですが、この先、通い続けることを考えると経済的に心配です。近くに居場所(働く場所も)ができればありがたいです。

・田舎(地方)なので、地域や行政の支援をうけづらい。民生委員についても、「近所」の壁は大きい。

・"交通費や医療費等に対する補助。

家族関係が悪い場合のホーム(支援付き)"

・引きこもり者の人数調査は必要と思うが、その調査をする人に疑問に思う。調査を民生委員が行なっていると聞いたが、地域によっては、民委員になる人がなく、住民が順番で行っている地域もあり、不適切な人もいると思う。

・支援者の意識が、“してあげる”という感覚では、伝わらない自からの成長の為に、この問題を考え、取り組むことで、当事者の気持ちに近付けるのではないだろうか？

・相談に行くまでのプロセス

・公の支援事業は現在のところ、全く支援になっていない。

・ひきこもり経験者は、通常に仕事ができるようになるまではだいぶ時間がかかると思うので、あまり早く時間を決めなしでやってほしい。

・「ひきこもり」についての専門的知識と経験を持つ医師、カウンセラー、援助者が極めて少ないこと。特に私の居住地域においては。

・ケアサポを多く育成せねばならないが、まず軸になる人がいない。人材不足、会をささえて行くだけで今の現状ではいっぱいである。定年でもむかえた方がいれば理想的である。まだ先の状況。

・生活困窮者支援センターとネットワークを作り。協力態勢を作って活動の中に入っていく。ひきこもりを対照としていない(専門としていない)所もあるので、自分達の活動を知ってもらいサポートをし受け皿となっていく。

・家族間の情報の共有。多くの有益な情報が得られれば、家族としてもとても力強いし、やる気、希望、パワーがもらえます。家族が孤立すると、よくないことや悲観的なことばかり、考えるようになると思いますので、是非、色々な情報を得られるようなネットワークを作ってほしいと思います。

・情報の共有化

② 支援内容に関して

・あまり技授はしてもらえないように感じる。行政に要望しても、なかなか動いてもらえない。ただ支援法があるというだけに感じる、人それぞれ、ひきこまりの形が違うので、なかなか時間をよいて聞いてもえない、項目だけが目立っていて中味は、おきざりというように感じる。

・親が高齢化し長期化するひきこもり者に対してあきらめ感が強く、いろいろなアプローチをしていないように思う。

・他人とうまくかかわれないのが、劣等感、そ外感によるものが、分裂症、等によるものが、心の医療センターに通っていますが、確かな事がわからない。家庭の背景、生い立ち迄、総合的につかめる体制を作ってもらえ(専門的な見地からのアドバイス)たらと思います。

・表に出ていない、ひきこもり家族の掘り起こし。

・北陸においては、またまた公的機関。支援体制が整っておらず。相談にいても その時限りのアドバイスで終わってしまい解決に至らない。

・支援法ができたというだけで、積極的には行われてない。以前住んでた県では積極的で前向き度を感じられた。とりあえずやって、あとは民間まかせ。特に市は力が入ってない様である。県によって力の入れ方がちがうので、モデル県を公の機関、家族会に情報を流し、特に家族はいい方向に進めたいので家族会でも団結できると思う。その上で、各県の家族会に満足度を調査して国に提出したり、モデル県を中心にそれに近づく県の体制作りを全国ネットワーク化してやってほしい。どこの県に行っても同じ支援！子供のひきこもりによる転居多い。

・とりあえず、行ってみようと思って、行ってみたらあまりに熱く、応援され、ひいてしまうことのない、自由度の中のある支援を希望します 本人からの意見です

・私の場合、支援機関と関係を持ってないと思っている、本人に対して、どんなアプローチを持ってくれるのかが見えてきません。本人もその事を脳んでいるのですが

・町おこしや子育て等のイベントとからめて、ひきこもり、ニートの方々の活動出来る場所を提供してみてもどうか。

・家族の交流の場が必要-相談し相談され子供が生きていだけで OK と肯定できるようになる事。学習の場が必要-病気 etc。発達障害の人への対応など知る必要あり。

・役所など公的機関の連携が取れず、当事者が就職を希望しても、実際利用できる所がない。社会に合わせるための自立を目ざすのではなく、自立できるような就労場所を作る方向に世の中が成ればいいと思う。ひきこもりの人が気軽にに行ける場所（自宅から徒歩）

・ひきこもりがいる家へ突然たずねて行って、複数で県及び市の依頼で調査にきましたと言って、ひきこもりの子供の心の状態を調査して、みて親と本人に個別にアドバイスをする。親は別室で話（アドバイス）をする、のでもいいと思います。

・本人の気持ちが柔くなって、家庭の中で安心できる状況になるまでが、とても大事だと感じています、その時期に対する支援が難しいと思っています。親への支援を手厚くすることができればいいと思っています。

・私の息子は10年間社会に出ませんでした。本人は自分はひきこもりではないと言い、自立支援事業には一切参加しませんでした。農家の為、4月～9月いっぱい位は、頼まれた手伝いを何回も声かけをしていやいや作業手伝いする、状態でした。5年目位の時、3人の同級生に地域の消防団に入ってくれないかと依頼がありました。他の2人が入団するなら、と3人一緒に入団しました。私は内心イヤでイヤで仕方ありませんでした。着古した雑巾の様な服を着て、会合に出て行きます。まずは仕事を見つけて自立してそれからでしょう。それが私の考えでした。社会に出るまで、それから又5年位かかったと思います。でも今考えると、仕事もしない半人前の息子を一人前として扱ってくれた地域活動に参加した。それが大きな転機の1つなったのかなと思います。親がプライドを捨て、価値感を変えられなくても違う価値を理解する努力が必要で親の勉強会をもっともっと広めなくてはと思います。

・ひきこもり経験者及び親達が顔を出すことのできる家族会の集まりがあり、交流を深めている。現在、真只中の心の中を理解しうる経験者や親達との交流は非常にうまくいっていると思っている。卒業した親子が自由に参加できる雰囲気づくりが必要と思われる。

・オープンで色んな体験ができるプログラムがたくさん出来て、当時者が楽しめる場所が増えると良いと思う

・社会福祉協議会を利用しました。訪問相談もして頂き本人も安心したようです。

・本人はパーソナリティ障害を抱える中での、ひきこもり状態ですので、市の自立相談支援や病院等の相談にも出掛けていますがいまひとつ解決の見とおしが、立っていません。本人が今のままで安心して行動できる、居場所が地域にあれば本人も希望が持てきますし、親も助かります。親が積極的に参加し行動することで、親の態度や、変化によって、本人にも、良い効果が出来ると信じています。

・ひきこもり個々で家庭内の実態が違っているので、その家族、ひきこもり当事者に沿った支援がうけられる様、かつ具体的な支援を(実情にあった支援に結びつく)うけられる様に願っています

・1人1人の困っている事に対してまめ細かい支援をしてもらいたい。

・市の方では支援事業はやってはいる様ですが子供が回腹するまでは10年かかります。(コミュニケーション)それからがゆっくりと生きられる支援

・本人が外への一歩ができず、本人への支援の子は届きません、訪問サポートのような形を強く望んでいます。そして、いろいろなタイプの人が誰もが本当に受け入れられる社会であって欲しいです。非正規の多いの今の時代、引きこもり者の社会復帰はますます難しそうですよね。

・支援や援助というよりも、ひきこもり同志が共有できる場所で気持ちが楽になるとよい。

・サポートステーション等へ行き、本人が今後のことに気付き、活動出来るようになる等が一番良いと思います

・活動を通じて、一年間で感じた事は、親同志のつながりが出来て、自分の立場や子供の状況のつらさを心おきなく自由に話したり、経験を聞いたりする事が出来、私自身、他皆さんも、顔見たりとなり、今まで暗い顔だったり、不安などが、今までより、少なくなり会場で

笑い声が出る様になり、親自身が心が軽くなった様な気がします。それにつれて本人達も、以前より、変化が見られ少しづつ良い状況になっていっている、親同志の心の安定が子供の心の安定になるのでまず、親のサポートを！

- ・在宅で自社できる在宅就労支援
- ・本人の立場に寄り添った支援の充実を希望しております。
- ・親は子供がなぜひきこもってしまうのか、理解出来ないでいます。社会に出て行けなくても、ひとりになってしまっても、なんとかしか生きていってほしい、生活困窮者になっても、何才になっても何か生きる道を助けて頂けたらと願っています。
- ・ひきこもり当事者及びその家族の大半は何処にも相談に行ない深刻複雑な家族環境が根底により（特に地方）、地域環境に即した活動（国保機関との連携、情報提示（案内）等）、訪問支援の促進が重要。
- ・現在、40才代、何とかして、自立してほしい。目ざめて支援してあげる立場になってほしい。親も支援する側になりたいと思っています。
- ・地域での見守り声かけなど、普通にやっていた（おはよう、さようならくらい）ことをもっと自分から（家族から）できる日常のことからはじめなければ（心がけかな？）と思います
- ・まったく外出できない。親とのコミュニケーション出来ない人(家族)への支援があまりされてない様に思います。居場所、など力を入れすぎではないか、もっと困っている大変な家族も多いと思う
- ・家の中に第3者の風を入れる 第3者の人とのかかわりが大事だと思う
- ・ひきこもりに特化して、アウトリーチ、居場所、職業訓練が効率を考えるとなく準備されたらよいと思う。すぐには機能しないがたからといって。あえらめずにじっくり。取り組む形を示してほしい。外に出て人にとつながりたい。認証を得たい思いはひきこもり者のほとんで持っているのです。
- ・親の為の支援として(家族教室)のような家族向け教育の機会を作って欲しい。
- ・ちょっとした働き口を提供できる居場所や楽しめる場所への同行。
- ・僕がお父さんやお母さんと話しても建設的な話し合いにならないので第三者が話し合いに参加してほしい
- ・家族が希望しているにも関わらず本人がまったく望んでいない。その所の打ちとけ方を学んで取り組んでほしい。
- ・自然体で受け入れる認める etc
- ・ひきこもりの会には、別居している私(母)が参加している。本人とは、関係が良くないため、(他の同居家族も本人と関係が良くない)専門の人に本人に対して、訪問等、社会につながる活動を希望します。
- ・ひきこもり本人に残す、相続財産の非課税優遇を望む
- ・ひきこもりの人が集まりやすい（行きやすい）イベントのボランティアとかの場を増やして欲しい。
- ・老人のコミュニティの場が次々と増えている様にこうした生きづらさを抱えた(ひきこもり)人にも何か居場所があればと思います

・自宅以外で集まれる場所があると、気軽にいつまで出かけられる所があると、本人もよいと思います。

③ 地域における理解の促進

・世間の価値観、常識からはずれてしまったひきこもり者は、それが変わらない限り世の中に出ていくことは出来ないと思います。世の中にもどっていても又、ひきこもらざるをえないと思います。あたたかな目で受け入れてくれる場所でしか生きていけないような気がします。だから早く住んでる地域がひきこもり者を少しでも理解してくれるようになることを願ってます。

・「引きこもりしている」とおおっぴらに言える社会になって欲しい。今はいうと不利益のような感じがする

・世間の目(「ひきこもりは、親の育て方が悪かったから」という考えの人が多い。)

・ひきこもりの状態でいる当事者はかなり多いと思うがまだまだ近所、友人などかたみのせまい思いが禁えません

・地域で支援していく為には、近所の人々の理解を求める為の方法、がわからない、話しても、まず不信の目が気になる。民生委員への理解と深めて欲しい。ひきこもり当事者に寄添った長期的な支援体制が必要である。

・地域で何でも話して全員に理解されるものでもない

・一搬の人々にひきこもりについての理解を得る為の活動をするには、勇気がいるので、地域の人達に支援を求めるのは、難しいです。

・本人達が、定期的に交流出来る場所があればうれしいですが、地域ではそのような場は偏見が起きると思われます。

・社会全体の理解がすすんでいないので、当事者や、その家族が孤立しています。興味本意ではない、日本人全体の周知が必要だと思います。

・一般的にひきこもりは事件につながるのではというスイナスのイメージや甘やかしている等理解できない人が大半だと思う。家族も引け目を感じてなかなかオープンにできない。新聞、TV等の広報で苦しい思いをしながら、なんとか前進しようとしていること等をもっと多くの人に知ってもらえる様、広めてほしいです。

・ひきこもり当事者、とその家族の事情をくわしく知った上で支援をすることが基本だと思います。今の世の中、何でもあり(例えば同性婚とかも認められるようになった時代なのだから、ひきこもりもありで、もっと世の中にオープンにできて、この人は今、ひきこもりの状態なのだ…と認めてあげるような世の中になったらいいと思います。偏見なしで、でもかくすのは家族なのかも…。

・一般の人々の「ひきこもり」に対する理解をすすめていくことが難しい。テレビや新聞紙上で取り上げられる機会を増やしてもらうことでしょか。

・「ひきこもり経験者とその家族の自立と尊厳の確保」のためには、世間がへんけんを持たず、ひきこもりは誰にもおこりうる状態なので、もっと暖かい対応をしてくれるよう社会に知らせる必要がある。そのためには、現在ひきこもりの家族と無関係な人たちにも、少しずつ理解と受容を望む。そういう活動をしていきたい。

・子供が引きこもり状態で居ると世間ていが悪く、対人関係において隠しがちになります。●の●●を知っているのは私の兄弟のみです。こう云う生活を送っていると世の中から孤立してしまいます。老人介護者が社会的に認められた様に引きこもり者も社会時に認められ、家族も堂々と「私の子供は引きこもり者です」と言える社会政策をつくり出して欲しい。このままでは、子供、親とも、共倒れになります。社会的に助けて欲しい。家族では限界があります。

・地域の方のひきこもりの理解

・社会全般的に本人の努力不足という様な目でみられがちで、出来れば地域の人に知られたくないと思う気持ちがどうしてもある。

・「生活困窮者支援を通じた地域づくり」とは、地域住民との交流が不可決、しかし、引きこもり本人になにかしらの障害が有る場合は逆に立退対象者となってしまう、すなわち「いじめ」。生活保護もそうだが、不平等感が出てくる場合弱者を「いじめ」対象としてしまう事が有る

・地域の知人、ごく身近なところから。交流する等していがよくでは、大変難しいことだと思う

・まだまだへん見の目でとらえてる方が多いので理解していただける。社会になるとよい。

・本人の甘えという周囲の考えはまだまだ強い。親がおいだせばいいと考える人もいる。その考えを、どうやってひきこもりの理解につなげるのかはむずかしい課題。

・ひきてもり経験者に対する理解をいかに深めてもらうかだと思います。

・例えば認知症が市民権を得たように広く世間に引きこもりが正しく知られるように周知して頂きたい 何もしていない若者がいるという現実を世間が受けとめやすい世の中になるといいと思います

・〇ひきこもりに対する理解促進が基本。決してなまけているのではなく、仕事も適したものがあればある程度はでき、人並み以上にまじめな性格の人も多いのに、対人関係がうまくいかず、ひきこもってしまう人たちを活用しない手はないことを世間に知ってもらいたい。

・他者がいかに理解していただけるか？というところです。

・会社にはひきこもり者に対する理解者がおられない

・ひきこもりが特別な目で見られることのない地域づくりをすることで本人や家族の自立素敵も守れていくのではないかと思います。地域社会から隠さなくてよいオープンにできる家族の姿勢と受け入れる地域となるような学習の場、啓蒙が必要かと思う。

・"ひきこもり"がある程度"社会技"を持って来ましたが、まだまだ地域では偏見があり、家族も肩身の狭い思いをする場合もあります。精神障害も含め、地域での理解が深まってくるといいなと思います。

・何よりも大切なことは、すべての人が価値感の転換を！口べた、おとなしい。気が弱い、消極的、頭が悪い。動作がおそい...一般的にマイナスであると認識されている個性にも価値を見出し、生命の輝きに気付くこと。

・"何よりも社会的な認知と支援が重要です。そのためには、もっと多くの①自治体職員、関係者、教員等への周知、協力要請。②民間の経営者団体への周知、協力要請。③大学生等への周知、教育。④マスコミによる適切な報道、周知活動等を繰り返し行っていくことなど

が考えられます。支援の輪を社会的に広げていかない限り、行政で目標を掲げただけの事業となりかねないと思います。

- ・地域の方たちに「ひきこもり」とはどういう人たち（状態）かを知ってもらえるような学習会・講演会みたいな活動をひらいていく。

- ・"格差社会の是正

社会的差別の是正（母子家庭・経済格差への差別など）

消費社会ではなくものづくり社会への復活"

- ・ひきこもりの我が子の様に自分に自信が特にもてない人に「尊厳の確保」「地域づくり」とはとてもむづかしいことだと考えますが……。現在近所からは「親が悪い、子がかawaii そうだ」と冷たく言われますが、最近大人になってからの発達障害では？と医師に言われ入院となりました。地域に理解されるまで何年も経つのでは？

- ・ひきこもり→家庭の責任→母親の責任というイメージがまだ強く、支援事業所に助けを求めることができにくい感じがする。

- ・ひきこもり経験者とその家族が、「ひきこもり」ということを地域に明らかにした呼の受け皿づくりがむづかしいと思います。自分や家族が「ひきこもり」と世の中に明らかにすること自体もむづかしいです。精神的に。

- ・如何に社会の「ひきこもり」に対する変換をやわらげてゆくか。

- ・本人の心の中がみえない。Open でない、家の中での状況も個々に違っており、今の社会の中では「負け」判定である。・その中でどうしたら本人が生まれてきて幸福、と感じられ、生きがいをみつけてくれるのか。もっと広く「ひきこもり」をマスコミや市町村でとりあげてほしいです。

④ 親亡き後の支援のあり方・将来の不安

- ・親は先に、死んだ場合、1人で、どう生活していくか？生活困窮者支援を、利用しないといけないと思います。先では、就労しながら生活できれば理想です。

- ・国民年金だけでは生活できないと思うので、国民年金基金にも加入して、親が支払っています。経済的な迷惑を兄弟にかけたくないと思うので、親としてはできる限り働いて、ひきこもりの子にと思っていますが、不安です。ひきこもりの子達がグループホームみたいな形で、畑を耕し、作物を育て、年金で生活できる自給自足生活がいいかなと考えています

- ・現在は本人が家族と同居していて、両親が働いているので、生活は、普通に暮らしていますが、定年が目前にきているので、収入が減った時、どのようになるのか、不安を覚えます。

- ・不安定ながらこの頃やっと会社に行ける様になりました。しかし自立はまだ出来ていません。私が高令のため一人になった時のことが大変心配です。経済面、生活が出来る様、支援をお願いしたいと思います。

- ・母、子二人暮らしなので、私が生きている間は、なんとか生活できますが、私がいなくなった後の生活が気がかりです。現状では、預金が出た時支援に頼るしかなく、いろいろ具体的なことを調べる段階です。今の生活保護では、生活者としての自由が大巾になくなるようなので、違った形の支援(国民年金に足してもらおう…とか。)がほしいと思います。

- ・現在は、親の年金収入で、生活できているが、親(片親 70 才)死亡すると、収入生活費が 0 になる。家、田、土地は、あるが、すぐ現金化できないし、当事者は、手続きができない、が

こまる。又、当事者の国民年金の支払がきつい。手続すると権利はあるが、将来収入が少なく、生活できない

- ・病院にもいかず薬も飲まず。ひたすら大卒後仕事につかず又はつけず(本人は資格取る専門学校通信を受けてます)全面援助を受けている。子供は生活困窮者と言えるのでしょうか。親だけでサポートしている多くのひきこもりの子は、将来どうしたらいいのでしょうか。(無収入です)他から見るとただの怠け者とか見えません。

- ・親亡き後、本人が、一人で生計をたてて暮らせるようにと願い、努力しております。しかし、現実には厳しく、不安ばかりがつのります。生活困窮者自立支援は本当にありがたい制度ですが、ひきこもりは長期に渡るため、その間、手続きを本人が出来るかどうか、とても困難な問題です。その他行政への申請等、何も出来ない人は、どうなるのでしょうか、ひきこもりで、一人生活していることの事実を行政が把握していただき、定期的に訪問していただく制度になると、親も安心できます。外に一步も出られない子がたくさんいると思います。将来にわたり、助けていただければ、心の荷がおります。他人の力を借りなくても生きていけるよう、これからも親に出来ることを努力して参ります。

- ・本人も、そして見守っゆく私達も年齢的に高年齢になり、本人一人になった時の事が心配です。

- ・親が弱った時、死んだ後、家から出られない子どもを助けてやって下さい。お願いします。

- ・日本には多数の引きこもりがいますが現在の多くは親がめんどろを見ていた家がほとんどですが親がなくなったら、どうするのか？それが一番気になる所です。

- ・少ない年金暮らしの中で本人と生活を共にすることは、非常に大変である。母である私は後期高齢者ながらも、少し働らいていますが、それは「生きがい」としてとらえています。年金が停止されると(私の死亡等)即生活困窮者となる本人へは困った時の対応、自立に向けての行動等を話合っています。地元地域との交流はむずかしく NPO 法人との連携が必要かと思っています。

- ・親なき後の事を具体的に支援してくれるようにしてほしい

- ・我が家のような広潤性発達障害と思われるケースの場合、外に出て働くことは、むずかしく、一生家の中で過ごすことになると思われます。親が活着ている間は、どうにがよるとして、親の死後、ひとりでひとりでやって行けるのかということが一番心配になります。親が安心して死ねるように、残されたお金や財産の管理や定期的に訪問して健康チェックや困っていることを聞いてくれ助けてくれる訪問支援センターのような機関があればどんなにかありがたいことでしょう。

- ・本人は働けている人が羨ましいと言ってます。働きたいけど現状働けない(精神面で)主人は定年で無職、私も来月で定年です。今後の生活が心配。

- ・働く事がない限りいずれ生活困窮者になる可能性が大です。将来どうなるのか心配です。

⑤ 生活困窮者自立支援法の制度に関して

- ・生活困窮者自立支援法が施行されたが、引きこもり家族、当事者に対して。多額の国家予算が投じられている割には、殆ど機能しているとは思わない。KHJにこの中の何割かを別に取れば、引きこもり家族。当事者、支援者に廻るのでないかと考えます。

- ・県ではこの部分が弱く、県等へ働きかけ(5つの課題の改善と実現)一緒に取組んでいる。

・地域の官公庁も「受け入れ・支援体制造り」にひどく消極的のようです。（市民の声はあちこちで耳にします。）・市民からも上記体制への不満はあっても、積極的に動き出せていません。・他市で経験をつまれた「非営利法人」さんの助けをうけて、「相談とおしゃべり会」の機会の開くと、集まる方は大変多く、たの地域での「支援体制づくり」の必要性を強く感じているところです。→どうやって「市」側の体制づくりを要求していくとよいのか???

・家族の中でひきこもりの子供がいて働けないことで、生活が苦しくなります。しかし、ひとりぐらいなんとか衣食住はなんとかありますが、その子供にいろいろ民間の援助で有料な手法を利用する経助かもなく、その為の公的援助も、実際難しいと思います。生活困窮者の自立の支援と言っても、病院の診断書が必要と言われても、病院に行けないわけで、どう言う状況でひきこもりの子供に支援にもらえるのか。保健士の方の承認がいるのか。家族全体の収収制限が必要か等々。よくわからず、両親が死亡してかられないと受けられないのか。よくわかりづらい。

・●●に於いても「生活困窮者自立支援計画」が出されているが、実際にどう具体化されつつあるのかよく分からない、どんなに立派な施設を作っても、そもそも、「ひきこもり者」は外に出ていかないのだから、効果はない。ようやく、平成27年より「ひきこもり地域支援センター」が立ち上がったが、はたして、第一相談窓口としての機能が発揮されるかどうか。

・経済が困窮していると、増々自信を失ってしまう。行動も狭くなる

・親に多少の収入があり、その金で子が生活していると子の本人には生活困窮の感覚がないながで、どう支援を受けたらよいのか難しい。

・生活困窮者自立支援法は、はたらく意志と能力があるにもかかわらず、現状、諸事情で就職できない人に手を差し伸べるものです。例えばシングルマザーの子供のあおかり、仕事先を支援するものです。ひきこもりの多くは、はたらく意志や能力が不十分であり、そのことに、十分留意した取り組みが必要です。自立以前の課題が多いのです。自立相談支援事業を否定しませんが、KHJが関与するからには、上記配慮しての取り組みが大切だと思います。

・支援として・生活保護世帯の場合、ひきこもりの子は病気としてみられない。交通手段として車しかないので、自家用車は認められないので認めてほしい。貧困家庭では働きながらひきこもりの子を育てるのは難しい為、製度を考えてほしい。

・生活保護を受けたとしても将来どのように生活していくのだろうか。お金あっても生活が成立するとして限らない。申請も自分できるのだろうか。

・親の年金も払えていない上・子供の年金まで払ってあげられない状態少し免除して頂・・・

・市町村によって違いが有ると思いますが、ひきこもり関係者には少し当てはる事業に思えないことを感じている。母子家庭等にはとり組み易いと思えるが、ひきこもり者等においては調査がまだまだ進んでいないので、この点において、これから親子で取り組んで行かねばと思っているのですが.....症状のある者に難しいこと大です。（「旅立ち」の記事が「家族会運営のノウハウと地域連携力を学ぶ」が参考になると思いました）

・生活困窮者自立支援法は、ひきこもり支援とは全く無関係な(解決的に無関係になった)制度です。実体がありません

- ・子供に収入がないことが、生活していく上で、大変です。仕事をして、収入を得ることが、自立の第一歩になると思います。
- ・財政基盤の安定。この法律の中に「ひきこもり支援」の具体的な方策が明確になっていない。

⑥ 支援を受けることの困難

- ・本人を変えるそんな事無理です、長くしんぼうして待ちました。私は母親として十分して来ました。今だに言葉の暴力力の暴力もう限界です 出て行けといっても行かない本当に自立するのがまんがまんいつまでがまんしたらいいのか 主人が病気でもなんとかしなければと子供は思わないのが家中のお金がなくなった時に考えるのでしょうか先のみえない毎日です
- ・行政のやる仕事には期待しない
- ・折角世間様で、色々心配をしていただいて誠にありがたいと思っています。しかし、我が家のように 30 年近くも時間が経過してしまうと、完全に手遅れ状態で、無責任な言い方ですがもうなるようにしかないとあきらめております。無知で無能な夫婦が家族ごっこをした挙句、この世に誕生せしめた子供の人生を台無しにしてしまっただけで多くなる犯罪者の心境です。今はまだ夫婦健在で僅かな年金での生活ではありますが困窮までには至っておらず、息を潜めつつ生活が成り立っておりますが、どちらか一人が欠けますとたちまちバランスが崩れどうなってしまうか見当もつきません。それよりなにより現状引きこもっている本人が不憫でなりません。
- ・本人が動くことができないので支援を受けることが困難
- ・生活支援はありがたい制度と思うが、本人自身の考へ方を変えないかぎり社会との接点は見い出せないと思う。本人自身が家庭から外に出る様(経済的にも)親がしむけなければ正常な社会生活はムリだと思う
- ・ひきこもり家族の場合、親と子の関係が最悪化してからも、福祉センターなどに繋がれば良い方であるが、そのまま、長期間に渡って、ひきこもりの場合は、なかなか回復が難しく。依存度が強くなり。外に撃げるのか困難となります。親が、子供の引きこもる気持ちを理解して。安全安心の場所を提供して。子供と接触した場合は短期間で回復しています。つまり、親が変われば子も変わるを合言葉にピアサポートでがなっていますが、親だけでも改善して良好の関係になる人もいます。必要な事は子供の状況を観察しながら次のステップを進める事。
- ・親と会話が全ったくなく、支援を受けようがない
- ・我家は、小学生の頃より、不登校であり、中、高校と一日も登校しておらず、母親が色々な所へ相談に行き続けています。学校生活には、本人は興味なく、中学校の校長には、卒業証書は、いつか、大人なって、本人が取りに来て下さいと言われました。その後は甥の産まれる 24 歳の頃、普通免許証を取得しました。隣り町の甥の所に土、日以外、ほぼ通っている位です。近くの支援所には、足は向きません。
- ・本人が支援事業所に行くような状況にない
- ・本人がそういった制度を利用する気にならない
- ・ひきこもり本人が支援を受け入れてくれるどころが疑問です。現在の状態では、「俺に、かわらないでくれ」という思いが感ぜられます。

・子供のできる範囲で良いから自立して欲しいか・社会との接触を断っている今はなかなか親も援助しにくい。

- ・ひきこもりの家族がその事を公にし、地域に出て行くのは難しい点があると思う。
- ・たとえ知られたとしても、外出できない以上、何の支援も届かない。
- ・親の私が多忙で考えてられません。
- ・ひきこもりの当事者を家庭の中からどういう方法で連れ出せるのか、むずかしい。病気でないのに働いていない、という後ろめたさのようなものが本人にも家族にもある。

⑦ 支援制度に関する啓蒙

・ひきこもっている人の理解が、必要だと思います。(世間一般に対して)家族が相談しやすい体制を作る。家族がひきこもりになった時、どこへ相談すれば良いのか、わからず、困った経験があります。身近な所で、相談できる所支援事業を、認知できるようにしてほしいです。

・一般的に、生活困窮者自立支援法を理解されている面が薄く感じます。課題は提言内容を広く、各員に認識。出来るように、PRに欲しい。(同じ例で安保法案も認識度が浅い)

- ・具体的にどのように利用するのか分かりにくい。
- ・情報発信してほしい。あちこちでも、集まりをしてほしい。
- ・家族や本人が孤立しないように支援をしている団体、行政支援を積極的にアピールしていくこと。ここにこんな場所があった！と足を向けるキッカケ作りをすること。本人はなかなか動けない場合が多いので先ず親が動けるように働きかける。支援機関を利用できるようになったら継続できるようにしていくこと。支援機関が身近にあること→拠点の拡充、支援者の育成、内容の充実。支援機関主催のイベントなどで地域とのつながりをもち理解を広める。
- ・行政機関のひきこもりに対する理解のなさ。
- ・ひきこもり経験者とその家族が、元気になる為にどういう機関があって、どんな援助をして頂けるといいう事が解る様にしてほしい。
- ・ひきこもりは、本人も家族も、今までの交流から遠ざかってしまいます。親もひきこもり状態にある子供のことを公にはできず、なるべくプライベートな話題をさけてしまいます KHJ などの団体に属すのも良いと思いますが、もっと、近くで親やるが行ける居場所や相談場所があれば良いと思います(情報がわかりにくいです)

- ・権利ではなく「ほどこし」を考える人が多い。
- ・申請主義で勉強しないと制度の事も良くわからない人が多い
- ・家族会に参加しているので、こういう法律があるということがわかりますが、行政としてこの法律があることの PR は全くと言っていいほどありません。ひきこもり経験者とその家族への支援とありますが、現在の社会はまだ、偏見と差別の社会です。「あの家にはひきこもりが居るよ、大変だね」で終わりです。まず、これを取り除くことが第1歩でしょう
- ・ひきこもり経験者とその家族が安心して相談、支援が出来る所がほしい。何をどのように活動しているのかとてもわかりづらい。訪問支援と安い料金で支援してほしい。

⑧ その他

・ 答えにならないと思いますが家族会に 10 月に参加させていただいたばかりで何もわからない状態です。本人が平成 28 年 3 月まで傷病手当を受給できますがその後のことを本人とも話し合えないでおります。社会に復帰しようという気持ちになっていないので困っております。

・ 私の子供(次男)の場合は、5 年前(私が 65 才で定年)から家に居る時間が長くなってから子供が外出は全くせず、私と妻とも全く会話する事が無く、夫婦でカウンセリングを受けていますが、子供は絶対外出しなく、会話も何も言葉を発しないので、先生から手紙を書いて下さいと言われても、書いた手紙も見もしません。自分は以前に 40 才まで生きるが、それまで……しか生きていない。なぜかその事が気になっていますが親として何をすればよいか？わかりません

・ 本人は大学卒ですが、高校の理・文系選択が間違えた、もう一度やり直したいと今日まできてます(文卒→理系選択しておけば良かったよという想いから離れられず、毎日同じ話ばかり他人恐怖症が出て、先に対する悲感情がたまってます 支援者がいること、医者、カウンセリングすすめてみても「バカにされるのが怖いと受けつけません。

・ 本人から望んで母の実家で(酒●)1 人暮らしをしております。田舎の方で就職さがしもしたり支援相談も行ったりしているのですが思うように行かないようです。ずっと親からの仕送りで生活しているのですが親も高齢になり仕送りも大変です。本人も色々工夫しているようです

・ まだそこまで考えられないのが実情です。

・ 家族も人の目を気にせず、市町村などの事業所などに相談をしに行く事をおすすめします。

・ 心の余裕なし

・ 今はわからない。

・ 主人を亡くし困った時、ひきこもってくれたので、私が助けられました。でもこのままでは、私の年金で何とか二人で生きられますが少しでも他の人との交わることを願っていますが、なかなか出来ず困っています。

・ 不潔きょうふがとても強く、あれもこれもさわるなど言われそうじも出来ずゴミ箱状態です。別居しようか、それ以外ないと思い始めています。きれいな部屋でないとダメだしお金はない色々あるなど思い始めています。先日、市役所にちょっと話しく来ましたが。

・ まだ、よくわかりません

・ 具体的な事が良く解かりません

Ⅱ. 居場所でできる活動についての意見・要望

本人回答者

① 社会的自立に関する活動

・ 現在通っている居場所は 4 年目となり、メンバーとの関係にも慣れ居心地は良いと思えるようになってきましたが、ここから外にふみだすとなるとどうしていいのかわからないというのが現状です。

・就労に必要なスキルだけではなく、コミュニケーションの仕方や、コミュニケーションがうまくいかなかった時の対処法や、ストレスの緩和方法などを教えてもらう機会があれば良いと思う。

・自分の意見や考えを言えるようにできる練習のようなものができれば良いと思う。

・ボードゲーム等の会話ができるゲーム　いす等に座って休息が得られる　ランチ作り、みんなと一緒に食べる。

・ひきこもり生活で失った人と関わる経験を取り戻すためにも、多くの様々な人と触れ合う機会を作ることだろう。特に地方は遅れているし、居場所があっても“知らない”という人は多いはずだ。

・あるテーマを設定しての座談会。

・交流して意見を言い合ったりする。

・簡単なボランティア活動など外で行動をできると体を動かす事と他人とのコミュニケーションの練習になると思います。

・障害者との交流で、自分自身の可能性を再確認し向上していく。(→作業所の見学や体験など) いい意味での“いい加減なん”との交流を通し“カンペキではなくても、生きていけるんだ”ということを知る！

・セルフヘルプグループのような語り合い。ファシリテーターをつけた形での話し合い。肯定的視点を身につけるための講座(例：WRAP など)

・居場所、できれば、当事者がなんとなくお茶できる場所を一緒に気長に探す⇒成力をもとめない。

② 楽しめる活動・達成感のある活動

・「参加して、楽しかった…」という活動であつたら、いいなと思います。ビーズでアクセサリーとか、絵手紙作成、カレーライス作り、パソコン教室 etc. 他者との交流を通して、「安心して活動できる」という感覚が大切だと思います。コーディネーターの方が、参加して下さると、とてもよいと思います。農作物、衣織物、絵、運動、調理、など…

・みんなで料理をしたり、ゲーム(トランプ、uno)などが楽しいです。

・食事会、ゲームなど

・テニス卓球

・スポーツによる体力作り。

・単なる居心地のいい場所を用意してくれるだけでいい。変にいろんな事をやらせないでほしい。

・居場所で会話や趣味、手芸、書道、アートなど

・出掛ける。・季節行事や買い物やレクリエーション etc.

③ 就労に向けた活動

・仕事の体験ができると、考え方が変わります。

・時間の空白をどのように埋めていくのか等の指導、理解できる場が必要だと思っております。

・気軽に仕事を体験できる場をつくる。基礎的な学力をつける事のできる場の提供。

・私自身は介護の仕事を通して対人関係を学び直しました。ケアの必要不高齢者の元へ出向くボランティアなどがあればいいと思います。可能であれば賃金が支払れば理想的です。あるいは障がい者宅への訪問もいいと思います。

- ・中高年の「たまり場」就労訓練と相談の場
- ・自分の特性にあった作業がやりたい。消えそうな自身を少しでも欲しい。就労と言うものに対して、何か思い込みで、アレルギーの様にうつな思考に陥ってしまう…。居場所の延長の就労があったなら、真面目と、取りくめそうな気がします。貧しい引き込みりなので、居場所の目がもっと多くおれば安心につながる気がします。
- ・雇う側、経営者のセミナーが必要と思う。
- ・経験が少なくてパソコン講座が仕事でどう役立つかうまく理解できないため成果試めす事で自分にできる事と仕事が結びついて役立つ気がするので何の為に活動してどう役立つのが当人にとっての意味づけがいかりできていれば自信につながるのをそれをしっかりとすることがあればいい。地域の人とのかかわりの中で何かの役に立つ経験ができる活動居場所を自分達で運営・企画などをする。

④ 居場所のあり方

- ・支援のための社会資源について学ぶこと(精神科での障害者への対応についてのビデオ(DVD))と一緒に見る機会を作るなど。
- ・スタッフはまともな人に。利用者には公平に。(双方の意見をしっかりと聞く等) 偏見を持たない。(特にオタクに) あまり有害な人物(人格障害者等)を入所させない。
- ・参加ルールは徹底して、個人的な活動定案をこの様なアンケートで募集するのが良いと思います。皆で、外を散策するなど身体を動かす活動。自由に話し、ぼーっとできる時間。
- ・居場所は自信を失った人たちが休む地域の宿り木であったり、そこで知り合った人たちとの対話や活動でエネルギーをつくりだす場であったり、何かをはじめるきっかけの場であったり、多様な場だと思います。その多様性を大切にすることが必要ではないでしょうか。居場所を広義の就労支援をとらえ、政策的にもしっかりと位置づけてそこへの財政的支援も必要です。

⑤ 収入を得られる活動

- ・何かを作ったり、活動したことに対して、何らかの成果や報酬のようなものがあれば良いと思う(バザーへの参加など)
- ・メール便の配達
- ・収入になる仕事があり、居場所に定期的に来られるとうれしいです。

⑥ 居場所へつなげる支援

- ・自分は英語が得意なのでそれを生かせる活動がしたいが、人と接することが苦手で現在も今だに一人では外出できない 親をたよりきっている

⑦ その他

- ・学ぶことに集中。

- ・もっと筋力トレーニングとか運動不足にならない場が欲しいと思う。
- ・意見交換の場 認知行動療法的な。本人間+専門家の意見交換の場
- ・特になし
- ・いいんじゃないかと思う。

家族回答者

① 居場所のあり方

- ・どんな活動ということは言えませんが、居場所の設置は是非広い地域に御願います。
- ・今年度6月より居場所を立ち上げましたが、親の会の会員で活動できる人数も少なく、月2回開くのが精一杯の状態です。まだ、当事者が集まらず、チラシ等の広報活動や、OA機器の購入など必要経費を用意できずにいます。居場所が、起動に乗ってからではなく、立ち上げに必要な助成金をお願いします。
- ・居場所作り、活動の場を作るのは良いが、そこに支援者として誰がどの様に関わるのか、無報酬で支援者として関わり続けるのは難しい、支援者の方も生活が掛っている。利益を出して、それに廻せば良いのかも知れないが難題多し。
- ・私の息子も初めは、居場所に行き数年後そこのスタッフとして働いていますが、居場所の運営費がなんとか補助がもらえないかと思っています。理事の方やスタッフほんとうに一生懸命ですが公的予算が少しでもつくといいなと強く感じています。
- ・パソコン教室・会報発送作業・イベント 映画会・卓球・カラオケ・料理教室 いずれにしても、それを実行支援してくれる、スタッフ、当事者が必要です。当事者自身にも課題があり、(スムーズにはいかないケースがある)手間ヒマがかかっている。経済的な問題が常にある。
- ・地域差が大きいのはなぜでしょう？数字にあらわれる、成果をあげようとして、本来の支援になっていない場面をよく、聞きます。だれのための活動なのか支援を必要としている人の声を聞く耳をもってほしいです。成果をだせない、ケースを切り捨てないで下さい。
- ・ひきこもりの本人や家族は大へん苦しんでいます。せつかく外に出られる様になっても、廻りの理解がないと又戻ってしまいます。まわりの人達の理解をもっと、大らかな気持で支援していただきたいと思います。
- ・まだ親子間のコミュニケーションがとれない状態なので 現実的に考えられないが、いろんな選択シがあれば、一步が踏み出しやすいのではと思います。
- ・家庭からでていける状況になった本人には安心できる第2の場所が必要だと思っていますが、そこを運営していける、スタッフまたは親の会の居場所の必要性に対する意識はまだまだこれからと思っています。つい先へ先へと本人たちに影響を与えることもあるのではと思います。
- ・県の場合、官民ともまだ居場所と言えるところはない、民の立場では、会も居場所を作りたいと考えているが、居場所管理を任せられる人が居ない。現役世代が多く、余力がない、年金世代の方で時間と責任感と意欲のある方がなれば、場所の方は何んとかなる。問題は人だ。

- ・居場所を設置するのは良い事だと思います。
- ・居場所にこれる青年はある程度動ける力らのある方だと思うので、支援機関がセッティングしたプログラムだけではなく、「自分が主体的に動いている。参加している」という気持ちを持てることも大切だと思うので、青年自身が持っている特技などを引き出したり、その特技を生かしたプログラム作りで他者とかかわりを持てるような活動につなげたり、青年同志のかかわりがもてる場のセッティングも大切だと思う。
- ・何をするにしても、人材、場所、資金の3要素が必要です。なので、全てにおいて足りない現状できることは、月例会の受付補助、会報封人・投函などを居場所兼就労体験の場として、活動してきました。さらに、ジャンプアップとして地域の障害者就労移動支援事業所につなぐ方法で、取り組んでいます。各支部で居場所活動を事業化することは理想ですが、人材、場所、資金の全てにおいて極めて難しく、不可能に近いと思われます。地方なら空き家が多いので、場所という問題はクリアできるかもしれませんが、都市では難しいです。
- ・偏見というものが無くなればいいなと思います。誰れもが行く「場所」、『立ち寄り場所』があれば
- ・昼夜逆転の人が多くいることを考えると、ふつうに昼間だけとか、夜何時までという居場所は活用されないかもしれない。新しい人間関係に苦手意識があるので、ネット上で会話してお互いの中身を少し知ったあとのオフ会のような形での参加が可能になれば、参加しやすいかもしれない。それぞれの趣味の集まり、たとえば音楽(ギター)など夜でも演奏可能な防音のカラオケ室など、固苦しいだけの居場所でない方が人が集まるかかれない。
- ・各支部において、これらの活動を統括実施できる人材が必要です。求められるのは通常事務、税務、労務、その他の基本的なことができることは勿論ですが、それに加えて、活動全体を推進できる創造力や人望や経営能力が必要です。人材の発掘がまず第一です。・夢は多いによいのですが、裏付けとなる、人材や資金の問題をどうするか、十分に検討されることが必要と思います。
- ・公会堂とか公民館は今は今日どこの地域にでも籍●として設置されていると思う。それをもっと有効に使用する方向を考えるできたため、また民生県民はどこの地域にでも任命されているはずで、その人たちが公会堂しか公民館活躍できる地盤を作るべきだ。生活保護世帯を増やすより、民生委員の報酬を増やし、もっと責任あった体制を作るべきだ。そのためにKHJも頑張りたい。
- ・ひきこもりとなる当事者には、神経症、統合失調症、発達障がい等の精神疾患をかかえている場合に多いと思います。一度社会から外れた人達に対して。再訓練を行うには、画的な公的機関ではなく、個人の特性に合わせた、私的な訓練施設を立ちとげて、でき得れば国の補助金を運営するというような方法が良いのですが...単なる自助グループでは長続きしないと思われます。ピアサポーターをこういう施設で活用することの可能性われる。
- ・料理が好きな男性ですが、居場所では女性のための教室だったので利用できなかった
- ・自分の子供がひきこもりのような状態になり、初めて、そういう方々の居場所や理解者が必要だと感じました。今後もっと多くの方々が、必要とするのではないかと思います。ぜひ、積極的な活動をお願い致します。私も協力させて頂きたいと思います。そして家族で（本人だけではなく、その家族）助け合える場も多く出来ればと思います。

- ・現在行われているひきこもり大学がスタートしたことは大変、よいことと思います。親子でまた行政の力をタイアップして、強化する対策が必要だと思います
- ・プログラミング等を、習いたいと息子は思っているが、誰とも会いたくないと思っている。両方がなえられるのは、ネット等での授業などで、居場所を作っても。うちのタイプには無理だと思う。
- ・ひきこもっている人の一番の居場所は家庭。
- ・居場所での活動はいろいろ行われている様ですが全てのことに對してそれに関る人材の育成にも力を入れて頂い。相談所での担当の方や、当事者に関る人達の教育、勉強にも力を入れ頂い。
- ・居場所が沢山出来ることを望みます。
- ・全国展開を目指して頂くことは、とても素晴らしいことですが、まだまだ各地方の差があるように思います KHJで「ひきこもり企業」を展開させるには前途多難なことだと思いが是非頑張って実現させてくれることを望んでおります。
- ・パソコン講座など、技術力の習得は、大切だと思います。本人の精神面の準備、本人が自信を持つ、認められる経験を積み重ねるプログラムも工夫して、取り入れるとよい思います。例えば、ひきこもり大学のような形式で、本人が得意分野を披露、発表する場を設ける。例、慣れた手つきで生地をこね、ピザを焼いてくれる彼がいます。我が息子は世界経済の仕組みや、歴史の変遷と国の関係などを母親相手に説明してくれます。毎日大学の講義を受けているような感じです。他者に認められたら、大きな自信につながるだろうと思うのですが。
- ・居場所を過去運営し、失った家族会です。居場所継続にはエネルギーが必要ですか正直疲労感しか残っておりません
- ・居場所は課題ですが費用負担の問題が一番あります。又本人をすかえる組(家族)だけではボランティアやしにも限界があります。公的支援を頂けるとありがたいです。
- ・居場所を運営するための財政的基盤を確立することがむずかしい。
- ・ひきこもり当事者といっても個人の性格、特性、能力、生活環境などひとりとして同じではありません。「その人らしさ」を認め、敬愛し、「みんな違ってみんないい」を啓発すべく、当事者・家族・支援者・一般人等を対象とした大規模ではないミニ講演会(20~40人)への助成金支給制度があればいいと思います。使途は講師の交通費と謝礼金です。学問的な専門家ではなく、自らの経験(失敗)から気付いた大切なことを世の中に伝えたいと志を抱いて講演活動しているセミプロ講師がここ最近数多く誕生しています。ネットを利用してつながりよく各地で開催できれば講師の交通費の負担は少なくすむと思います。少人数なので会場も確保しやすいのではないのでしょうか。当然ひきこもり大学も該当します。しかしひきこもり当事者に限定せずいろいろとマイナスな経験から学んだ講師の話の聞くというスタンスです。いろいろな立場の人が共に学び、感想・感動を共有できる場に大いに期待します。
- ・発達障害者のひきこもりの人は、自分の興味のあるものなら、「取り組もう」とか「行ってみようかな」と思えます。職親をふやし、多分野の活動があるといいと思います。
- ・無理に居場所に参加させなくても良しとしたいネットを通じた交流、就労も考えられるのではないだろうか？そこから、生まれる信頼関係も脱出のきっかけになると思う。

・居場所の考え方にもよるし、本人の社会的自立への段階の程度も様々なので、一人一人の実態に応じた居場所づくりが望ましい。活動できない本人にとっては、ただそこに来るだけでも良いのではと思います。又、本人(経験者のみ)だけでなく、ひきこもり経験者でない人も行ける居場所でもよいのかなと思います。

・財政基盤の安定・居場所のあり方、心得などの学習会、研修・集団の中での(集団の力)をとひき出すかその力を借りて、家の中にいる当事者をどう脱出させるか。就労をめざす前にやらなければならないとがまだまだある。

・初めは就労をちらつがせない対応で！！

・居場所に出て行けない方へ。肯定感も必要かと思う。

・相談コーナー

・居場所に以前、いじめ、いやがらせをしていた者が当事者または、支援者と称して出入りする可能性が出た場合の対応や措置等検討しておくことも重要ではないかと考えます。

② 楽しめる活動・達成感のある活動

・確かに息子もパソコンは毎日の生活の中で重要部分です。対人関係が苦手ですが、スポーツは好きです。人とのふれあいが喜びに結びつく事が親の願いです。ゲームスポーツ等生産に結びつかない面の充実も望みます

・スポーツ、皆で昼食を作る、農作業など、まだひきこもり当事者や経験者としか話せない人の参加もできるような内容を、居場所の活動に含めてほしい。

・我家の場合本人は、パソコン等の勉強のようなものは好きでなく、体を動かす、商売(?)パン屋さんとか…そんなところがあるといいかなと思います。

・スポーツや昼食作り

・自由に過ごすことができる空間。

・「人が同様に居る状態で好きなことをできる」ような空間を(いろいろなものは置いてある。)用意する。「みなで一緒に…」のほかこんな空間もあればよいかな? ・ヘッドホン可? 楽器 ・画用紙、鉛筆、絵具 ・毛筆習字の道具 ・粘土・本・絵本・画集・コミックス・ゲーム

・ある会館もしくは個人宅でゲームであそびましょう、というイベントをしてひきこもりの子供を集める、そうするとゲームだけでなく、その子供どうしの交流の場を作ってあげる活動をする。

・ひきこもりの子だけの図書館。

・安心して行ける居場所、があると良いなと思う

・サークル活動など、同じ趣味を持つ人たちとふれ合い、共同で楽しめる場があると気持ちも明るく前向きに、コミュニケーションが深まるのではと考えます。人とのふれ合いで、社会への一步をつなげればと思います。

・その子にあった居場所を見つけるのは大変むづかしい課題があると思います。本人が何ができるか、何をやりたいか、解からずにいます。それでも少しでも希望をもたせるには情報を与え続けることが大切なのかなと今思っています。

・絵画創作、書道など芸術活動。ゲーム、トランプ、オセロ、奨(しょうぎ)、ご、など頭を使うもの、スポーツなど(チームでの)キャッチボールなどなど身体を使うもの。子供達と遊ぶ。日本語教室で日本語を教える。本の読み聞かせの会。学校の宿題をみる教室を開く。

- ・居場所でなにかみんなで楽しめることも必要ではないかと思います
- ・スポーツ(体力の充実)・コミュニケーション講座・読書・仲間との交流
- ・趣味で他人とつながるような場所作りを増やしてほしい
- ・大きな夢、毎日狭い部屋の中で素振りをしている姿をみて思うこと…青空のもと、良い汗をかいてストレス解消にもなりそうな野球ゲーム、ソフトボールゲーム等を楽しむような会ができればいいな…軌道に乗るまでは本人及び家族など老若男女入り交じって勝敗を競うのではなくあくまでもゲームとして楽しめたらいいな…将来てきには特性を理解して接してくださる専門のインストラクターのような方にスポーツを通して本人達と向きあってもらえたらいいな…そんな活動が全国に広がっていったらいいな…そして交流会が持てたらいいな…とりとめもなく…!

- ・他者とのコミュニケーションのため自由に気楽に話せる場所がほしい。
- ・各々が得意な事を教え合う(特技・趣味等)
- ・ひきこもり経験者がやってみたいと思う事を体験できる居場所であればと……
- ・本人と同じ状態の人達と交流、活動出来ることが大変良いと思います。
- ・まず、それぞれの地域に居場所(無料事で参加できる)をつくり、傷ついた心の人が多いので、コミュニケーションの楽しさを作り出す様プログラムを作してほしい。

- ・当事者本人の特性が生がされる居場所。・居るだけ。(自由にして)の日や場所。多いの音や会話がある日(場所)活動が明らかな〇〇教室の日(場所)等当人の意志で居て安心の空間、居場所づくり等、工夫が必要と思います。…ひきこもりのレベル?状態に応じた形、内容

- ・興味のあることを当事者から聞き出して無理なく活動ができることをさぐる。たとえば、ハーブさいばいとか雨の日では木工(はし作り、(スプーン作り 身近な工作から、達成感のよろこびを味わいながら少しづつ

- ・パソコンやテレビ等のハード面では取り扱い説明があれば説解力がある方(息子)と感じますが良い出会いがあればひとつの外て出るきっかけになる?と思っています(親)

- ・主として金銭的理由から居場所がなかなか定まりません。料理を作り食べる作業は生活の根幹になるし、転業や趣味に結びつくこともあり得るので、大切にしたいところ。数人が集まれば自然発生的にしたいことがみつかればいいと思うけど難かしいのではのか?

- ・行きやすい雰囲気づくり

- ・作業だけでなく、リクレーション、あそびなど、メンバーで楽しくすごせる活動が必要。楽しさの共有から人間関係が短ます。

- ・子供はまだ動ける状態ではありませんが。もし未来において外に出る事ができれば、同じ気持の人がいるような所で時間を過ごして欲しいです。

- ・本人たちがやってみたいと思うことを支援できる体制

- ・趣味をみつけ、それを続けていける環境づくり

- ・本人が少しでも興味を示す場所を望みます。

- ・我家では、豆をひいて、食後にコーヒーもいれてくれるので、居場所でもお茶かのめるといいですね。・各自、得意な事をもちよって、何かできるといいと思います。

- ・たよりにされて動き、必要とされていることで自信を持てるのではないか。（子供や老人との関わりで「ありがとう」と言われるようなことができれば良い）
- ・一緒に遊べる遊具をそろえている。（トランプ、ゲーム etc）

③ 居場所へつなげる支援

- ・居場所へ連れて行けるようするには、どう親が動けばよいのか、わかりません。提案しても本人が動かないかぎり居場所へは連れていけません。就労にむけてというのに、お金が、かかるのもわかります。1人親で高額な支出は無理です。生活していくので精一杯です。もう少し安すければ理用できるかもしれませんが、現状は、なかなかわかってもらえない。
- ・ひきこもり相談を何か所か行って来ましたが一方通行で1時間〜2時間家の事を根ほりはほり聞いてただそれだけ何の解決にならなかった プライバシーを侵害されただけでした本人に会いに来てほしい 本人が動かないのなら聞きに来てしまい待つばかりでなくそちらも動いてほしい家族がひっしな思いで出かけているたすけてほしい
- ・社会参加の話をする、と、「いきたくない」と言ってそこから話か？進まないのこまっています。居場所までに、自分で行ければいいのですが？
- ・居場所ができてそこに行ける中間支援が必要である。すぐに行ける人もいれば、そうでない人もいる。そしきこもりが長くなると外出している人でもだんだんあきて行き場所がなくなる。まずはちょっとひまがつぶせるフリースペース(お茶したり、自由にできる場所)になかなか行けない人が出向ける場所、これも確保できたらと思う。
- ・色々な居場所を作っても本人がその場所へ行く気になってくれないもので、どうしようもないと思います。
- ・本人がこのような場所に行く気にならないので、どんなによいサポートシステムが外部にあっても今はむなしいです。親の金で自分の趣味を enjoy 出来る限り社会に出る必要はないと感じている様で恐ろしいです。最近親の方でもこの子はひきこもりでなく生来のなまけ者なのだと思う様になっていて、ひたすら私自身がこの子から離れたいたいと思い始めていて、イヤです。
- ・居場所に行けない人のアドバイスがあるといいです
- ・居場所で、例えば「カフェ」がある場合は、手伝ったりする中で人とコミュニケーションをとる訓練になればいい。しかし、当事者が居場所に来ることが難しい。
- ・ひきこもり来た外に出られない若者については、例えば電話や訪問支援などを行って下さればと思います。外出できる様になった若者については、居場所がいろんな所で受け入れて下さればと思います。例えば、会社、工場などの一角に作っていただき、就労体験をさせていただけたらと思います
- ・私の子供は自分の部屋が居場所で外出はできません。今は、家族関係を良くし、子供との会話、意思疎通できることを毎日願い、両親が会、医療機関へと継続的なつながりを持っています。外に出て、自分の居場所を見つけることができれば、奇跡に近いです。自分の部屋以外にも居場所があるよと感じるには、相当の時間が要ると思う。今は、他者が入らない限り、「居場所」を知ることはできないと思う。
- ・居場所はずっとさがしています(本人)パソコン、講●、勉強したい 自分で●いてことなので

- ・まだ居場所に定期的に通うことができずにいるので。
- ・そういった場所があるのは、ありがたいですが、家の中でも自室にとじこもっていたりする場合、外出もできません。そういう家庭へのサポートをもっと充実させるべきだと思います。親も年取っていき、認知症になったりした場合、経済的にもどうしていったらいいのか、わかりません
- ・家の中から居場所などの拠点にいくまでどうあれば良いか？第三者が迎えに来てくれるのか？本人にその意見がなければ難しいと思われます。
- ・本人が居場所へ積極的に行くかどうか、疑問です。
- ・居場所を作ってもらっても、内容等に関係なく、その場所へ行こうという意欲が今のところありません。
- ・居場所に行ってみようかと云う気持ちに如何にしたらなれるかが問題。親が年令を取ってくると、現在の平和な暮らしをこわす事がこわくなり、挑戦的気持ちがなくなる。
- ・まだ参加すら出来そうもない。どうしたら行動させられるか悩んでいます。
- ・居場所にいくまでのハードルが高いのでそこまで考えられません ハードルが低く感じるようにするには親の考えがどうなればよいのか教えて頂きたいです
- ・色々な場所はありますが本人が出ないことには、解決しません。それから引きこもりの子供達には、今の日本社会で生きてゆくには今の就労講座では無理なような気がします。
- ・居場所まで行ける様になってほしいことが今の目好です。パソコンは私には解かりませんかやっています。
- ・居場所作りはとても大事な事だと思いますが、居場所に行けない人にまず、訪問支援をお願いしたいと思います。就労にむけに仲間作り、遊び等が我が子にはまだ必要です。
- ・私の息子もそうですが、会員のご子息もなかなかひきこもったまま。居場所にも出てこれない方々の方が多いです。居場所にでてこれればそこからつながる道は開けているのでしょうか。居場所にこれない人をどうするか私達の大きな課題です。
- ・居場所作りも大切だが、まず当事者の人たちが、どうしたら行けるようになるかそれが先だと思う
- ・ひきこもり経験者が家庭訪問をして下されば少しづつ変化するかも。
- ・まず人よりも動物(犬や猫)と関わったり、小さい子どもと関わったりすることはどうか。生まれ育った地域よりも、全く見知らぬ土地での(友人一あわせる顔がないという気持ちあり)活動の方が参加しやすいということはないか。
- ・居場所へも行けない、家から外へ動き出すことができない当事者を抱えております。
- ・まず、「居場所」などに連れ出すことができないで悩んでいます。
- ・そのような情報に接した事が無く分からない。・パソコンや趣味の世界がたくさん有れば、どれかに居場所ができるのではないかと思う。
- ・居場所へ出て行けないので困っている。

④ 収入を得られる活動

- ・パソコンを使ってネットのノウハウを持っている子が多くいると思うので香川大会の2日目第2分科会でテレワークの話があったように在宅でビジネスに結びつくものを、何とか出来ないと考えています。

- ・簡単な作業に参加(ボール箱、拆りなど)。介護分野での協力：高齢者のせんたくなど介護保健外の作業をうけおう(草むしり、そうじ、電気交換 etc) 高齢者への弁当。病院と協力と得て、そうじなどのうけお業。地域活動支援センターを居場所として、位置付けていくことはできないか。創造的な活動。何もせず、安心しておれる場所も必要ではないか。
- ・金銭的に○千円でなく、○万円の収入が得れる様な雇用創出の努力が必要。・社会的な認知が必要・宣伝行動地域の発参加 etc
- ・手伝い品の生産、販売(スイーツ、おやき、喫茶店。)
- ・木工、陶芸などの工芸、森林保全の仕事。たとえば、下草刈り、間伐など。指導して下さる人が必要でしょうが退職して。ボランティアとしてやって下さる方を見つけてはどうでしょう。場所は近年空き家が増えているので、容易に借りられると思います。子供それぞれで興味、関心が違うので、何を用意したらよいか、なかなか難しいと思います。
- ・障害者施設の用な、ひきこもり者のための作業所な様な施設が欲しいです。彼らは自分は障害者ではないと思っています。ひきこもりの居場所の様な所で軽作業で少しだけ収入のあるそんな場所が欲しいです。社会に出れなくても家族には金の負担をかけたくないと思っているから。
- ・たとえばシルバー人材センターのような組織があれば、短い時間、必要に応じて働けるのでは。
- ・特産品の受付、発送、配達。特産品の製造工程への参画。先進企業(団体)に具体的に指導をいただき、当事者に就労の充実感を体感できる機会を創る必要を痛感
- ・労働して、お金を得るということは、ひきこもり経験者にとって、労働の喜びと、自己肯定感を得られ、安心して、働ける。居場所を作りサポートすることはとても大事なことだと思います。人間は3食食べるので、やはり、自立のためにも、食事作りを学んでお弁当屋さんやレストランを作り、働けるといいと思っています。(お母さんたちのサポートも必要)
- ・ひきこもりの人はパソコンが好きな人が多いと思う。それをいかした、低金でも、活躍できる場があると幸いです。それは、ひきこもり経験のある人が苦手とする、雰囲気でないところが望ましい。そんな社会は甘くないと、いわれるかもしれないが、ひきこもりの人の居場所としては、理解できない人がいるとまず難しいと思う、最一足としては。
- ・ひきこもり経験者一人一人にアンケートを取って、どんな事をしたいのか聞いて、出来そうな事を一つずつ実行して行く。高齢者世帯を訪問して、草取りをしたり、そうじをしたり、年賀状に制作をパソコンでやったり、ゴミをかたづけたり。べんり屋でやっているような仕事をさせてもらう事で、コミュニケーション能力をつける。
- ・長くひきこもっているといきなり社会に出るのは、むずかしいので、居場所での活動が一步前に踏み出すステップになるのでは、と思っています。野菜作りで、生産、販売したり、内職的なことをして、少しでも安心して働く場所が与えてもらえることも、自立への自信につながって行くように感じます。
- ・野菜作り、料理講習会、レストラン経営。
- ・行政、社会的に評価されている団体と共にできる活動。特産物に限らず地域のものをできるだけ利用する(地産、地消)を根付かせるとりくみを行政と供にする。介護というか要介護を引き取るだけ避けるための活動の手伝いというか供に活動する(障害者でもお年寄りでもできることがあります)

- ・居場所でおこづかい程度のお金がもらえる作業等があれば良いと思います。
- ・田舎の土地を借りる等して農業、花の育成など対“人”ではなく対“自然”となる作業
- ・居場所で、人に慣れてほしいが、本人は、年令も高く、働きたい方に気持ちいき実際作業所に行くが2〜3日しか続かない状況です。
- ・居場所など、本人は行きたがりません。自分が引きこもりと認めなくてはならない所に、誰が行きますか。彼らはプライドが高いのです。それよりも、収入が得られる場所を作ってください。居場所でお金が稼げるなら行きたいと思うでしょうが、現実問題として、微々たる収入しかない作業所を本人に嫌がっています。「社会における会社に行くのは怖い。しかし、稼ぎたい。」『慣れた場所なら働ける』〜これがワガヤの本人の気持ちです。企業に勤務する前段階、正当な報酬をもらえる安心して働ける就労場所を作ってください。
- ・収入を得られることが必要！居場所で色々学ぶことができる。友人と知り合える。飯を提供してもらいたい。
- ・詳しくは知らないのですが、シルバー人材センターの仕組みを参考にできないのかなと思う。
- ・地域特成を生かした生産性のある軽作業(軽食関連、喫茶、国芸等)
- ・共同作業所等
- ・パソコンを活用しての就労(内職)
- ・対人怖症の人達には、自宅でできる仕事を提供してもらい、自信をつけてから、少しずつ外へ出て行けたらと思います。対人的には問題のない人達は皆でできるボランティア活動とか、農業、牧畜などの生産活動への参加し、興味をもったり、人と触れ合う楽しさを知ることから始めるのがよいのではと思います。
- ・ひきこもり経験者の趣味が生かせる活動　・模型づくり・音楽・洋服づくりなど　簡単な作業が出来、賃金をいただける活動
- ・農業法人での活動、自立、起業。個々の特性が発見できる。
- ・我々家も兼業農家であるが後誰がいない全国どこ見ても同様である。農業県村うまく若者を育成して行けば自立できる可能性も充分ありえるまだこの次元まで至る前に農業体験できる。居場所ができていない
- ・パソコンを使った仕事。
- ・農業がおすすめだと思う。のびのびとできる仕事。むつかしくない、自信をもって出来る仕事がいいと思います。
- ・内職　・農作業

⑤ 就労に向けた活動

- ・農業生産体験
- ・1日だけの就労体験
- ・資格取得の為の講座(週1〜2回からはじめて無理なく通える環境)
- ・内職パン作り
- ・食事ができる　・就労にむけての話し合い・仲間との語らい

・肉体労働だけでなく。又、パソコンだけでなく。デスクワークの経験接客、などの体験もできたら良いです。（介護の仕事なども、いいのでしょうか、現状では、賃金がとても低く勧められない。政治的に解決して欲しい。

・居場所は中間的なのでしかたかないが、パソコン、ワーブロー応できるようになっての、それからの活用(どうする)が確立されてないので、「宝のもちぐされ」的になるし活用しないと忘れたり、にぶったりすると思う。それから先はハーローワークへというふうに、続いてないのでどうにもなれない

・本人は簡単に仕事がさがせると思っていたようですが思うように行かないようです。支援センターでの講習会に参加して友達となった方の手助け（ボランティア）をしているようです。将来は便利屋になりたいと望んでいます。

・先日、図書館に行ったら、その日が申し込み大切りの臨時職員 1 名の募集の貼り紙を見て、直ぐ、娘に LINE しました。娘は「図書館なんて大卒でないと駄目に決まっているじゃん」と。「確かに」と思いつつ、公共の場所であるし、特例として、大卒でもなく、不登校、引き込みりでも、図書館の規模が小さくて、適性等、考慮の上、受け皿をして、考えて下さると、良いなあと、考えた 1 日でした。色々な所へ雇用の場所を広げて頂く事をお願いします。

・講座を受けて、就労に役立つということがある程度あればいいのですが、受けて、何になるという気持ちにならないように、つながるようにしてほしい。

・今、現在、就労移行支援機関に通い始め、やっと毎日、行く所が出来た感じで、よい方向に向かっていると思う。もっとたくさん様々な内容の就労準備の場所が出来ると有難く思います。

・働きたいと思う人には就労準備プログラム、研修など、きめ細かい支援をする。

・在宅就労で自立できるためのスキルアップ支援（例）e ラーニング

・〇〇教室的なもの...書道、絵画、手芸、料理(クッキー食事...etc)ギター等育乐的農作業、マンが本等の感想の話し合い。

・まずは人に慣れること、一緒に楽しく過ごせるスタッフが必要。真面目で社交不安が強い人は、楽しく過ごせるようになって、自分なりの上手なストレスマネジメントの方法を見つけることが出来れば、長期の就労にも耐えられるようになると思う。

・会のパソコン教室を行きだした、少しはできるのでこれからだ。

・外に出ないと社会参加できないということはないはずなので、家にいながらにして就労準備のスキルを獲得したりネットを活用しての就業体験などできる場があっても…のでは…と感じている。

・在宅ワークの中でひきこもっていてもできる仕事をリストアップし、職安と連携してひきこもっている人が安心して応募できる環境がほしい。

・本人は 13 年間就労した経験があり自分の専門であるカウンセリングに興味も持ち認定カウンセラーとして勉強中、コミュニケーション能力もあり今後活動する場を模索しています。最近コンビニでアルバイト等も行ない自立の方向を目ざしているようですが親として就労支援事業として「カレー屋」を行なっていますが当時者が調理師の資格や、自動車運転免許書を取得する等。前向きになっているのかとてもうれしく思っています。

・協力者、支援者の拡大に取り組み、自立支援に繋げていくことが重要です。就労支援とともに様々な経営者等の協力を得ながら、就労体験（数日から数ヶ月ものや職種も増やしたほうが良い）事業の拡充を行う。ハローワークなどとも連携を蜜にして、就労支援を行う。アルバイト体験事業を創設することなどが考えられます。なお、いずれも行政側の法制など整備、資金面での協力が不可欠です。

- ・就労のための情報 支援
- ・色々な就労場所の経験
- ・"情報処理技術資格や多様な表現活動（ロボット製作や陶芸や絵画、演劇、料理づくりなど）の充実。個性を尊重してほしい"

⑥ 社会的自立に向けた活動

- ・挨拶の練習。
- ・社会的自立に必要な事は、自分で考え行動して、反省や、決断の結果を内省して、対策する力や、会話、打合せ、検討、協議する、訓練等が必要で、即作業する事は難しいと思います、引きこもる事で他人とのコミュニケーション不足が自信のなさや、不安感として、表出するので、難しいが、親しい人達との語らいや遊びコミュニケーションを通して、仲間意識が出てくると行動が活発化してきます。
- ・コミュニケーションを取れるように練習する学習会。
- ・居場所＝社会的自立場所＝労働。
- ・居場所と企業が連けいして就学準備活動をしていただければ…
- ・今年度助成を頂き、月に4回、人パソコン教室や体力作り料理講習等社会的自立に向けて活動しています。
- ・自分の能力の限界まで挑戦でき、達成感が味わえるもの。簡単すぎる作業ではないもの。
- ・本人が出ていこうとしないのでなかなか自立させる事がむずかしい
- ・居場所においては、当事者間のトラブルもあるため、専門スタッフを置き、デイケアプログラムやSSTなど取り込めてみてはどうか。
- ・食事づくりなど
- ・メンタルトレーニング会話の訓練
- ・TPO などなど
- ・新聞を読むように促してほしい 新聞記事を切ることを教えてあげてほしい 政治に関心を持たせてほしい
- ・ひきこもって家を出られない子供として、出て行く勇気が有りません。居場所で考えるには、極端な提案として、家を出し、共同生活、カウンセリング、就労の機会として、農業を通して社会に出れる訓練施設としての農業法人を作り、気力体力の回復をさせたい。親の精神的負担が、親自身の高齢化の為に必要。民間のシェアハウスとして取り組んで成功事例が有るなら、資金援助して、多くの施設を作る。どれだけのひきこもりがどんだけ、どんな状況で存在するか把握の方が先では？

⑦ ボランティア活動

- ・野菜づくり、除雪等のボランティア活動。

- ・ボランティア
- ・数日(2〜3日)のボランティア活動(宿泊)を取りまとめ手配してもらえ(販売の手伝い)があれば家離れと他人との交流が出来そう。(本人ボランティアしたい気持有り)
- ・特に障害があるわけではない、又はグレーゾーンの若者が軽作業、文化活動、伝統工芸などが続けられる場(無報酬で)が身近に欲しい。
- ・老人ホームなどのボランティア活動
- ・地域で必要とされているボランティアをする活動。
- ・就労準備等はまた先の先、かんたんな手仕事(ボランティア)などをしながらおしゃべりをしたりただなんとなく行ける場所があればいいと思っています。
- ・ボランティア活動

⑧ 地域住民との交流

- ・若者と認知症カフェに来るようなお年寄り等が居場所に集まり、一緒に何かをしたり好きなように過ごす、ひきこもり者はやさしい人が多くお年寄りの生活テンポと違和感ないのではないかと思います 会話したりお互いに刺激になり脳の活性化につながるのでは…さらに高齢者施設への就労につながるかも…と思います。
- ・当会においての居場所はありません。●市の引きこもり子供の居場所を会から紹介されている 会で居場所を作るより模のつながりをもっと、密にする事が大事。何んでも自分がという私の心を捨て模を広げて支援を受けることが大事。“一人では何もできない”だからこそ模のつながりが大事
- ・地域包括センターを活用し、高齢者と交流
- ・特殊な活動ではなく、一般の方との交流をもっと増やして欲しいと思います。
- ・高齢者とのふれあい または、園児とのふれあいなども良いと思う(ボランティア活動)

⑨ その他

- ・アンケート提出が大変おそくなってしまいまして申し訳ございません。
- ・居場所へ行かれるよう、うながす仕方を勉強したい。15年以上一歩もマンションのドアより出ていない状態を一歩でも出るための方策
- ・別になし
- ・外出でき、パソコン教室、料理会、ウォーキング、野菜つくり農作業等何か少しでも、できる人はどんどん良くなっていますが まったく、絶対に外に出ない、話さない、昼夜逆転している私の子供の場合は、時間の経過だけで、本人が何を考えているか？それは、その状態が一番本人が気がやすまず(安心)していると思い無理に外出させない方が良く、引きこもりが最良と考えています。人間の一つの種類で居場所は不要ですね。
- ・今年の 8/31 以降劇的に変化の毎日(ほぼ)車自転車、電車等を使い行動している 母親とのコミュニケーションはとれるもの他は仲々ハードルが高いようです。居場所等進めてはいますが今一歩動けない状態です。
- ・ひきこもり経験者、外へ出られるようになりつつある若者が集まりつつあります。それとは別に私の子供の様な場合がどんなことができるか考えています。
- ・すべてをお母さんにまかせるのではなく夫も責任を共有してもらいたい

・パソコン、スマホも怖がって使いません、彼の気持ちを肯定していると自立の手立ても見えず、困っています

・まだよくわかりません。

・本人自身が考へを変へる為の智慧が知りたい。

・特になし

・本人が動くことができないので親に対する支援を希望します

・全国に「ひきこもり」がどれくらいいるのか、正確な数字は出されていないと思う。国勢調査並みの調査が必要ではないか。小中学校の現状を見ると、不登校の子は依然として減っていない。これからもひきこもりは、増えていくものと思われる。以前、NHKで放送されていたような指導者がもっともってほしい。

・現在、複数の団体で役員として活動しておりますが、収入の事で一人になった時に生活ができるのか、一番の心配です。

・居場所に行く前に協同生活の場所かほしい(村的な)

・サポートステーションなどに相談する

・心の余裕なし

・不登校、ひきこもりの子は感性が普通の人の何倍も成長しているにもかかわらず、普通の人にあわせようと、とりやりおしこんでいる様な状態で自分はこんなことがしたい(才能)と感じていたものをすごく我慢している この枠をはずし、我慢しなくていいんだよと安心して自分の才能をみつけ、のばしていつてあげたい 今、子供の才能をさがしはじめた所です。山に一人で行くという。

・今はわからない。

・まったく外出はないので、居場所は考えられない！

・当人がひきこもっている間は居場所にすら出ていけないのが実情です。田舎では、交通手段すらない。第3者の訪問等が必要ではと思います。

・今、心療内科、そしてハローワークを通して、事業所に仕事に通っています(半日)本人が技術も資格も持っていないため親としてはハンディを感じます。気もちも強くないため。普通の人が行っている食場は無理だろうと思います。残念ですが。

・親の私が多忙で考えていられません。

・わかりません

・それ以前の問題で全くわからない

・まだ地域には地域の行事に参加させれば良いではないか等 当事者への理解が悪い人達が多いと思います

第五部 全体のまとめ

1. ひきこもり本人の年齢の推移

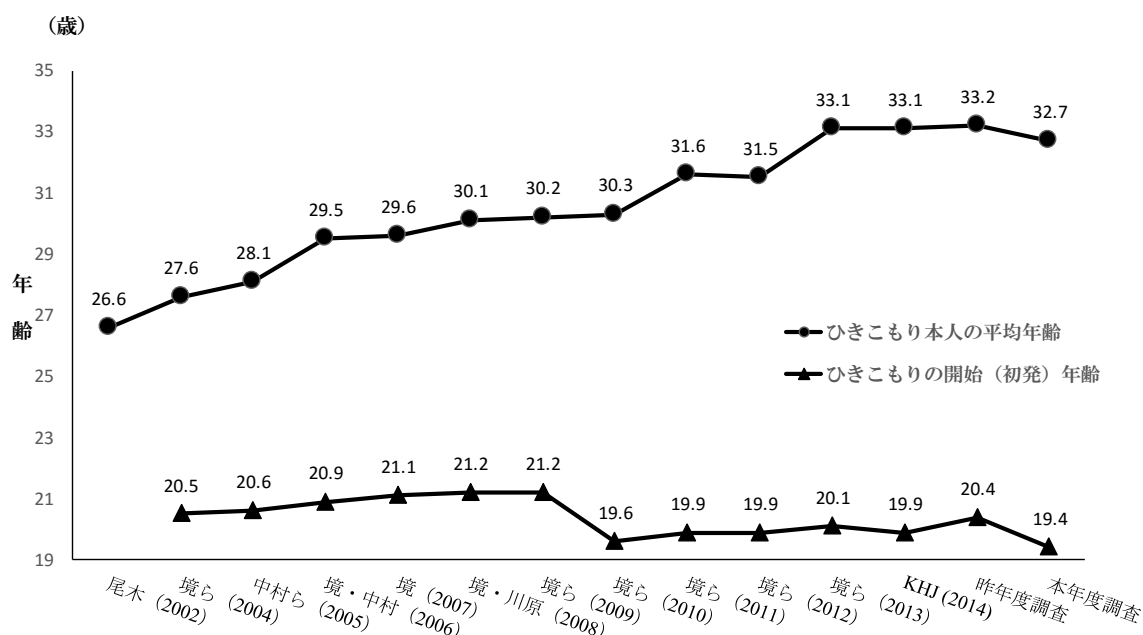


図4－1 ひきこもり本人の年齢の推移

当会の調査を開始した2002年以降のひきこもり本人の年齢の推移を図4－1に示します(境ら, 2004, 2006, 2007, 2008, 2009, 2010, 2011, 2012, 2013; 中村ら, 2005; 特定非営利活動法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会), 2014; 特定非営利活動法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会), 2015)。ひきこもり本人の平均年齢は、本年度32.7歳となり、昨年度からの年齢の上昇は見られませんでした。2013年に約33歳に至って以降、ご本人の年齢の上昇は認められていません。このことは、当会の会員の入れ替わりが起きていることを示している可能性があります。また、家族調査の表3－1で回答者の居住都道府県が多様になっていることでも示されているように、近年、当会では新しい支部が数多く立ち上がっており、新支部に所属する新しい会員が回答者に含まれたことが年齢の上昇の歯止めに影響している可能性があります。この仮定が正しいとすると、本調査は例年よりも多様なひきこもりケースの現状を反映させたものであると考えられます。

ひきこもり本人の年齢に関する実態調査では、調査対象とした15～34歳のうち、30～34歳がもっとも多いことが示され(東京都青少年・治安対策本部, 2008)、民生委員・児童委員に対する全年齢を対象としたアンケート調査では、30代がもっとも多い(山形県子育て推進部 若者支援・男女共同参画課, 2013)、40代がもっとも多い(島根県健康福祉部, 2014; 山梨県福祉保健部, 2015)ことが示されており、当会の本調査と同様、ひきこもり本人の年齢は30代以降が多いことは一貫した結果となっています。今後、ますます高年齢化が進む可能性があることを踏まえると、30代、40代以降の方への支援のあり方を再整理することが求められるでしょう。

その一方、ひきこもりの開始（初発）年齢については、従来よりもやや低い年齢という結果でした。この結果も本年度の調査が、例年よりも多様なケースの現状を反映している可能性があります。ひきこもりの開始年齢に関しては、中学校入学から 20 代のひきこもり好発期における予防的対応の重要性を一貫して示唆しているものと考えられます。

2. ご家族の年齢の推移

2006 年以降の当会の調査における、ご家族の平均年齢の推移を図 4－2 に示します。ご家族の平均年齢は、全体的には上昇を示していますが、本年度調査では昨年度よりもやや年齢が低下しています。この結果は、ご本人の平均年齢の推移とも一致しており、相次ぐ新支部の設立等による当会の会員の入れ替わりが生じている可能性があります。その一方で、全体的にはご家族の高年齢化が示されており、現時点で定年を迎えるご家族が多だけでなく、今後さらに定年を迎えるご家族が増加することが推測されます。このことを考慮すると、ご本人やご家族の高年齢化による生活困窮化を防ぐための対策を促進することが喫緊の課題であると考えられます。

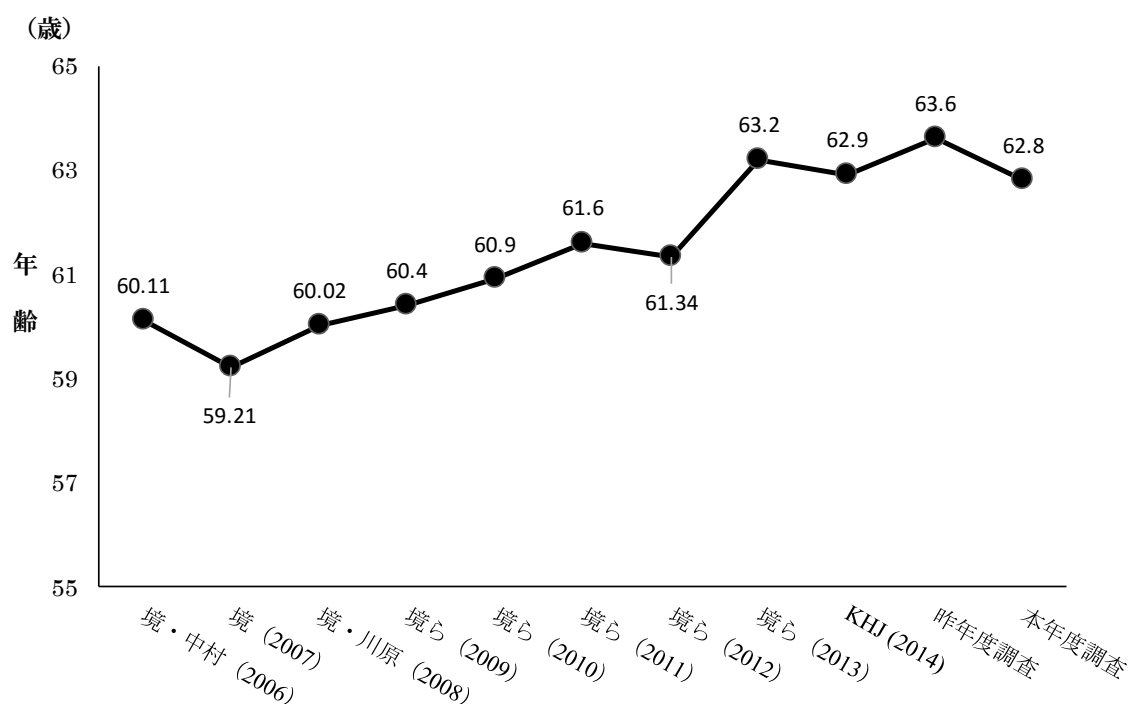


図 4－2 ご家族の平均年齢の推移

3. ひきこもり期間の推移

家族調査において、2005 年以降のひきこもり期間の推移を図 4－3 に示します。ひきこもり期間は、昨年度調査でひきこもり期間の減少を示しましたが、本年度調査では 2005 年以降最長の期間を示しました。昨年度のひきこもり期間の減少は一時的なものであった可能性があります。また、この結果はご本人の年齢が上昇していないことや初発年齢がやや低年齢化したことと一致する結果であると考えられます。引き続き、来年度以降のひきこもり期間の推移を調べていく必要があります。

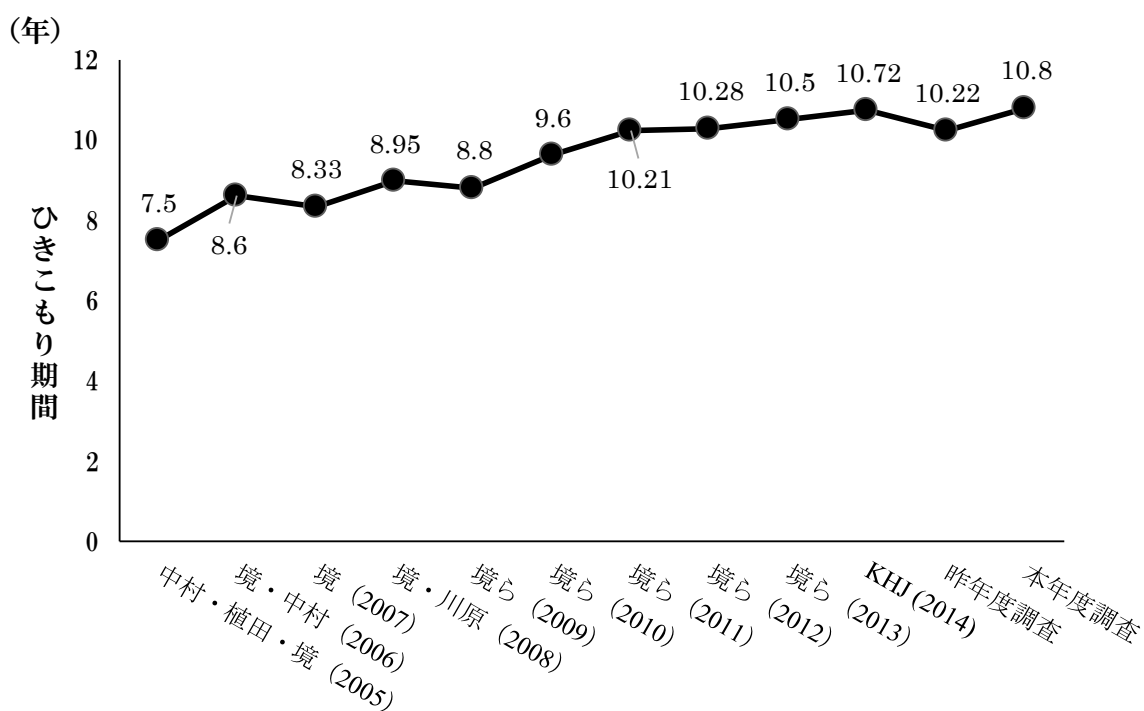


図 4－3 ひきこもり期間の推移

おわりに

ひきこもりピアサポーターの養成を始めて3年が経過しました。ひきこもりピアサポーターとして認定された人も増え、継続的研修と実践の場が広がりつつあります。この数年のNPO 法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会（以下、KHJ 家族会）の躍進を象徴する一つの事業となりました。

本年度の実態調査では、これまでにない新しい試みを行いました。それは、2013年に回答した頂いた家族の方々への追跡調査です。ひきこもりの実態に関する追跡調査はほとんど実施されていない中で、100名を超える家族の方々が追跡調査に協力してくださったのは画期的な正解であったといえます。

追跡調査の結果を見た最初の印象は、2年前とほとんど変わっていないという事実です。状況があまり変わっていないからこそ追跡調査に協力してくださったのというご家族も多いかと思いますが、それを加味しても2年間経過して状況に変化がないという事実は、長期遷延化したひきこもり問題の根深さを物語っているように感じます。

これから KHJ 家族会には、長期化、高年齢化した事例への対応が求められています。こうした期待に応える一環として、本年度、地域におけるひきこもり支援ガイドブック（以下、ガイドブック）を作成いたしました。今後はこのガイドブックを踏まえた、ひきこもり支援の構築と普及が期待されます。

平成 28 年 3 月吉日

調査事業委員長 境 泉 洋
（徳島大学大学院 SAS 研究部准教授）

調査事業委員 野 中 俊 介

引用・参考文献

- 平野真理. (2010). レジリエンスの資質的要因・獲得的要因の分類の試み 1) —二次元レジリエンス要因尺度(BRS)の作成 パーソナリティ研究 19, 94-106.
- 小牧一裕・田中國夫. (1993). 職場用ソーシャル・サポートの効果 関西学院大学社会学部紀要, 67, 57-67.
- 西出隆紀. (1993). 家族アセスメントインベントリーの作成—家族システム機能の測定, 家族心理学研究, 7, 53-65.
- 境泉洋, 斎藤まさ子, 本間恵美子, 真壁あさみ, 内藤守, 小西完爾, & NPO法人全国引きこもりKHJ親の会 (家族会連合会). (2013). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑩ —NPO法人全国引きこもりKHJ親の会における実態—.
- 境泉洋, 植田健太, 中村光, 嶋田洋徳, 坂野雄二, & NPO法人全国引きこもりKHJ親の会 (家族会連合会). (2004). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書① —NPO法人全国引きこもりKHJ親の会における実態—.
- 境泉洋, 川原一紗, & NPO法人全国引きこもりKHJ親の会 (家族会連合会). (2008). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑤ —NPO法人全国引きこもりKHJ親の会における実態—.
- 境泉洋, 川原一紗, 木下龍三, 久保祥子, 若松清江, & NPO法人全国引きこもりKHJ親の会 (家族会連合会). (2009). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑥ —NPO法人全国引きこもりKHJ親の会における実態—.
- 境泉洋, 中垣内正和, & NPO法人全国引きこもりKHJ親の会 (家族会連合会). (2007). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書④ —NPO法人全国引きこもりKHJ親の会における実態—.
- 境泉洋, 中村光, & NPO法人全国引きこもりKHJ親の会 (家族会連合会). (2006). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書③ —NPO法人全国引きこもりKHJ親の会における実態—.
- 境泉洋, 平川沙織, 原田素美礼, & NPO法人全国引きこもりKHJ親の会 (家族会連合会). (2012). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑨ —NPO法人全国引きこもりKHJ親の会における実態—.
- 境泉洋, 堀川寛, 野中俊介, 松本美菜子, 平川沙織, & NPO法人全国引きこもりKHJ親の会 (家族会連合会). (2011). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑧ —NPO法人全国引きこもりKHJ親の会における実態—.
- 境泉洋, 野中俊介, 大野あき子, & NPO法人全国引きこもりKHJ親の会 (家族会連合会). (2010). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑦ —NPO法人全国引きこもりKHJ親の会における実態—.
- 山形県子育て推進部 若者支援・男女共同参画課. (2013). 困難を有する若者に関するアンケート調査報告書.

山梨県保健福祉部. (2015). ひきこもり等に関する調査結果.

島根県健康福祉部. (2014). ひきこもり等に関する実態調査報告書.

東京都青少年・治安対策本部. (2008). 実態調査からみるひきこもる若者のこころ―平成19年度若年者自立支援調査研究報告書―.

特定非営利活動法人全国引きこもりKHJ親の会（家族会連合会）. (2014). ひきこもりピアサポーター養成・派遣に関するアンケート調査報告書.

特定非営利活動法人全国引きこもりKHJ親の会（家族会連合会）. (2015). ひきこもりの実態およびピアサポーター養成・派遣に関するアンケート調査報告書.

資 料

資料 1 調査用紙（追跡調査用）

アンケートの説明

このアンケートは、昨年度にご協力いただいた調査において、「継続的調査への協力」にお名前や連絡先等を記載してくださった方にお送りしております。本調査は、ひきこもり状態の長期的経過を明らかにすることを目的としています。本調査の結果は、今後のひきこもり支援を発展させる資料として活用させていただきます。本調査の結果は当会のホームページにて公開し、その成果を広く普及させるよう努力して参ります。

本調査の趣旨をご理解いただき、是非ともご協力下さいますよう、お願い申し上げます。調査結果の解析において、個人名、個人の回答内容などは一切公表せず、個人情報の保護には最大限配慮致します。

全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）

調査にご回答頂く上でご注意いただきたい点

- ① 本調査では、このアンケートに答えていただいている方（ご家族など）を「あなた」、ひきこもり状態にある（あった）方を「ご本人」と標記しています。
- ② この質問紙には、正しい答えや間違った答えというはありませんので、他の方とは相談せずに、お一人でご回答ください。
- ③ ひきこもり状態を経験された方一人につき、一部の質問紙に、お一人でご回答ください。

この用紙は、切り離してお持ち帰りください。

次のページ以降の用紙のみ回収いたします。

本調査について何かございましたら、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

調査実施担当者連絡先

〒170-0002 豊島区巣鴨3-4-4

NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）事務局

Tel 03-5944-5250 Fax 03-5944-5290

E-mail : info@khj-h.com

ホームページ : <http://www.khj-h.com/>

ひきこもり状態の長期的経過についての研究

1. この質問紙調査の目的は何ですか？

この研究は、ひきこもりの支援に役立てるためのものです。ひきこもり状態の長期的経過を調べています。

2. 参加の義務がありますか？

参加は完全に任意です。理由なく参加を拒否したり途中で参加を止めることができます。

3. 参加する場合は何をすればいいのですか？

どのくらいかかる？	10分程度です。
何をすればいいの？	(1) 下のインフォームドコンセントにチェックしてください。 (2) 1～4 ページの質問紙に記入してください。 (3) 記入後、返信用封筒に入れて返送してください。

4. 個人情報は保護されますか？

あなたが提供した全ての情報は機密扱いされ、研究チームのメンバーのみが閲覧することができます。個人を特定できる情報は何も公開されません。

お読みいただきありがとうございます。ご質問等は調査実施担当者連絡先にお問い合わせ下さい。

●インフォームドコンセント●

チェック (✓)

1. 私は情報提供書を読み、疑問点を質問する機会を与えられました。
2. 私の参加は任意であり、いつでも理由なく参加を取りやめることができることを理解しました。
3. 私が提供した情報は、安全かつ機密に扱われ、研究の目的が達成された時点で処分されることを理解しました。
4. この研究に参加します。

☐
☐
☐
☐

A. 以下の質問について、該当するところに○をつけてください。

1. ご本人は現在、社会的参加（義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など）を回避し、概ね家庭にとどまり続けている状態（他者と交わらない形での外出をしてもよい；以下「ひきこもり状態」と表記する）ですか？

→ a. はい b. いいえ

B. 以下の質問について、該当するところに○をつけるか、下線部に具体的に記入してください。

1. ご本人からみての、あなたの立場をお答え下さい。
a. 母親 b. 父親 c. その他（具体的に_____）
2. あなたの年齢をお答え下さい：（_____歳）
3. ご本人の年齢をお答え下さい：（_____歳）
4. あなたとご本人は：
a. 同居 b. 別居（別居してから_____年_____カ月）
5. 以下の質問は、ご本人の最近2週間（別居の場合、知りうるかぎり最近）の状態についてお聞きするものです。それぞれ当てはまるもの1つを丸（○）で囲んでください。

	全く 当ては まらない	あ まり 当て は ま り ない	少 し 当て は ま る	非 常 に 当て は ま る
1. 自由に外出する	○	1	2	3
2. 対人交流が必要な場所に行く	○	1	2	3
3. 対人交流が必要でない場所に行く	○	1	2	3
4. 家庭内では自由に行動する	○	1	2	3
5. 家庭内で避けている場所がある	○	1	2	3
6. 自室に閉じこもる	○	1	2	3

6. ご本人の現在の1か月の平均外出日数をお答えください。

→ 1か月につき平均（ ）日

7. ご本人との会話はありますか？： → あり ・ なし

8. ご本人 は、ひきこもりに関して支援・医療機関等を利用したことがありますか？

a. はい → (①継続的に利用している ・ ②継続的に利用していない)

b. いいえ



利用したことがある機関は何か所ですか？ () か所

9. あなた は、ひきこもりに関して支援・医療機関等を利用したことがありますか？

a. はい → (①継続的に利用している ・ ②継続的に利用していない)

b. いいえ



利用したことがある機関は何か所ですか？ () か所

10. 経済状況にはどのくらい困っていますか？ 0を全く困っていない, 50 をどちらでもない, 100 を非常に困っているとして, 0~100 の数字でお答えください。

→ ()

11. ひきこもり本人との関係にはどのくらい困っていますか？ 0を全く困っていない, 50 をどちらでもない, 100 を非常に困っているとして, 0~100 の数字でお答えください。

→ ()

12. ひきこもり本人以外の家族との関係にはどのくらい困っていますか？ 0を全く困っていない, 50 をどちらでもない, 100 を非常に困っているとして, 0~100 の数字でお答えください。

→ ()

13. ひきこもり本人への対応にはどのくらい自信がありますか？ 0 を全く自信がない, 100 を非常に自信があるとして, 0~100 の数字でお答えください。

→ ()

C. 以下の「ひきこもりピアサポーター」に関する質問について、あてはまるところに○をつけるか、下線部に具体的に記入してください。なお、ひきこもりピアサポーターとは、ひきこもりに関するピアサポート（同じような立場を経験した人によるサポート）活動を行う ひきこもり経験者 及び その家族 のことを言います。

1. あなたがピアサポートを受ける場合、どのような方のピアサポートを望みますか？ あてはまるものすべてに○をつけてください。（複数回答可）

a. ひきこもり経験者

b. ひきこもり経験者の親

c. ひきこもり経験者の兄弟姉妹

d. その他（具体的： ）

2. ひきこもり経験者 から下記の支援を受けたことがありますか？ 当てはまるものすべてに○をつけてください。（複数回答可）

A. ある → 具体的に

B. ない

- | | |
|---------------|--------------------------------|
| a. アウトリーチ（訪問） | b. 学習会・講座・体験発表 |
| c. 宿泊型の生活の場 | d. ピアカウンセリング |
| e. 居場所・中間施設 | f. 就職相談・就労支援 |
| g. 茶話会（親の集まり） | h. その他（ ） |

3. ひきこもり経験者の家族 から下記の支援を受けたことがありますか？ ある場合は、受けたことがあるものすべてに○をつけてください。（複数回答可）

A. ある → 具体的に

B. ない

- | | |
|---------------|--------------------------------|
| a. アウトリーチ（訪問） | b. 学習会・講座・体験発表 |
| c. 宿泊型の生活の場 | d. ピアカウンセリング |
| e. 居場所・中間施設 | f. 就職相談・就労支援 |
| g. 茶話会（親の集まり） | h. その他（ ） |

4. 以下の質問は、あなたがピアサポートを受ける場合、ひきこもり経験者 に望む支援についてお聞きするものです。当てはまるもの1つを丸（○）で囲んでください。

	全く 当ては まらない	やや 当ては まらない	少し 当ては まる	非常 に当て はまる
例 経済的支援を望む	○	1	2	3
1. アウトリーチ（訪問）支援を望む	0	1	2	3
2. 学習会・講座の講師を望む	0	1	2	3
3. 宿泊型の生活の場のスタッフを望む	0	1	2	3
4. ピアカウンセリングを望む	0	1	2	3
5. フリースペース（居場所）スタッフを望む	0	1	2	3
6. 親の集まり・茶話会での話し相手を望む	0	1	2	3
7. 就職相談・就労支援を望む	0	1	2	3
8. 支援機関の情報提供を望む	0	1	2	3
9. その他（具体的に：_____）を望む	0	1	2	3

5. 以下の質問は、あなたがピアサポートを受ける場合、ひきこもり経験者の親 に望む支援についてお聞きするものです。当てはまるもの1つを丸（○）で囲んでください。

	全く 当ては まらない	やや 当ては まらない	少し 当ては まる	非常 に当て はまる
例 経済的支援を望む	○	1	2	3
1. アウトリーチ（訪問）支援を望む	0	1	2	3
2. 学習会・講座の講師を望む	0	1	2	3
3. 宿泊型の生活の場のスタッフを望む	0	1	2	3
4. ピアカウンセリングを望む	0	1	2	3
5. フリースペース（居場所）スタッフを望む	0	1	2	3
6. 親の集まり・茶話会での話し相手を望む	0	1	2	3
7. 就職相談・就労支援を望む	0	1	2	3
8. 支援機関の情報提供を望む	0	1	2	3
9. その他（具体的に：_____）を望む	0	1	2	3

6. あなたは、ひきこもりサポーターになりたいと思いますか？

- a. 非常になりたい b. 少しになりたい
c. あまりなりたくない d. まったくなりたくない

●本調査についてお気づきの点がありましたら、自由にお書きください。



質問は以上です。記入漏れがないか、もう一度ご確認ください。
ご協力いただき誠にありがとうございました。

資料 2 調査用紙（ご本人用）

アンケートの説明

ご本人用

本調査は、厚生労働省の平成27年度社会福祉推進事業「ひきこもりに関する新たな家族支援の在り方の構築及びピアサポーター養成研修派遣事業の効果的実施に関する調査研究事業」の助成を得て実施しています。

本調査は、ひきこもり経験者の生活状況を明らかにすることを目的としています。本調査の結果は、今後のひきこもり支援を発展させる資料として活用させていただきます。本調査の結果は当会のホームページにて公開し、その成果を広く普及させるよう努力して参ります。

本調査の趣旨をご理解いただき、是非ともご協力下さいますよう、お願い申し上げます。調査結果の解析において、個人名、個人の回答内容などは一切公表せず、個人情報保護には最大限配慮致します。

調査の回答に際してご注意いただきたい点

この質問紙には、正しい答えや間違った答えというのはありませんので、他の方とは相談せずに、お一人でご回答ください。

このページは、切り離してお持ち帰りください。

次のページ以降の用紙のみ回収いたします。

本調査について何かございましたら、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

調査実施担当者連絡先

〒770-8502 徳島県徳島市南常三島1丁目1番地

徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 境 泉洋

TEL & FAX 088-656-7191

E-mail : sakai.motohiro@tokushima-u.ac.jp

〒170-0002 豊島区巣鴨3-4-4

NPO 法人全国引きこもりKHJ親の会（家族会連合会）事務局

Tel 03-5944-5250 Fax 03-5944-5290

E-mail : info@khj-h.com

ホームページ : <http://www.khj-h.com/>

ひきこもり状態・・・この調査では、社会的参加（義務教育を含む就学，非常勤職を含む就労，家庭外での交遊など）を回避し，概ね家庭にとどまり続けている状態（他者と交わらない形での外出をしてもよい）のことを言います。

A. 以下の質問について，該当するところに○をつけてください。

1. あなたは現在，ひきこもり状態ですか？ → a. はい b. いいえ
2. あなたは過去に，ひきこもり状態を経験されたことがありますか？
→ a. はい b. いいえ

1. 2. の質問に両方とも「b. いいえ」と答えた方は，ここでアンケートは終了です。
ご協力いただき、誠にありがとうございました。

B. 以下の質問について，該当するところに○をつけるか，下線部に記入してください。

1. あなたが住んでいる都道府県をお答え下さい。： _____ 都・道・府・県
2. あなたの年齢をお答え下さい：（ _____ 歳）
3. あなたの性別をお答え下さい： a. 男性 b. 女性
4. 以下の質問は，あなたの 最近2週間 の状態についてお聞きするものです。それぞれ当てはまるもの1つを○（丸）で囲んでください。

	全く 当ては まらない	あ ま り な い は ま	少 し 当 て は ま る	非 常 に 当 て は ま
1. 自由に外出する	0	1	2	3
2. 対人交流が必要な場所に行く	0	1	2	3
3. 対人交流が必要でない場所に行く	0	1	2	3
4. 家庭内では自由に行動する	0	1	2	3
5. 家庭内で避けている場所がある	0	1	2	3
6. 自室に閉じこもる	0	1	2	3

5. あなたとあなたの親は：
a. 同居 b. 別居（別居してから _____ 年 _____ カ月）

6. 下の例を参考に、あなたのひきこもり期間をお答えください。

(例) 19才から1年6か月間と、24才から5年3か月間ひきこもった場合

1回目：(19)才から、 (1)年 (6)か月間

2回目：(24)才から、 (5)年 (3)か月間

1回目：()才から、 ()年 ()か月間
2回目：()才から、 ()年 ()か月間
3回目：()才から、 ()年 ()か月間

7. あなたは、ひきこもりに関して支援・医療機関等を利用したことがありますか？

利用したことがある場合、継続的に利用していますか？

c. はい → ①継続的に利用している ・ ②継続的に利用していない

d. いいえ

C. 家族アセスメントインベントリー（FAI ; 西出, 1993）を使用

D. 自己記入式レジリエンス・チェックリスト（制作中）を使用

E. 職場用ソーシャルサポート尺度（小牧・田中，1993）を使用

F. 二次元レジリエンス要因尺度 (BRS ; 平野, 2010) を使用

●生活困窮者自立支援法に基づく自立相談支援事業が全国の都道府県、市町村で実施されています。自立相談支援事業においては、「生活困窮者の自立と尊厳の確保」、「生活困窮者支援を通じた地域づくり」という目標が掲げられています。

自立相談支援事業において、ひきこもり経験者とその家族を支援していく上で、「ひきこもり経験者とその家族の自立と尊厳の確保」、「ひきこもり経験者とその家族への支援を通じた地域づくり」という目標を達成する上での課題について、自由にお書きください。

●ひきこもり経験者の社会的自立に向けた居場所を全国に設置する活動を行っております。具体的には、就労準備のためのパソコン講座、当事者の雇用創出のための地域の特産物の発掘・生産、居場所活動に地域の理解を得るための活動などの全国展開を目指しています。

今後、さらなる居場所充実の参考にさせていただきますので、ひきこもり経験者の社会的自立に向けて、居場所のできる活動について自由にお書きください。

●本調査についてお気づきの点がありましたら自由にお書きください。

質問は以上です。記入漏れがないか、もう一度ご確認ください。
ご協力いただき誠にありがとうございました

資料 3 調査用紙（ご家族）

ご家族用（改訂版）

アンケートの説明

本調査は、厚生労働省の平成 27 年度社会福祉推進事業「ひきこもりに関する新たな家族支援の在り方の構築及びピアサポーター養成研修派遣事業の効果的実施に関する調査研究事業」の助成を得て実施しています。

本調査は、ひきこもり経験者の生活状況を明らかにすることを目的としています。本調査の結果は、今後のひきこもり支援を発展させる資料として活用させていただきます。本調査の結果は当会のホームページにて公開し、その成果を広く普及させるよう努力して参ります。なお、本調査は無記名で実施されます。

本調査の趣旨をご理解いただき、是非ともご協力下さいますよう、お願い申し上げます。記述内容や調査結果の解析から個人が特定されることはありません。また、アンケート用紙から個人を特定することはできないので、提出された調査用紙の返却はできません。

調査の回答に際してご注意いただきたい点

- ④ 本調査では、このアンケートに答えていただいている方（ご家族など）を「あなた」、ひきこもり状態にある（あった）方を「ご本人」と標記しています。
- ⑤ この質問紙には、正しい答えや間違った答えというはありませんので、他の方とは相談せずに、お一人でご回答ください。
- ⑥ ひきこもり状態を経験された方一人につき、一部の質問紙に、お一人でご回答ください。

この用紙は、切り離してお持ち帰りください。

次のページ以降の用紙のみ回収いたします。

本調査について何か疑問が生じたり、あるいは調査の過程で何か問題が生じた場合には、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

調査実施担当者連絡先

〒770-8502 徳島県徳島市南常三島1丁目1番地

徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 境 泉洋

TEL & FAX 088-656-7191

E-mail : sakai.motohiro@tokushima-u.ac.jp

〒170-0002 豊島区巣鴨3-4-4

NPO 法人全国引きこもりKHJ親の会（家族会連合会）事務局

Tel 03-5944-5250 Fax 03-5944-5290

E-mail : info@khj-h.com

ホームページ : <http://www.khj-h.com/>

ひきこもり状態・・・この調査では、社会的参加（義務教育を含む就学，非常勤職を含む就労，家庭外での交遊など）を回避し，概ね家庭にとどまり続けている状態（他者と交わらない形での外出をしてもよい）のことを言います。

A. 以下の質問について，該当するところに○をつけてください。

2. ご本人は現在，ひきこもり状態ですか？ → a. はい b. いいえ
2. ご本人は過去に，ひきこもり状態を経験されたことがありますか？
→ a. はい b. いいえ
3. ひきこもり状態にある人が，家族に2人以上いる方は次の問いにお答えください。
家族の中でひきこもり状態にある方の人数をお答えください。→ [] 人

2人以上いると回答された方は，ひきこもり状態を経験された方一人につき，一部の質問紙に，お一人でご回答くださいますようお願いいたします。

B. 以下の質問について，該当するところに○をつけるか，下線部に具体的に記入してください。

7. あなたが住んでいる都道府県をお答え下さい。： _____ 都・道・府・県
8. ご本人から見た，あなたの立場をお答え下さい。
a. 母親 b. 父親 c. 兄弟姉妹（具体的に _____）
d. その他（具体的に _____）
9. あなたの年齢をお答え下さい：（ _____ 歳）
10. ご本人の性別をお答え下さい： a. 男性 b. 女性 c. その他（ _____）
11. ご本人の年齢をお答え下さい：（ _____ 歳）
12. あなたとご本人の同別居をお答え下さい：
a. 同居 b. 別居（別居してから _____ 年 _____ カ月）
7. あなたが入会しているKHJ親の会支部会についてお答えください。
※複数ある場合は、活動している支部名をお書きください。
a. 会の名前（ _____） b. 入会していない
8. ご本人との会話はありますか？： → あり ・ なし

9. 下の例を参考に、ご本人のひきこもり期間をお答えください。

(例) 19才から1年6か月間と、24才から5年3か月間ひきこもった場合

1回目：(19)才から, (1)年(6)か月間
2回目：(24)才から, (5)年(3)か月間

1回目：()才から, ()年()か月間
2回目：()才から, ()年()か月間
3回目：()才から, ()年()か月間

10. 以下の質問は、ご本人の最近2週間（別居の場合、知りうるかぎり最近）の状態についてお聞きするものです。それぞれ当てはまるもの1つを丸（○）で囲んでください。

	全く 当ては まらない	あ まり 当て は ま り な い	少 し 当 て は ま る	非 常 に 当 て は ま る
1. 自由に外出する	0	1	2	3
2. 対人交流が必要な場所に行く	0	1	2	3
3. 対人交流が必要でない場所に行く	0	1	2	3
4. 家庭内では自由に行動する	0	1	2	3
5. 家庭内で避けている場所がある	0	1	2	3
6. 自室に閉じこもる	0	1	2	3

11. 以下の場所に、ご本人は外出しますか。それぞれ「有」と「無」のどちらか一方に○をつけてください。

1. コンビニ	有	無	11. 相談機関	有	無
2. スーパー	有	無	12. 観光地	有	無
3. 床屋	有	無	13. イベント関係	有	無
4. 趣味関係の店	有	無	14. 運動	有	無
5. 自動販売機	有	無	15. 友人宅	有	無
6. 外食	有	無	16. フリースペース	有	無
7. 図書館	有	無	17. ボランティア	有	無
8. 散歩	有	無	18. 職場	有	無
9. ドライブ	有	無	19. 学校	有	無
10. 親戚宅	有	無			

10. ご本人の現在の1か月の平均外出日数をお答えください。

→ 1か月につき平均（ ）日

11. あなたは、ひきこもりに関して支援・医療機関等を利用したことがありますか？ 利用したことがある場合、継続的に利用していますか？

e. はい → <①継続的に利用している ・ ②継続的に利用していない>

f. いいえ

14. ご本人は、ひきこもりに関して支援・医療機関等を利用したことがありますか？ 利用したことがある場合、継続的に利用していますか？

a. はい → <①継続的に利用している ・ ②継続的に利用していない>

b. いいえ

15. 以下の質問では、生活の中での現在の幸福感を検討することを意図しています。それぞれを回答するときに、あなた自身に次のような質問をしてください。

この領域では、私の生活はどのくらい幸せだろうか？

それぞれの領域について、もっとも当てはまる数字（1-10）を丸（○）で囲んでください。あなたが今日どのように感じているかを正確に示してください。

注意: できるだけ 今日 のあなたの感情のみに集中してください。他の領域の影響を受けないようにしてください。なお、経験している/いないに関わらず 今の状態の幸福感を回答してください。

	とても不幸せ					とても幸せ				
例) 飲酒	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
a. 家計状況	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
b. ご本人との関係	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
c. 家族関係	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
d. 全体的幸福感	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

●生活困窮者自立支援法に基づく自立相談支援事業が全国の都道府県、市町村で実施されています。自立相談支援事業においては、「生活困窮者の自立と尊厳の確保」、「生活困窮者支援を通じた地域づくり」という目標が掲げられています。

自立相談支援事業において、ひきこもり経験者とその家族を支援していく上で、「ひきこもり経験者とその家族の自立と尊厳の確保」、「ひきこもり経験者とその家族への支援を通じた地域づくり」という目標を達成する上での課題について、自由にお書きください。

●ひきこもり経験者の社会的自立に向けた居場所を全国に設置する活動を行っております。具体的には、就労準備のためのパソコン講座、当事者の雇用創出のための地域の特産物の発掘・生産、居場所活動に地域の理解を得るための活動などの全国展開を目指しています。

今後、さらなる居場所充実の参考にさせていただきますので、ひきこもり経験者の社会的自立に向けて、居場所のできる活動について自由にお書きください。

●本調査についてお気づきの点がありましたら自由にお書きください

以下の調査は、NPO法人全国引きこもりKHJ親の会が実施する全国調査とは別のものですが、報告書には結果を記載致します。ひきこもり状態のより詳細な実態把握のために行われる調査ですので、調査の趣旨をご理解頂き、ご協力頂ける方のみご記入下さい。特にご本人の様子についてたずねる調査が中心となっております。

生活状況に関する質問紙（制作中）を使用

D-1 ご本人は社会参加に関して困難感を感じていると思いますか？「まったく感じていないと思う：1」から「とても感じていると思う：10」のうち、もっとも当てはまる数字1つを○（丸）で囲んでください。

まったく感じていないと思う

とても感じていると思う

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

D-2 ご本人が1ヵ月以内に支援・医療機関を利用すると思いますか？「絶対に利用しないと思う：1」から「必ず利用すると思う：10」のうち、もっとも当てはまる数字1つを○（丸）で囲んでください。

絶対に利用しないと思う

必ず利用すると思う

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

質問は以上です。記入漏れがないか、もう一度ご確認ください。
ご協力いただき誠にあ

